

ソーシャルメディアを介して異性と交流する女性の心理と特性
Why and how do young women meet men through the Internet?

橋元良明 HASHIMOTO、Yoshiaki 千葉直子 CHIBA、Naoko
天野美穂子 AMANO、Mihoko 堀川裕介 HORIKAWA、Yusuke

目次

調査から得られた主な知見	橋元良明
0. 調査の概要	
0.1 調査の目的	橋元良明
0.2 調査の方法	千葉直子
1. ネットでの出会い	千葉直子
1.1 見知らぬ人とのネット上でのやりとりの経験	
1.2 見知らぬ人とネット上でやりとりをした理由	
1.3 見知らぬ人とネット上でやりとりをやめた理由	
1.4 見知らぬ人とネット上でやりとりをしない理由	
1.5 ソーシャルメディア上で公開している情報	
1.6 ネットで知り合った人数	
1.7 男性と知り合ったソーシャルメディア	
1.8 男性とネット上で知り合ったきっかけ	
1.9 男性とネット上でやりとりするときのふるまい方	
1.10 ネット上で知り合った男性とやりとりをやめようと思った経験	
2. 実際のお会い	堀川裕介
2.1 ネットでやりとりした見知らぬ人と実際に会った経験	
2.2 実際に会った人数	
2.3 実際に会って良かった点	
2.4 実際に会って良くなかった点	
2.5 実際に会った異性について誰かに話したか	

3. 危険性はどの程度認知されているか 天野美穂子
- 3.1 ネットでのやりとりや会うことの危険性の認知媒体
 - 3.2 話を聞いた危険性の内容
 - 3.3 話を聞いたときの感想
4. 現代女性のキタ・セクスアリス 橋元良明
- 4.1 性的規範意識
 - 4.2 異性との交際人数
 - 4.3 異性の交際タイプとその相手との関係性
 - 4.4 恋人以外の人と性的関係を持った理由
 - 4.5 恋人以外の異性に許容できること
5. 情報行動、対人関係など
- 5.1 ネット利用時間と生活時間 堀川裕介
 - 5.2 フィルタリングサービス等の利用 千葉直子
 - 5.3 ソーシャルメディアの利用目的 橋元良明
 - 5.4 対人関係 堀川裕介

単純集計

橋元良明 東京大学大学院情報学環
 千葉直子 日本電信電話株式会社 NTT セキュアプラットフォーム研究所
 天野美穂子 東京大学大学院学際情報学府博士課程
 堀川裕介 東京大学大学院学際情報学府博士課程

本稿は東京大学と日本電信電話株式会社 NTT セキュアプラットフォーム研究所による共同研究「インターネット上での交流リスクに関する研究」の成果の一部である。

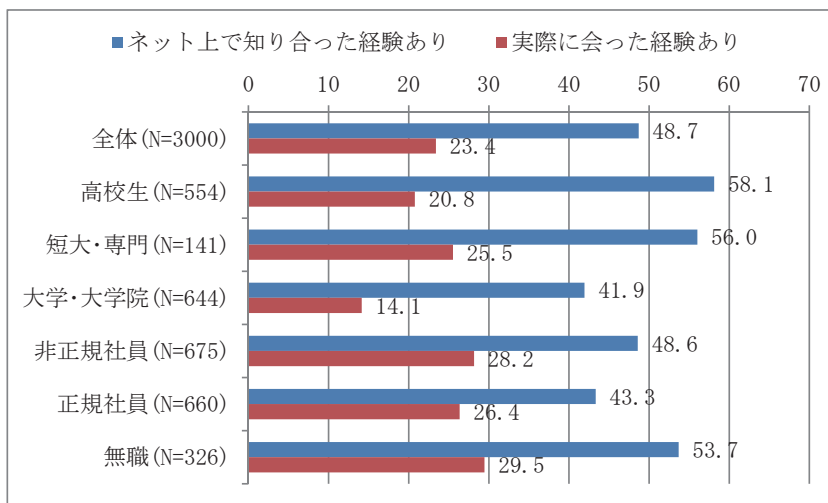
【調査から得られた主な知見】

1. 調査対象者（女性）の 48.7%がネット上で異性と知り合った経験があり、調査対象者の 23.4%が異性とさらに実際に会った経験がある。

高校生では知り合った経験ありが 58.1%、実際に会った経験ありが 20.8%。

図表 1 異性とネットで知り合った経験者・実際に会った経験者の比率

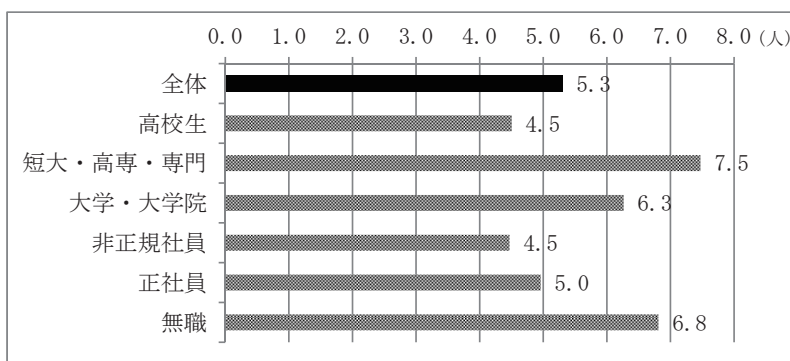
単位：%



※分析母数は調査対象者全体。

2. 実際に会った異性の人数は全体平均で 5.3 人、高校生で 4.5 人。

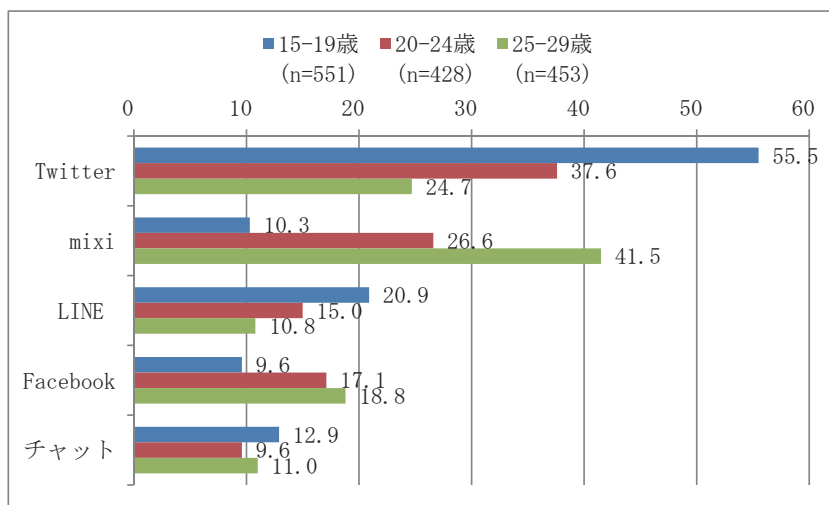
図表 2 実際に会った異性の人数



※分析母数は各カテゴリーで実際に異性と会ったことのある人。

3. 異性と知り合うきっかけとなったソーシャルメディアは若年層ではTwitter、LINEが多く、年齢が上がるとmixi、facebookが増加する。

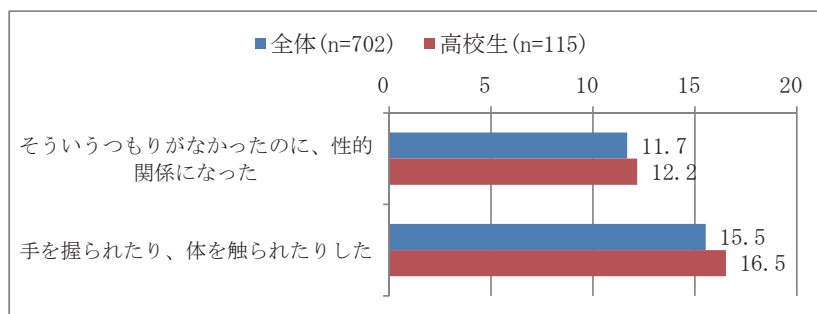
図表3 ネットで男性と知り合うきっかけとなったソーシャルメディア(複数回答)単位:%



※分析母数はネットで異性と知り合ったことのある人 1460 人中、無回答を除く 1432 人。

4. 実際にネットを通じて異性と会った経験のある人のうち、10%強が「そういうつもりがなかったのに、性的関係になった」と回答。

図表4 主なトラブルの経験 単位:%



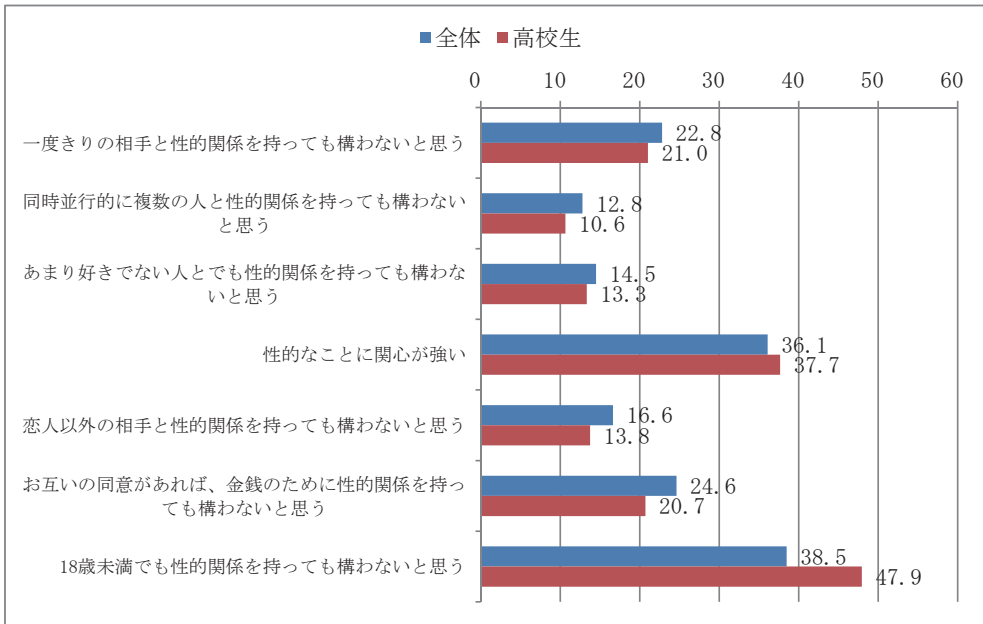
※分析母数はネットを通じて知り合った異性と実際に会った経験のある人。

5. 背後には性規範意識の変化。

「一度きりの相手と性的関係を持っても構わないと思う」で「はい」が全体の 22.8%、高校生の 21.0%。高校生の 47.9%が「18 歳未満でも性的関係を持っても構わないと思う」と回答。

図表5 性規範に関する意識（「はい」の比率）

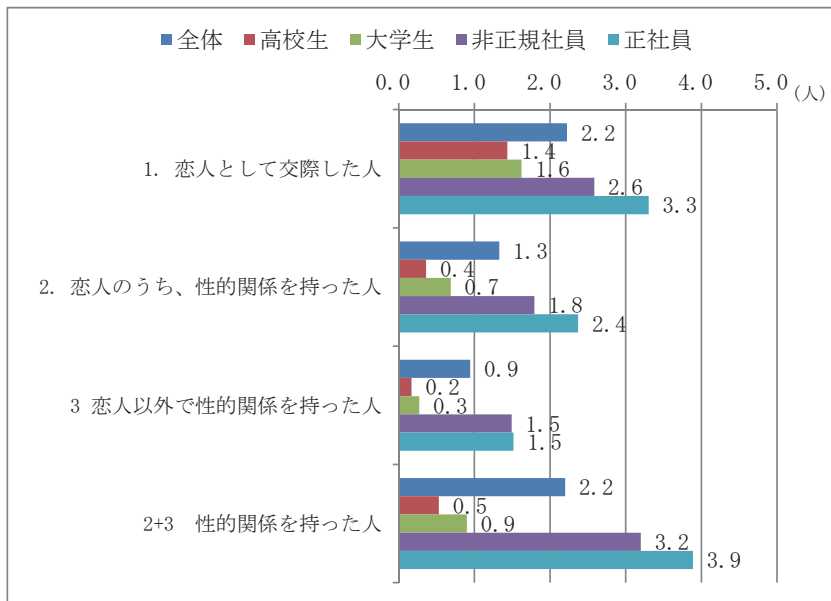
単位：%



※分析母数は調査対象者全体。ただし、任意回答項目としたため、各項目、無回答者が500人前後いる。

6. 「恋人以外で性的関係を持った人」の平均人数は0.9人。会社員では1.5人。

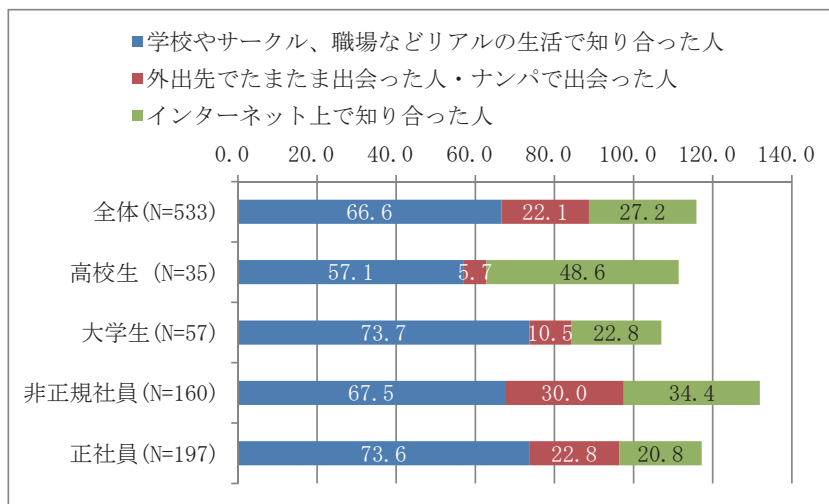
図表6 相手との関係別経験人数



※分析母数は調査対象者全体。ただし、任意回答項目としたため、各項目、無回答者が500人前後いる。

7. 「恋人以外で性的関係を持った経験がある人」について、高校生の場合、そのうち約半数の48.6%が「インターネット上で知り合った人」。

図表7 「恋人以外で性的関係を持った人」の 카테고리別比率（複数回答可で積み上げグラフ、属性カテゴリーは一部省略） 単位：%



※分析母数は各属性カテゴリーで「恋人以外で性的関係を持った経験がある人」。

0. 調査の概要

0.1 調査の目的

近年、コミュニティサイトやソーシャルメディアを通じて知り合い、事件に巻き込まれる少女が増加している。2014年以降でも「GREEで知り合った15歳の女子高生に証券会社社員がみだらな行為（2014年4月3日 共同通信）」「ツイッターで知り合った女子中学生にわいせつ容疑で53歳を逮捕（同4月7日 産経新聞）」「LINEで知り合った一七歳の少女に市職員がみだらな行為（同5月1日 毎日新聞）」「出会い系掲示板やカカオトークで知り合った女子高生に売春を斡旋（同5月28日 時事通信）」など、複数の事件が報道されている。

ひところは「出会い系サイト」と言えば、法的には「インターネット異性紹介事業」と呼ばれていた。児童を相手方とした異性交際の書き込みが法的に禁止されるなど、厳しい規制対象となり、反社会的な存在である印象が強かった。規制強化の成果なのか、警察庁発表資料⁽¹⁾によれば、出会い系サイトに起因する被害児童数は近年減少傾向にあり、1999年の453人（検挙件数1203件）から2013年には159人（同726件）にまで減少した。その一方で、無料通話アプリ等提供事業者を含む「コミュニティサイト」に起因する被害児童数は、2013年には1298人（同1804件）に及んでいる。

警察庁の言う「コミュニティサイト」とは、LINEなどのいわゆる「ソーシャルメディア」である。橋元研究室と総務省情報通信政策研究所が2012年以降毎年実施している全国調査⁽²⁾によれば、2013年調査時点のソーシャルメディアの利用者⁽³⁾は、10代で76.3%、20代で91.0%に達し、LINEユーザーは10代で70.5%、20代で80.3%である。つまり、今や若年層の大半がLINE等のソーシャルメディアの利用者であり、その利用に起因する事件も利用者数に比例して増加している。実際、無料通話アプリのID交換掲示板や友達募集掲示板には、「〇〇（具体的場所名）で今晚会える人いないかなあ」などのメッセージとともに、LINE等のIDを書き込んでいる10代女性が大量存在する。現在では、ごく普通のソーシャルメディアが、ひところの「出会い系サイト」の肩代わりをしていると言って過言ではない。

どの程度の若い女性がネットで異性と知り合い、またその後、実際に出会っているのか。出会いを求める心理はどのようなものか。筆者の研究室とNTTセキュアプラットフォーム研究所では、共同研究の一環として、定性調査（MROC：Marketing Research Online Community）、定量調査（ネット調査）の両面からそれらの実態を明らかにすることを試みた。本稿ではその結果の一端を報告する。

我々は今回、2つの調査を実施した。1つは定性的調査としてMROC、もう1つはいわゆるネット調査である。MROCはネット上で専用コミュニティを設置し、モデレータ

から参加者にトピックスを投げかけ、コミュニティ内でディスカッションと簡単なアンケートを繰り返しながら意見を収集する、いわばネット上のグループインタビューである。新しいマーケティングリサーチ手法として 2000 年頃からアメリカで試行されたといい、消費者の深層欲求を抽出するのに効果的だとされている。通常のグループインタビューのように、特定の会場の設定はならず、参加者のスケジュール調整の必要がなく、居住地の制約もない。また、お互いの顔が見えないため、本音が言いやすいというメリットがある。今回、「インターネットで、リアルには知らなかった異性（男性）と知り合い、その後、実際に会った経験がある女子高校生」という条件で 20 名を募り、2014 年 2 月 14 日から 27 日までの 2 週間、調査を実施した。投げかけたトピックスは「どうしてネットで知らない人とやりとりするようになったんだっけ?」「ネット上でしか知らない人と会ってみようと思ったきっかけ」等の 6 項目であり、さらに成り行きにより、特定の参加者に深掘り質問をした。得られた発言数は計 297、総発言文字数は 5 万 1700 字であった。

定量調査は 2014 年 3 月 21 日から 24 日にネット調査で実施した（詳細は次節）。対象者は、広義のソーシャルメディア（注③で列挙したもののほか、アメーバブログ、Vine、チャットなど、書き込み可能なアプリやサイト）の利用者で、実際に書き込みをした経験のある 15 歳から 29 歳までの女性 3000 人である（15-19 歳が 1000 名、20-29 歳が 2000 名）。ネット上で見知らぬ人と交流した経験の有無は条件としていない⁴⁾。

1) <http://www.npa.go.jp/cyber/statics/h25/pdf02-2.pdf>

2) 「情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」。調査対象は全国 13 歳から 69 歳の男女 1、500 名でランダム・ロケーション・クォータサンプリング。調査期間は 2013 年調査が 11 月から 12 月。結果の概要については総務省情報通信政策研究所サイトを参照。

3) この場合、「ソーシャルメディア利用者」とは mixi、Facebook、GREE、Mobage、Twitter、LINE、Google+のいずれかの利用者。

4) ちなみに 2014 年 5 月-6 月に橋元研究室と電通総研とが共同で実施した全国調査（調査対象者は 15 歳から 49 歳、ランダムロケーション・クォータサンプリング、N=1050）によれば、ソーシャルメディアに書き込みをしている人の比率は調査対象者全体のうち、10 代で 80.7%、20 代で 79.7%であった。今回の調査の対象者（書き込み経験者）は一般サンプルの 80%をカバーするものであり、スクリーニング条件は、さほど大きな制約条件ではない。ちなみに、電通との共同調査でのソーシャルメディアの利用者は 10 代 91.3%、20 代 93.3%。本文で言及した総務省との共同調査より比率が高いのは、この調査（電通総研との共同調査）で Ameba、Vine もソーシャルメディアに含めているためで、その対象は今回の NTT との共同ネット調査とほぼ同じである。

0.2 調査の方法

(1) 定性調査

(a) 調査方法

2週間の MROC (Marketing Research Online Community※) 調査

※ネット上で「専用コミュニティ」を構築し、モデレータから参加者に対してトピックを投げかけ、コミュニティの中で「ディスカッション(定性調査)」と「アンケート(定量調査)」を繰り返しながら意見を募って進める形の調査。

(b) 調査対象者

i) 選定条件

- ・高校生女子
- ・ネットで見知らぬ人と知り合い、実際に出会った経験のある人

ii) サンプル数

20名

(c) 調査期間

平成 26 年 2 月 14 日～2 月 28 日

(2) 定量調査

(a) 調査方法

調査会社が保有するモニターに対する Web アンケート調査

(b) 調査対象者

i) 選定条件

- ・15～29歳の女性
- ・未婚(離婚・死別も含む)
- ・ソーシャルメディア等(※)に書き込みをしている

※ LINE、KakaoTalk、comm、Skype、その他の通信アプリ、アマーバブログ、その他のブログ、Twitter、Facebook、mixi、GREE、Mobage、その他の SNS・コミュニティサイト、プロフ、チャット(オンラインゲームのチャット含む)、Vine、動画サイト・生放送、掲示板、出会い系アプリ・サイト

ii) サンプル数

3000票

iii) サンプルの割付

15～19歳：1000票

20～24歳：2000票

(c) 調査期間

平成 26 年 3 月 21 日～3 月 24 日

1. ネットでの出会い

1.1 見知らぬ人とのネット上でのやりとりの経験（問9）

約4割の人がネット上で見知らぬ人とやりとりをしている。現在はやりとりをしていない人を含めると、見知らぬ人とやりとりをした経験のある人は約7割(68.1%)に上る。3割弱の人は、ソーシャルメディアを利用しながらも、見知らぬ人とはやりとりをするつもりはないとしている。

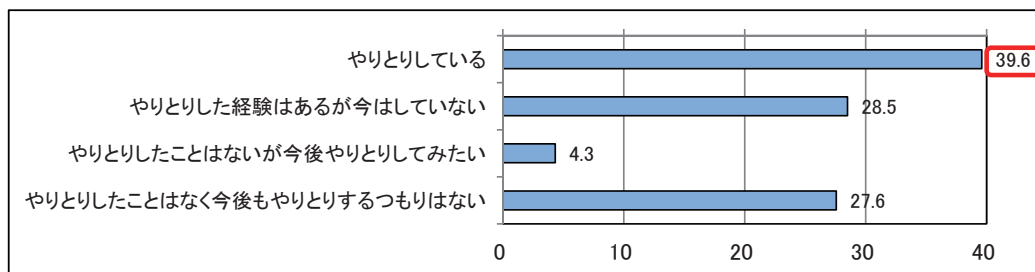


図 1.1.1 ネット上で見知らぬ人とやりとりをした経験 (%)

年代別にみると、現在進行形で見知らぬ人とやりとりをしているのは10代後半が有意に高く、やりとりするつもりはないというのは20代後半が有意に高い。 $\chi^2(6)=111.903$, $p<0.001$ 。10代にとって見知らぬ人とネットでやりとりすることは、上の世代よりも一般的になってきていると考えられる。

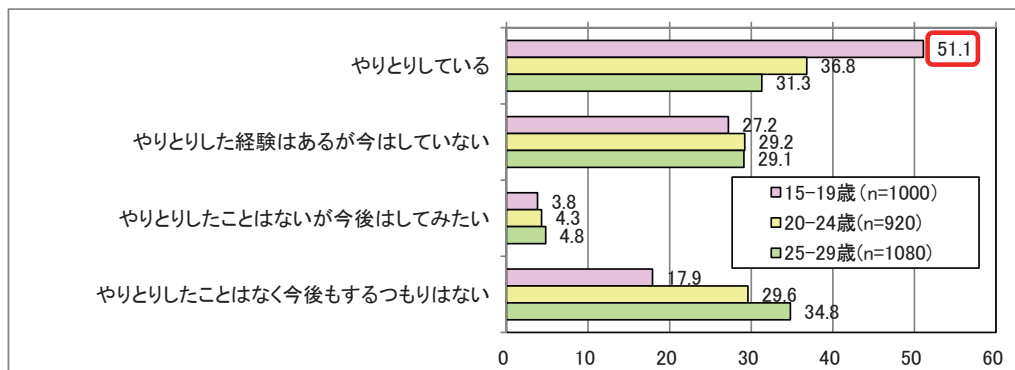


図 1.1.2 ネット上で見知らぬ人とやりとりをした経験（年代別，%）

学生・職業別に見ると、図 1.1.3 のように、高校生と無職の人は「やりとりしている」割合が高く、社会人(正社員)は低い。また、「やりとりしたことはなく、今後もするつもりはない」のは大学生・大学院生および社会人(正社員)の割合が高く、高校生の割合が低い。 $\chi^2(15)=139.577$ ($p<0.001$)。下記に MROC 定性調査で得られたエピソードを示すが、定量

調査および定性調査の両側面から、高校生にとって見知らぬ人とやりとりすることは、より一般的になっていると考えられる。

【MROC 定性調査で得られた女子高校生のエピソード（発言は原文のまま）】

「どうしてネットで知らない人とやりとりするようになったんだっけ？」という質問に対し、

「どうしても何もネット使ってて知り合いだけとか身内だけとコミュニケーションの方がレアケースな気がするんだが・・・」(TNさん, 高3, 18歳, 埼玉県在住)

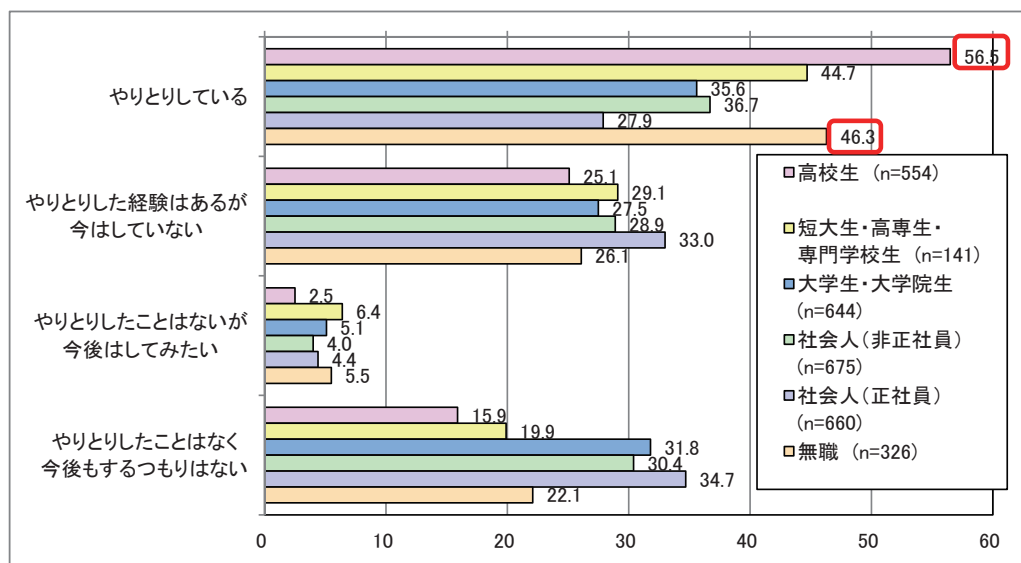


図 1.1.3 ネット上で見知らぬ人とやりとりの経験（学生・職業別，％）

ネット上での見知らぬ人とのやりとりの有無によって、心理特性にどのような違いがみられるかについて調べた結果を表 1.1.1 に示す。現在やりとりしている人と、今後してみたいと思っている人は「孤独感」「対人的疎外感」「承認欲求」「親和動機（拒否不安）」が高く、「自尊感情」が低かった。さらに、現在やりとりしている人は「抑うつ」が高く、「信頼感」が低かった。やりとりの経験がなく、今後はするつもりがないという人は、「孤独感」「対人的疎外感」「承認欲求」「抑うつ」「性的寛容度」が低く、「自尊感情」「信頼感」が高かった。つまり、現状の人間関係に満足し、性規範意識が高い人は、ネットで見知らぬ人と交流しようという気持ちを持つ割合が低いですが、反対に、現状の人間関係において孤独を感じていたり、自分を認めてほしい、受け入れてほしいという思いを持っている人は、ネットで見知らぬ人と交流することにより、その気持ちを満たそうとするのではないかと考えられる。

表 1.1.1 ネット上で見知らぬ人とやりとりをした経験と心理特性（平均点）

	やりとりしている (n=1188)	やりとりした経験はあるが今は していない (n=855)	やりとりしたことは ないが今後は してみたい (n=130)	やりとりしたことは なく今後もす るつもりはない (n=827)	
孤独感	2.73 a	2.62 ab	2.70 a	2.56 b	***
対人的疎外感	2.47 a	2.41 ab	2.50 a	2.29 b	***
承認欲求	2.80 a	2.81 a	2.75 a	2.69 a	**
親和動機 (拒否不安)	2.83 a	2.84 a	2.76 a	2.71 a	**
社交性	2.60 a	2.61 a	2.55 a	2.54 a	ns
抑うつ	2.98 a	2.89 a	2.87 a	2.70 b	***
自尊感情	2.29 a	2.42 ab	2.34 a	2.51 b	***
信頼感	2.53 a	2.59 a	2.59 a	2.63 a	**
性的寛容度	1.69 a	1.74 a	1.73 a	1.65 a	*

有意差は一元分散分析 (GLM) による, *** $p < 0.001$, ** $p < 0.01$, * $p < 0.05$, ns 有意差なし
a, b, c の記号は、Tukey の多重範囲検定の結果

家族や周囲の友人知人との人間関係の満足度を 4 件法で聞いた結果を「満足=4 点」「やや満足=3 点」「やや不満=2 点」「不満=1 点」のように得点化し、ネットでの見知らぬ人とのやりとりの関係を見ると、表 1.1.2 のように「やりとりしたことはないが今後はしてみたい」という人は家族以外の人間関係の満足度が低いという認識を持っている。つまり、リアルな友人等の人間関係があまりうまく行っていないと感じている人のほうが、ネットで見知らぬ人と交流したいと感じるのではないかと考えられる。

表 1.1.2 ネット上で見知らぬ人とやりとりをした経験別の人間関係満足度（平均点）

	やりとりし ている (n=1188)	やりとりした経験はあ るが今はしていない (n=855)	やりとりしたことは ないが今後はしてみ たい (n=130)	やりとりしたことは なく今後もするつ もりはない (n=827)	
家族関係満足	3.02 a	3.01 a	2.95 a	3.10 a	ns
リアルの友だち 関係満足度	2.98 ab	3.04 a	2.82 b	3.10 a	**
ネットの友だち 関係満足度	3.05 a	2.84 ab	2.71 b	3.00 a	***
職場や学校の 人間関係満足度	2.74 a	2.80 a	2.56 b	2.85 a	**

有意差は一元分散分析 (GLM) による, *** $p < 0.001$, ** $p < 0.01$, ns 有意差なし
a, b の記号は、Tukey の多重範囲検定の結果

1.2 見知らぬ人とネット上でやりとりをした理由(問9補問1)

ネット上で見知らぬ人とやりとりをした経験のある人(n=2043)に対し、その理由を聞いたところ、図 1.2.1 のように「共通の趣味や嗜好を持っていることがわかったから」という理由が約7割強で圧倒的に多かった。「顔が見えない相手の方が気兼ねなく話せる」という人も2割強存在した。「その他」の自由記述欄では、「オンラインゲームやソーシャルゲームで一緒になった」「同じミュージシャンやアーティストのファン」「チケットの取引」といった回答が得られた。図 1.2.1 の下に、MROC 定性調査で得られたエピソードも示すが、女子高校生に聞いても「趣味のつながり」を挙げる人が多かった。リアルの世界では、お互いに共通の趣味があることがわかるまでに時間がかかる場合もあるが、**ネットではプロフィール等に趣味が書いてあることが多く、共通の趣味を持つ人を容易に見つけられるため、そこから交流する人が多いことが分かった。**

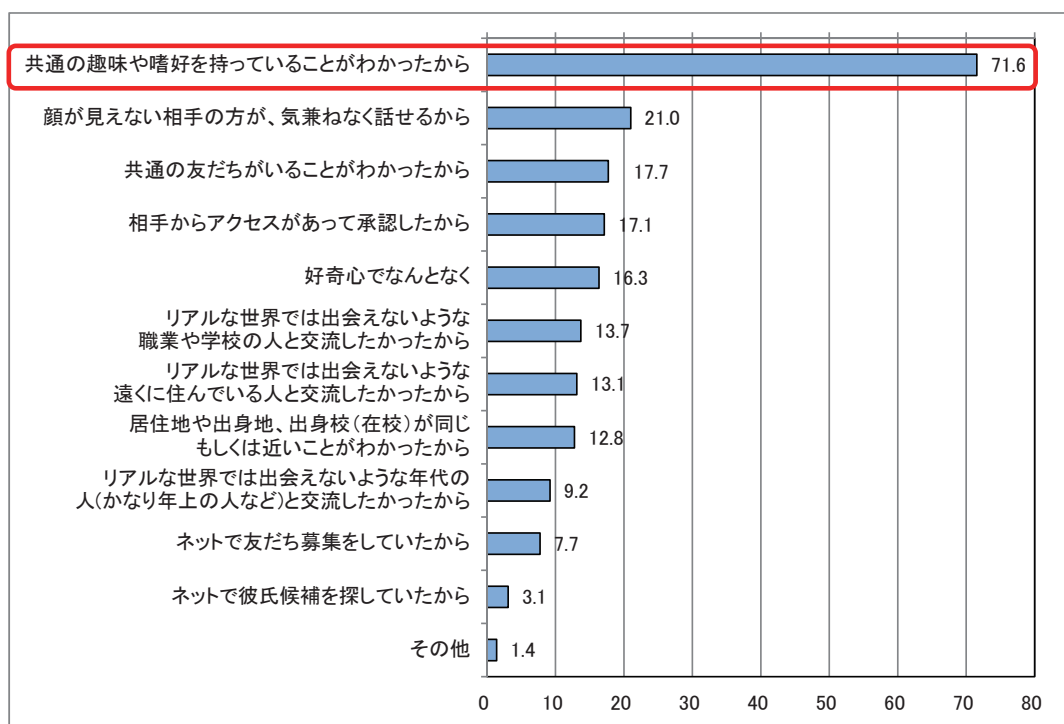


図 1.2.1 ネット上で見知らぬ人とやりとりをした理由(降順, %)

【MROC 定性調査で得られた女子高校生のエピソード(発言は原文のまま)】

「どうしてネットで知らない人とやりとりするようになったんだっけ?」という質問に対し、

「趣味のことに関するアカウントつくって、同じ趣味の人をフォローして知り合うパター

ンがほとんどです。」(SKさん, 高3, 18歳, 大阪府在住)

「私は初めて使った SNS が mix で、趣味のあうひと、友達の友達などマイミクになり、つぶやきのコメントで仲良くなり、メッセージ交換をして LINE を交換してお話するという感じです！(中略) また、趣味の話をする line のグルチャのなかで、仲良くなって個人でトークをし電話などをして仲良くしてる友達もいます！」(CEさん, 高2, 16歳, 東京都在住)

「だいたいは趣味の話から入ったり、日常の話をしたり……と。顔が見えないからこそ言語表現に気をつけたりとか気にすることもあるけれど意外と顔が見えないからって理由で年齢気にせず気軽に話せちゃったりするんですね。」(NNさん, 高2, 17歳, 東京都在住)

図 1.2.1 の「ソーシャルメディア上で知らない人とやりとりした理由」において、1割以上の回答があった各選択肢について年代別にみたところ、表 1.2.1 のように趣味や嗜好、友だち、居住地や出身校等、見知らぬ相手との共通点をきっかけにやりとりをするのは10代に多く、相手からのアクセスでやりとりするのは年代が高いほど多いことがわかった。

表 1.2.1 ネット上で見知らぬ人とやりとりをした理由 (年代別, %)

	10代後半 (n=783)	20代前半 (n=608)	20代後半 (n=652)	
共通の趣味や嗜好を持っていることがわかったから	74.5	71.4	68.3	*
顔が見えない相手の方が、気兼ねなく話せるから	21.8	22.2	18.9	ns
共通の友だちがいることがわかったから	21.3	15.0	16.0	**
相手からアクセスがあって承認したから	14.0	17.1	20.9	**
好奇心でなんとなく	14.9	15.5	18.9	ns
リアルな世界では出会えないような職業や学校の人と交流したかったから	14.8	12.5	13.5	ns
リアルな世界では出会えないような遠くに住んでいる人と交流したかったから	13.4	11.8	14.0	ns
居住地や出身地、出身校(在校)が同じもしくは近いことがわかったから	16.9	11.3	9.2	***

χ^2 検定, *** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05, ns 有意差なし
着色セルは残差分析の結果, 濃黄色 p<0.01, 薄黄色 p<0.05

学生・職業別にみると、表 1.2.2 のように、高校生は共通の趣味や嗜好、友だち、居住地や出身地、出身校(在校)をきっかけにやりとりする割合が高く、相手からのアクセスを承認してやりとりする割合は少ない。一方、無職の人は「顔の見えない相手の方が気兼ねなく話せる」という割合が高いのは高校生と類似していたものの、「相手からアクセスがあって承認した」や「好奇心でなんとなく」という割合が多く、共通の居住地や出身地、出身校(在校)をきっかけにやりとりする割合は低かった。

表 1.2.2 ネット上で見知らぬ人とやりとりをした理由（学生・職業別，％）

	高校生 (n=452)	短大生・高専 生・専門学校生 (n=104)	大学生・ 大学院生 (n=406)	社会人 (非正社員) (n=443)	社会人 (正社員) (n=402)	無職 (n=236)	
共通の趣味や嗜好を持っていることがわかったから	75.7	79.8	74.4	68.8	62.9	75.0	***
顔が見えない相手の方が、気兼ねなく話せるから	24.3	17.3	16.5	19.4	16.9	33.9	***
共通の友だちがいることがわかったから	23.9	15.4	16.5	15.6	16.9	14.4	**
相手からアクセスがあつて承認したから	12.6	14.4	13.5	19.6	19.9	23.7	**
好奇心でなんとなく	14.8	13.5	12.1	19.0	15.9	23.7	**
リアルな世界では出会えないような職業や学校の人と交流したかったから	15.5	16.3	12.1	12.2	14.9	12.7	ns
リアルな世界では出会えないような遠くに住んでいる人と交流したかったから	14.4	14.4	11.3	13.8	11.9	14.0	ns
居住地や出身地、出身校（在 校）が同じもしくは近いことが わかったから	17.7	20.2	12.1	10.6	11.7	7.2	***

χ^2 検定， *** $p < 0.001$ ， ** $p < 0.01$ ， ns 有意差なし
着色セルは残差分析の結果， 濃黄色 $p < 0.01$ ， 薄黄色 $p < 0.05$

1.3 見知らぬ人とネット上でやりとりをやめた理由（問9補問2）

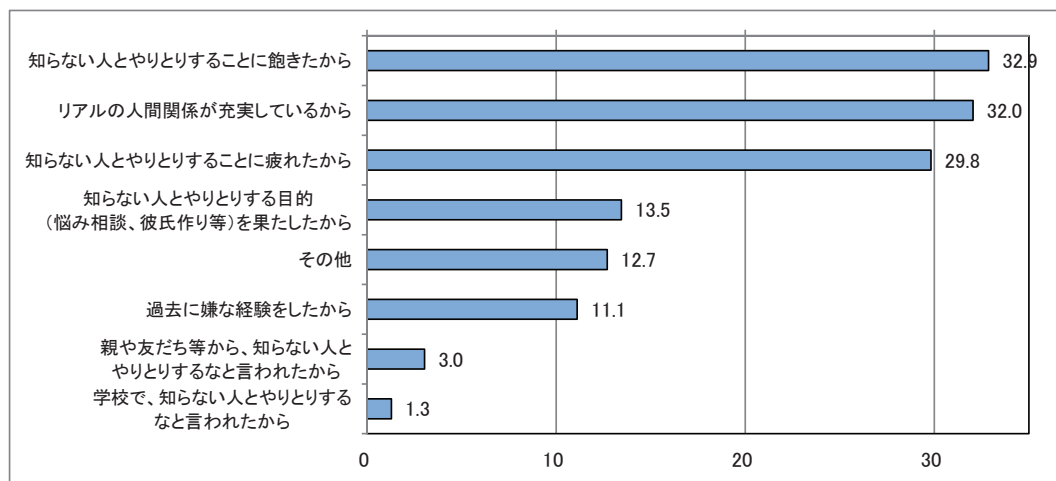


図 1.3.1 ネット上で見知らぬ人とやりとりをやめた理由（降順，％）

ネット上で見知らぬ人とやりとりをしていたが、今はしていないという人(n=855)に対し、やりとりをやめた理由を聞いたところ、「飽きた」「リアルな人間関係が充実」「疲れた」という理由がそれぞれ約3割を占めた。本質問では、「その他」が1割以上存在したが、自由記述欄では「いつの間にか途切れた」「なんとなく疎遠になった」という「自然消滅」が

26人(3.0%)、「特に理由はない」が18人(2.1%)、「忙しくなった」が10人(1.2%)、「面倒くさくなくなった」が9人(1.1%)、「相手が返事をしてくれなくなった」「相手に彼女ができた」等「相手のせい」という人が9人(1.1%)等の回答が得られた。既存選択肢の「飽きたから」「疲れたから」のいずれかを選択もしくは、自由記述で「面倒」「飽きた」という記述をした人を合わせると440名存在した。つまり、見知らぬ人とやりとりをしていたが、飽きた、疲れた、面倒になったという理由でやめた人が、51.5%と過半数に上る一方で、親や友だち、学校からやりとりしないように言われてやめたという人は5%未満と非常に少なかった。

図1.3.1の「やりとりをやめた理由」で1割以上の回答があった各選択肢について、年代別にみたところ有意差は見られなかった。学生・職業別にみたところ、表1.3.1のようにほとんど有意差が見られなかったが、リアルの人間関係が充実しているという理由は無職で低い傾向にあった。

表 1.3.1 ネット上で見知らぬ人とやりとりをやめた理由（学生・職業別，％）

	高校生 (n=139)	短大生・ 高専生・ 専門学校生 (n=41)	大学生・ 大学院生 (n=177)	社会人 (非正社員) (n=195)	社会人 (正社員) (n=218)	無職 (n=85)	
知らない人とやりとりすることに飽きたから	33.1	39.0	30.5	32.8	33.9	31.8	ns
リアルの人間関係が充実しているから	33.1	39.0	34.5	30.8	34.9	17.6	†
知らない人とやりとりすることに疲れたから	30.2	22.0	28.8	32.3	28.0	34.1	ns
知らない人とやりとりする目的(悩み相談、彼氏作り等)を果たしたから	7.2	12.2	17.5	12.8	14.7	14.1	ns
過去に嫌な経験をしたから	14.4	12.2	11.3	11.3	6.4	16.5	ns

χ^2 検定，† p<0.1 ns 有意差なし
着色セルは残差分析の結果， 濃黄色 p<0.01

1.4 見知らぬ人とネット上でやりとりをしない理由（問9補問3）

ネット上で見知らぬ人とやりとりをしないという人(n=957)に対し、やりとりをしない理由を聞いたところ、図1.4.1のように「顔の見えない相手と交流するのは何となく怖い」という回答が半数近くでもっとも多かった。また、「知り合いとしかやりとりしないと決めている」人や「知らない人と交流するのは面倒」という人も約4割程度存在した。一方で、親や友だち、学校からやりとりしないように言われているからしないという人は非常に少なかった。「その他」の自由記述欄では、いずれも2名ずつと少数ながら「必要がない」「興味がない」「事件になっているから」等の回答が得られた。

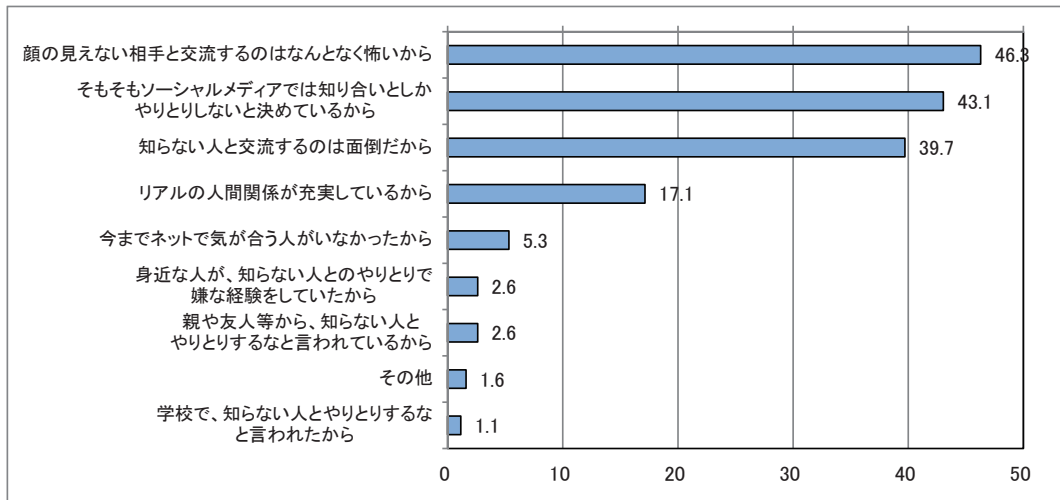


図 1.4.1 ネット上で見知らぬ人とやりとりをしない理由（降順，%）

表 1.4.1 ネット上で見知らぬ人とやりとりをしない理由（年代別，%）

	10代後半 (n=217)	20代前半 (n=312)	20代後半 (n=428)	
顔の見えない相手と交流するのはなんとなく怖いから	52.1	47.8	42.3	†
そもそもソーシャルメディアでは知り合いとしかやりとりしないと決めているから	37.8	41.7	46.7	†
知らない人と交流するのは面倒だから	35.9	36.5	43.9	†
リアル的人际关系が充実しているから	12.0	19.2	18.2	†

χ^2 検定，† p<0.1

着色セルは残差分析の結果，薄黄色 p<0.05

表 1.4.2 ネット上で見知らぬ人とやりとりをしない理由（学生・職業別，%）

	高校生 (n=102)	短大生・高専生・専門学校生 (n=37)	大学生・大学院生 (n=238)	社会人(非正社員) (n=232)	社会人(正社員) (n=258)	無職 (n=90)	
顔の見えない相手と交流するのはなんとなく怖いから	51.0	62.2	48.3	44.0	44.2	41.1	ns
そもそもソーシャルメディアでは知り合いとしかやりとりしないと決めているから	34.3	40.5	43.3	43.5	51.2	28.9	**
知らない人と交流するのは面倒だから	29.4	45.9	39.1	46.1	34.5	48.9	**
リアル的人际关系が充実しているから	15.7	10.8	16.4	19.4	20.2	8.9	ns

χ^2 検定，** p<0.05，ns 有意差なし

着色セルは残差分析の結果，薄黄色 p<0.05

図 1.4.1 の「やりとりをしない理由」で 1 割以上の回答があった各選択肢について、年代別にみると、表 1.4.1 のように、いずれの選択肢も 10%水準の有意傾向ではあるが、知

らない人との交流が「怖い」というのは10代に多く、「面倒」や「知り合いとしかやりとりしない」と決めている」というのは20代後半に多かった。10代はソーシャルメディア利用が普及し、面倒という感覚はないものの、見知らぬ人との交流経験も浅く、なんとなく怖いと感じるものと考えられる。学生・職業別にみると、表1.4.2のように「知り合いとしかやりとりしない」と決めているのは正社員の社会人に多く、無職で低かった。また、「面倒」というのは非正社員の社会人に多く、高校生や正社員の割合が低かった。

1.5 ソーシャルメディア上で公開している情報（問10）

ネット上で見知らぬ人とやりとりをした経験のある人(n=2043)に対し、知らない人ともっとも交流している（または、交流していた）ソーシャルメディアで、どの程度自分の情報を公開しているかを聞いたところ、図1.5.1のように、性別や年齢・学年、生年月日などの公開割合が高かった。「名前（本名フルネーム）」から「LINE等のSNSのID」までのうち、ほとんど公開している人がいなかった自宅電話番号を除く情報について年代別にみたところ、表1.5.1のようになった。10代は、名前（苗字か下の名前の一方）、年齢または学年、学校名や会社名、顔写真等の情報を公開している割合が高かった。10代はネット上で仲良くなった相手に「LINE等のSNSのID」を教える割合が高く、反対に20代後半は、電話番号（ケータイ）やメールアドレスを実際に会う約束をした相手に教える割合高かった。これは主な連絡手段が世代ごとに異なっていることを示していると考えられる。

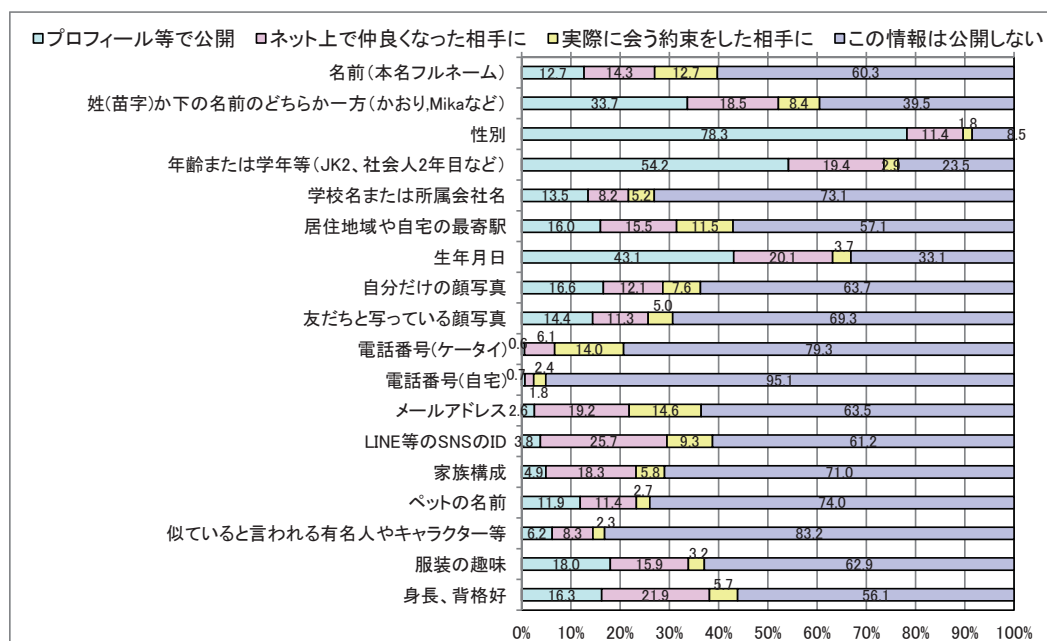


図 1.5.1 ソーシャルメディア上での自分の情報の公開度合 (%)

表 1.5.1 ソーシャルメディア上での自分の情報の公開度合（年代別，％）

		10代後半 (n=783)	20代前半 (n=608)	20代後半 (n=652)	
名前(本名フルネーム)	プロフィール等で公開	10.7	14.1	13.7	**
	ネット上で仲良くなった相手に公開	17.6	13.5	11.2	
	実際に会う約束をした相手に公開	10.7	13.7	14.3	
	この情報は公開しない	60.9	58.7	60.9	
姓(苗字)か下の名前のどちらか一方(かおり,Mikaなど)	プロフィール等で公開	38.8	34.0	27.1	***
	ネット上で仲良くなった相手に公開	20.2	17.3	17.5	
	実際に会う約束をした相手に公開	5.7	9.0	10.9	
	この情報は公開しない	35.2	39.6	44.5	
年齢または学年等(JK2、社会人2年目など)	プロフィール等で公開	60.0	55.8	45.7	***
	ネット上で仲良くなった相手に公開	20.4	18.8	18.7	
	実際に会う約束をした相手に公開	1.3	2.6	5.1	
	この情報は公開しない	18.3	22.9	30.5	
学校名または所属会社名	プロフィール等で公開	18.3	12.8	8.4	***
	ネット上で仲良くなった相手に公開	9.7	9.7	4.9	
	実際に会う約束をした相手に公開	5.2	4.4	6.0	
	この情報は公開しない	66.8	73.0	80.7	
居住地域や自宅の最寄駅	プロフィール等で公開	13.8	17.9	16.9	ns
	ネット上で仲良くなった相手に公開	14.3	17.3	15.2	
	実際に会う約束をした相手に公開	11.7	10.4	12.1	
	この情報は公開しない	60.2	54.4	55.8	
自分だけの顔写真	プロフィール等で公開	19.2	15.5	14.6	†
	ネット上で仲良くなった相手に公開	11.6	14.6	10.3	
	実際に会う約束をした相手に公開	7.2	7.6	8.3	
	この情報は公開しない	62.1	62.3	66.9	
友だちと写っている顔写真	プロフィール等で公開	20.2	12.8	9.0	***
	ネット上で仲良くなった相手に公開	10.6	12.8	10.6	
	実際に会う約束をした相手に公開	3.8	5.4	6.0	
	この情報は公開しない	65.4	68.9	74.4	
電話番号(ケータイ)	プロフィール等で公開	0.5	0.5	0.8	*
	ネット上で仲良くなった相手に公開	7.0	5.8	5.4	
	実際に会う約束をした相手に公開	11.5	13.5	17.5	
	この情報は公開しない	81.0	80.3	76.4	
メールアドレス	プロフィール等で公開	1.3	2.6	4.1	**
	ネット上で仲良くなった相手に公開	20.2	18.6	18.7	
	実際に会う約束をした相手に公開	12.6	14.0	17.6	
	この情報は公開しない	65.9	64.8	59.5	
LINE等のSNSのID	プロフィール等で公開	4.9	3.3	3.1	***
	ネット上で仲良くなった相手に公開	35.8	23.5	15.6	
	実際に会う約束をした相手に公開	7.7	10.5	10.0	
	この情報は公開しない	51.7	62.7	71.3	

χ^2 検定, *** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05, † p<0.1, ns 有意差なし
着色セルは残差分析の結果, 濃黄色 p<0.01, 薄黄色 p<0.05

1.6 ネットで知り合った人数（問12）

ネット上で見知らぬ人とやりとりをした経験のある人(n=2043)に対し、ネットで知り合いになった人の人数を、年代や性別ごとに、おおよその人数で聞いたところ、図1.6.1のように、同年代の女性の割合や年代も性別も不明な人が最も高かった。図1.6.1の下から

3 つは、性別ごとに足し合わせた数と全体を足し合わせた数を示している。ネットで知り合いになった人を「男性」「女性」「合計」の3つに分けて、年代および学生・職業別にみたところ、いずれも統計的な有意差は見られなかった。

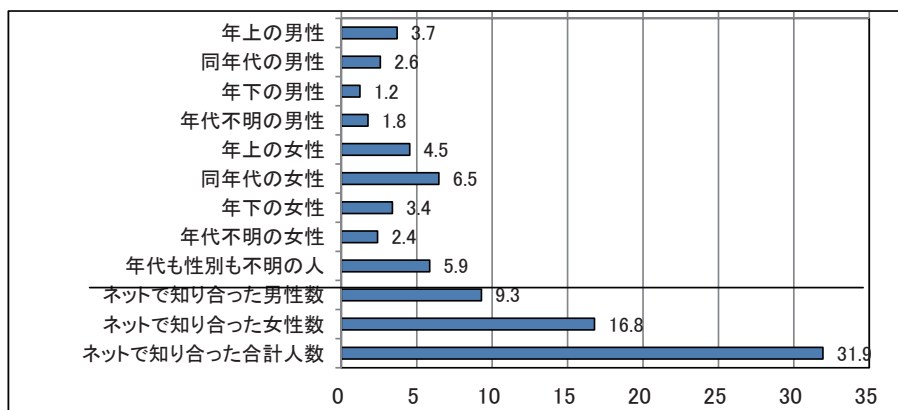


図 1.6.1 ネット上で知り合いになった人数（平均値）

1.7 男性と知り合ったソーシャルメディア（問 13）

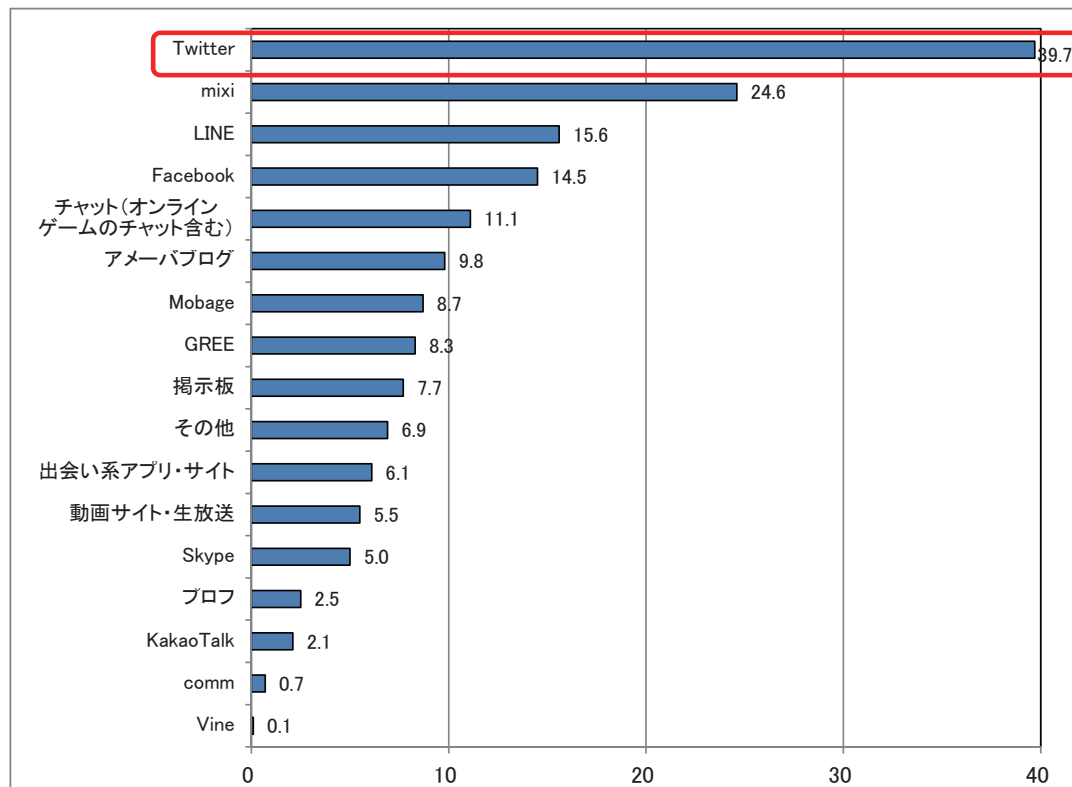


図 1.7.1 男性と知り合ったソーシャルメディア（降順，複数回答可，%）

ネット上で男性と知り合ったことがあると回答した人 (n=1460) に対し、男性と知り合ったソーシャルメディアが何かを複数回答可で聞いたところ、図 1.7.1 のように **Twitter** が約 4 割で圧倒的に多い結果となった。回答選択肢の「その他」の自由記述の内訳としては、目的別のコミュニティサイト (pixiv、Instagram、koebu、コスプレイヤーズアーカイブ、うたと等) が 36 件、さまざまなブログ (Yahoo!、CROOZ、livedoor、Decolog、FC2 等) が 28 件、オンラインゲーム 14 件等の回答が見られた。下記に示す MROC 定性調査で得られた発言でも、Twitter で知り合ったという女子高生が多かった。

【MROC 定性調査で得られた女子高校生のエピソード (発言は原文のまま)】

「どうしてネットで知らない人とやりとりするようになったんだっけ？」という質問に対し、

「わたしもきっかけは Twitter です。趣味が合う！と思う方を探してってこちらからフォローしたり、されたり。フォロワーさんのフォロワーさんっていう繋がりから知り合った方もいますね。」(KS さん, 高 3, 18 歳, 三重県在住)

「異性とのネット上の出会いは mixi と Twitter ですね、mixi ですごい遠い友達の友達だったり、Twitter で趣味や地元が一緒にフォローしたら DM きたりって感じです笑」(YK さん, 高 2, 17 歳, 神奈川県在住)

「私は Twitter には鍵をかけているので Facebook を使った出会いのほうが最近が多いです。知らない人や友達の友達などから友達申請が送られてきて、承認してから Facebook のメッセージでやりとりして仲良くなるというパターンが割と多いです。Facebook で知り合っただけで仲良くなり、LINE などを教えて実際に会ったりもしました。」(NK さん, 高 3, 18 歳, 東京都在住)

男性と知り合ったソーシャルメディアのうち、1 割以上の回答があった選択肢について、年代別にみたところ、Twitter と LINE は若いほど多く、mixi や Facebook は若いほど少ないことがわかった。

表 1.7.1 男性と知り合ったソーシャルメディア (年代別, %)

	10 代後半 (n=551)	20 代前半 (n=428)	20 代後半 (n=453)	
Twitter	55.5	37.6	24.7	***
mixi	10.3	26.6	41.5	***
LINE	20.9	15.0	10.8	***
Facebook	9.6	17.1	18.8	***
チャット(オンラインゲームのチャット含む)	12.9	9.6	11.0	ns

χ^2 検定, *** p<0.001, ns 有意差なし
着色セルは残差分析の結果, 濃黄色 p<0.01

学生・職業別にみたら、Twitter は高校生を筆頭に学生の割合が高く、社会人の割合は低く、反対に mixi は社会人の割合が高く、学生の割合が低い。また、LINE は高校生に多く、Facebook は社会人（正社員）に多い。

表 1.7.2 男性と知り合ったソーシャルメディア（学生・職業別，％）

	高校生 (n=319)	短大生・高専 生・専門学校生 (n=78)	大学生・ 大学院生 (n=269)	社会人(非 正社員) (n=316)	社会人 (正社員) (n=278)	無職 (n=172)	
Twitter	60.2	50.0	48.7	27.2	26.6	33.1	***
mixi	7.5	19.2	17.8	34.5	42.8	25.6	***
LINE	24.8	14.1	13.0	11.4	17.3	11.0	***
Facebook	9.1	9.0	15.6	16.1	23.4	9.9	***
チャット(オンラインゲ ームのチャット含む)	12.9	11.5	9.3	12.0	7.6	16.3	†

χ^2 検定，*** p<0.001，† p<0.1

着色セルは残差分析の結果， 濃黄色 p<0.01，薄黄色 p<0.05

1.8 男性とネット上で知り合ったきっかけ（問 14）

ネット上で男性と知り合ったことがあると回答した人（n=1460）に対し、男性と知り合ったきっかけを複数回答可で聞いたところ、図 1.8.1 のように「相手からのアクセス」が 7 割を超え圧倒的に多かった。「その他」の自由記述欄では、「オンラインゲーム」「コミュニティのイベント」「ランダムアクセス」「掲示板」「チケット取引」等の回答が得られた。

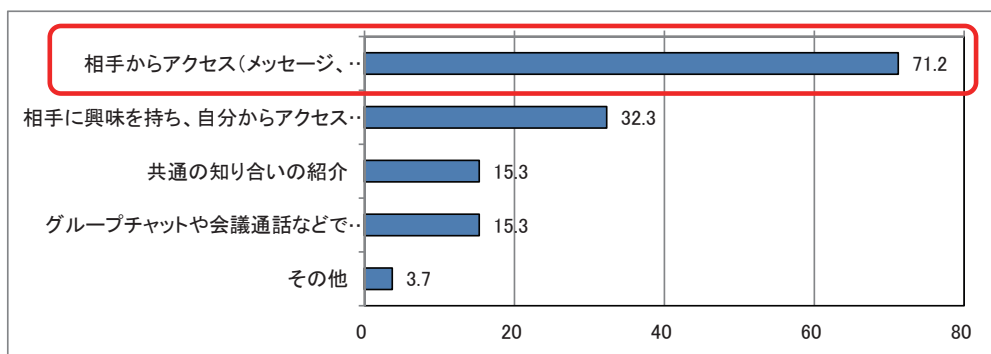


図 1.8.1 ネット上で男性と知り合ったきっかけ（降順，複数回答可，％）

【MROC 定性調査で得られた女子高校生のエピソード（発言は原文のまま）】

「どうしてネットで知らない人とやりとりするようになったんだっけ？」という質問に対し、

「Twitter で私から積極的に同じ趣味、同じ年代、気になった方、などのユーザーをフォローさせて頂いて、そこからその日やっている TV 番組 や アニメ の話題でリプライをする

ようになりました。」(LNさん, 高2, 17歳, 東京都在住)

「だいたい、友達募集とか、Twitterでいうと、RTした人全員フォローするとかで、始まって...話す人が増えて行くっていう、流れですね。」(MZさん, 高3, 18歳, 岐阜県在住)

「私は中1で始めたアメブロが全ての始まりですかね～。あんまりよく覚えてはいないけど当時ペタとか掲示板?とかすごく活発で。そこに何か跡をつけてくれた人の中でも趣味が合いそうな人が話しかけてくれてアメンバー申請してくれたりとかから始まったのかな～」(HYさん, 高2, 17歳, 群馬県在住)

「もなちやと というサイトでたくさんの方々と知り合いました!アスキーアートなどのキャラクターをつかって10人が入れる部屋でチャットができるものです!(中略)2人で話す時も共通の話題で盛り上がったりできますね。男の人は話してる途中で連絡先を聞いてきたりするので、そこでより仲良くなったりします。」(MSさん, 高2, 17歳, 埼玉県在住)

ネット上で男性と知り合ったきっかけについて、年代別にみたところ、有意差は見られなかったが、学生・職業別にみたところ、表 1.8.1 のように自分からアクセスしたのは無職の人に多く、複数人とやりとりするなかで知り合ったのは高校生に多かった。

表 1.8.1 ネット上で男性と知り合ったきっかけ (学生・職業別, %)

	高校生 (n=319)	短大生・高専 生・専門学校生 (n=78)	大学生・ 大学院生 (n=269)	社会人 (非正社員) (n=316)	社会人 (正社員) (n=278)	無職 (n=172)	
相手からアクセスされた	69.9	79.5	71.4	70.6	78.1	70.9	ns
相手に興味を持ち、自分からアクセスした	35.4	30.8	34.2	30.7	27.0	41.3	*
共通の知り合いの紹介	18.2	15.4	13.4	14.9	16.9	14.0	ns
複数人とやりとりするなかで知り合った	21.0	11.5	11.5	14.9	12.9	19.8	**

χ^2 検定, ** p<0.01, * p<0.05, ns 有意差なし
着色セルは残差分析の結果, 濃黄色 p<0.01, 薄黄色 p<0.05

1.9 男性とネット上でやりとりするときのふるまい方 (問 15)

ネット上で男性と知り合ったことがあると回答した人 (n=1460) に対し、ネットで知り合った男性とネット上でやりとりするときどんなふうになるかについて、複数回答可で聞いたところ、「ふだんと変わらない自分で接する」という人が最も多く、約半数であった。「その他」の自由記述欄では「その時の気分で、相手によっていろいろな人物を演じる」「普段は出さない素の自分で接する」「ソーシャルメディアによって使い分ける」等の回答が得られた。

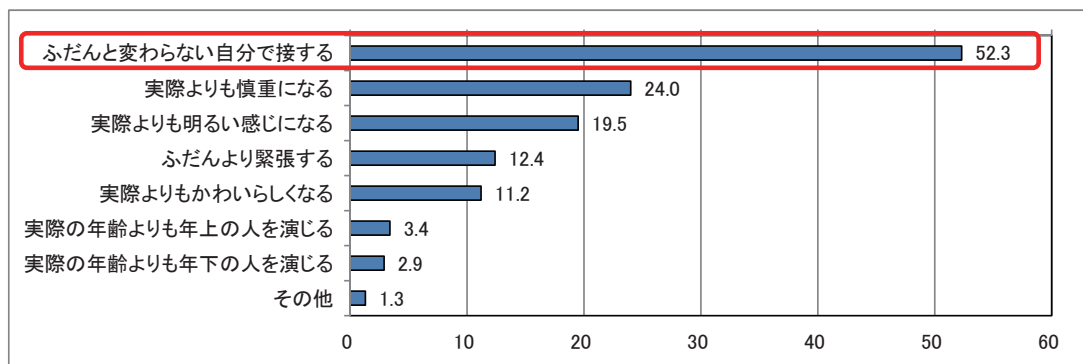


図 1.9.1 男性とネット上でやりとりするときのふりまひ方 (降順, 複数回答可, %)

【MROC 定性調査で得られた女子高校生のエピソード (発言は原文のまま)】

「ネットの人に対しては実年齢よりも大人っぽく心がけてます。」(SS さん, 高3, 18歳, 埼玉県在住)

「ネットとリアルの違いと言えは、私の場合はどれだけ素の自分を晒せるかです。リアル
の友達にはあまり素の自分を晒すことが出来ず、いつもみんなに合わせています。ネット
だと自分の意見をしっかり主張することが出来ます。」(NK さん, 高3, 18歳, 東京都
在住)

表 1.9.1 男性とネット上でやりとりするときのふりまひ方 (年代別, %)

	10代後半 (n=551)	20代前半 (n=428)	20代後半 (n=453)	
ふだんと変わらない自分で接する	53.9	52.3	53.4	ns
実際よりも慎重になる	23.8	26.9	23.2	ns
実際よりも明るい感じになる	20.5	16.6	22.1	ns
ふだんより緊張する	13.1	13.6	11.3	ns
実際よりもかわいらしくなる	14.0	10.3	9.5	†

χ^2 検定, † p<0.1 ns 有意差なし
着色セルは残差分析の結果, 薄黄色 p<0.05

表 1.9.2 男性とネット上でやりとりするときのふりまひ方 (学生・職業別, %)

	高校生 (n=319)	短大生・高専 生・専門学校生 (n=78)	大学生・ 大学院生 (n=269)	社会人 (非正社員) (n=316)	社会人 (正社員) (n=278)	無職 (n=172)	
ふだんと変わらない自分で 接する	54.5	59.0	51.7	54.7	50.4	52.9	ns
実際よりも慎重になる	26.6	23.1	27.1	24.7	24.1	17.4	ns
実際よりも明るい感じになる	22.9	7.7	17.5	21.2	18.3	23.3	*
ふだんより緊張する	11.6	15.4	11.2	13.3	8.6	20.9	**
実際よりもかわいらしくなる	13.2	11.5	11.9	10.1	11.5	9.9	ns

χ^2 検定, ** p<0.01, * p<0.05, ns 有意差なし
着色セルは残差分析の結果, 濃黄色 p<0.01, 薄黄色 p<0.05

ネットで知り合った男性とネット上でやりとりするときのふるまい方で、1割以上の回答があった選択肢について年代別にみると、表 1.9.1 のようにあまり有意差は見られなかったが、「実際よりもかわいらしくなる」のは 10 代後半に多い傾向が見られた。学生・職業別にみると、表 1.9.2 のように、短大生・高専生・専門学校生は、実際よりも明るい感じになる割合は低く、ふだんより緊張するのは無職の割合が高く、社会人（正社員）の割合が低かった。

1.10 ネットで知り合った男性とやりとりをやめようと思った経験（問 16）

ネット上で男性と知り合ったことがあると回答した人（n=1460）に対し、ネットで知り合った男性とやりとりをやめようと思った経験の有無を聞いたところ、図 1.10.1 のように 6 割以上がやめようと思った経験があると回答した。

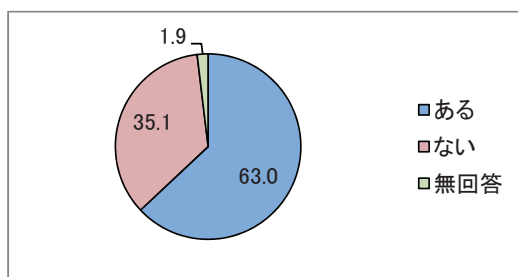


図 1.10.1 ネットで知り合った男性とやりとりをやめようと思った経験の有無 (%)

年代別でみたところ統計的な有意差は見られなかったが、学生・職業別でみたところ、社会人（正社員）でその割合は高く、大学生・大学院生でその割合が低かった。 $\chi^2(5)=15.537$, $p<0.01$

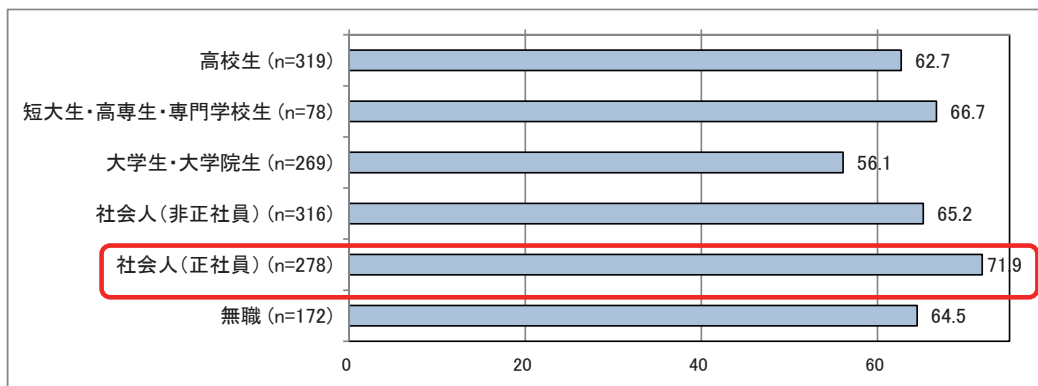


図 1.10.2 ネットで知り合った男性とやりとりをやめようと思った割合（学生・職業別，%）

ネットで知り合った男性とやりとりをやめようと思った経験があると回答した人 (n=920) に対して、その理由を複数回答可で聞いたところ、図 1.10.3 のように「話題がつまらなかった」が約 4 割で最も多く、次いで「性的な話題、下ネタが多かった」「相手からの連絡が頻繁すぎた」であった。

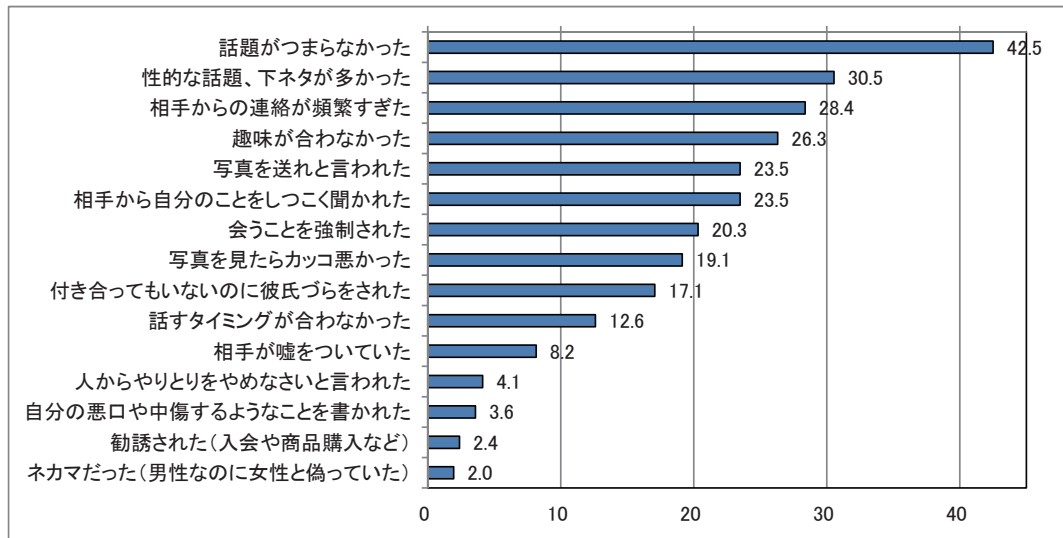


図 1.10.3 ネットで知り合った男性とやりとりをやめようと思った理由
(降順, 複数回答可, %)

【MROC 定性調査で得られた女子高校生のエピソード (発言は原文のまま)】

「住所や本名を何度もしつこく訊かれたり、メールアドレスや携帯番号を訊かれたことが面倒で嫌でした。一度嫌だなと思うと即ブロックしますけどね。」(LN さん, 高 2, 17 歳, 東京都在住)

「前にデコログで知り合った男性に LINE の ID を教えて、そこからはばらく楽しく会話できていたんですが、仲良くなったら会おう会おうとしつこく言われるようになって…。めんどくさいから無視し始めたんですけど。今でもたまーに LINE くるんですけどずっと無視して既読もつけないようにしています)^^)」(SK さん, 高 3, 18 歳, 大阪府在住)

「会おうって言われて、この人とは会いたくないと思って遠まわしに断ってるのに何度も誘って来る人がむかつきます！！普通に日常会話くらいに下ネタを話すのは良いけど、生々しくなったり限度がない話ししてくるのもほんとにいやです(;_;)」(CE さん, 高 2, 16 歳, 東京都在住)

「付き合ってもいないのに彼氏面されるのも気持ち悪かったです。結局は Twitter も Skype もブロックしました。」(NH さん, 高 2, 17 歳, 栃木県在住)

ネットで知り合った男性とやり取りをやめようと思った理由について年代別にみたところ、表 1.10.1 のように「性的な話題、下ネタが多かった」「写真を送れと言われた」「付き合ってもいないのに彼氏づらされた」という理由は 10 代に多く、「趣味が合わなかった」という理由は 10 代より 20 代に多く見られた。

表 1.10.1 ネットで知り合った男性とやりとりをやめようと思った理由（年代別，％）

	10代後半 (n=355)	20代前半 (n=263)	20代後半 (n=302)	
話題がつまらなかった	42.0	41.4	44.0	ns
性的な話題、下ネタが多かった	37.5	31.2	21.9	***
相手からの連絡が頻繁すぎた	31.0	27.0	26.5	ns
趣味が合わなかった	22.3	28.9	28.8	†
写真を送れと言われた	27.9	20.1	21.2	*
相手から自分のことをしつこく聞かれた	24.2	20.9	24.8	ns
会うことを強制された	20.0	21.3	19.9	ns
写真を見たらカッコ悪かった	22.0	19.4	15.6	ns
付き合ってもいないのに彼氏づらをされた	20.6	15.2	14.6	†
話すタイミングが合わなかった	12.4	12.5	12.9	ns

χ^2 検定，*** $p<0.001$ ，* $p<0.05$ ，† $p<0.1$ ，ns 有意差なし
着色セルは残差分析の結果，濃黄色 $p<0.01$ ，薄黄色 $p<0.05$

表 1.10.2 ネットで知り合った男性とやりとりをやめようと思った理由（学生・職業別，％）

	高校生 (n=200)	短大生・高専 生・専門学校生 (n=52)	大学生・ 大学院生 (n=151)	社会人 (非正社員) (n=206)	社会人 (正社員) (n=200)	無職 (n=111)	
話題がつまらなかった	42.5	48.1	41.7	42.2	42.0	42.3	ns
性的な話題、下ネタが多かった	38.0	48.1	22.5	27.7	25.5	34.2	**
相手からの連絡が頻繁すぎた	29.5	30.8	29.1	25.2	30.0	27.0	ns
趣味が合わなかった	19.5	32.7	23.2	27.2	28.5	34.2	†
写真を送れと言われた	31.0	28.8	17.2	19.4	20.0	29.7	**
相手から自分のことをしつこく聞かれた	24.5	23.1	18.5	25.2	24.5	23.4	ns
会うことを強制された	18.0	25.0	14.6	21.8	21.5	25.2	ns
写真を見たらカッコ悪かった	24.0	32.7	11.3	18.0	15.5	23.4	**
付き合ってもいないのに彼氏づらをされた	19.5	32.7	10.6	15.5	15.0	20.7	**
話すタイミングが合わなかった	13.5	13.5	12.6	8.7	12.5	18.0	ns

χ^2 検定，** $p<0.01$ ，† $p<0.1$ ，ns 有意差なし
着色セルは残差分析の結果，濃黄色 $p<0.01$ ，薄黄色 $p<0.05$

ネットで知り合った男性とやり取りをやめようと思った理由について学生・職業別にみたところ、表 1.10.2 のように「性的な話題、下ネタが多かった」と「写真を見たらカッコ悪かった」という理由は高校生や短大生・高専生・専門学校生に多く、「付き合ってもいないのに彼氏づらされた」という理由は短大生・高専生・専門学校生に多く、「写真を送れと言われた」のは高校生に多かった。

2. 実際の出会い

2.1 ネットでやりとりした見知らぬ人と実際に会った経験（問 18）

ネットで見知らぬ人（相手は男女を問わず）とやりとりした経験がある人（2043人）に対し、相手と実際に会った経験について複数回答¹⁾で尋ねた（問 18）。その結果、対象者の52.3%（1068人）が実際に相手と会った経験があった。また、そのうち半数超に当たる34.4%（702人）は実際に会った相手に男性も含まれていた（図 2.1.1）。

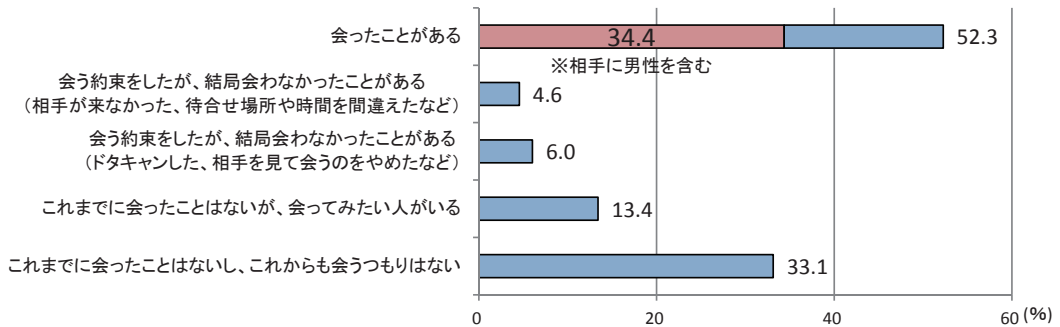


図 2.1.1 ネットでやりとりした見知らぬ人と実際に会った経験（複数回答）

※分析母数はネットで見知らぬ人とやりとりした経験がある人（N=2043）。

※「会ったことがある」以外については相手の男女を問わない数値のみを表示。

「会ったことがある」の回答に絞って、年層別と学生・職業別の比較を行った（結果は次頁の図 2.1.2）。年層別に見ると、全体（「相手は男女とも」と「相手は女性のみ」の合計）と「相手は男女とも」の割合は年層が上がるにつれて高くなる傾向が見られ、 χ 二乗検定で危険率 0.1%未満の有意な偏りが認められた。また学生・職業別では社会人（正規、非正規とも）、短大・高専・専門学校生、無職の割合が比較的高く、こちらも χ 二乗検定で危険率 0.1%未満の有意な偏りが見られた。

年層別の結果については、本質問（問 18）が過去全体における経験の有無を尋ねる形式になっていたためと考えられる。学生・職業別の結果は、社会人（正規、非正規とも）や無職に関しては年層別の傾向と整合的である。他方、短大・高専・専門学校生は平均年齢が低い（次頁の表 2.1.1）にもかかわらずの高い割合であり年層別の傾向とは異なる背景があると考えられる。だが本調査ではそうした背景に関する質問をしていないため、これ以上は検証できない。

¹⁾ 「実際に会った人もいれば、約束をしたが会わなかった人もいる」といったように、選択肢の中から1つだけを選ぶことは困難と考えられたため、複数回答とした。

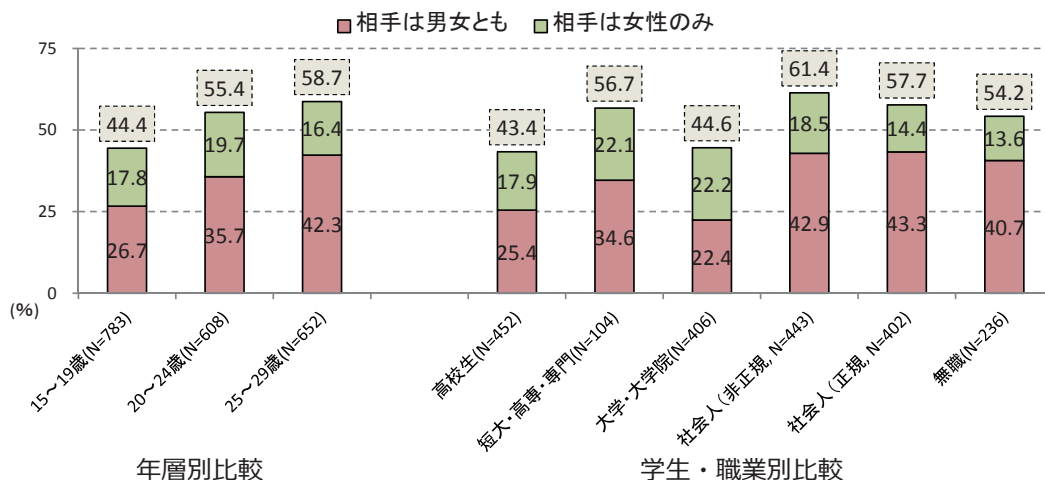


図 2.1.2 ネット上の見知らぬ人と「(実際に) 会ったことがある」人の割合の属性別比較

※分析母数はネットで見知らぬ人とやりとりした経験がある人 (全体で N=2043)。

※棒グラフ上端の枠線で囲った数値は「相手は男女とも」と「相手は女性のみ」の合計。

表 2.1.1 学生・職業別に見た回答者の平均年齢

	高校生 (N=554)	短大・高専・ 専門学校生 (N=141)	大学生・ 大学院生 (N=644)	社会人 (非正規) (N=675)	社会人 (正規) (N=660)	無職 (N=326)
平均年齢	17.3 歳	19.8 歳	20.5 歳	25.1 歳	25.7 歳	24.0 歳

※分析母数は回答者全体 (合わせて N=3000)。

2.2 実際に会った人数 (問 19)

実際に会った経験がある人(1068人)に限定して相手の属性ごとに人数を尋ねた(問 19)。「0人」の回答を含む単純平均では、男性の相手は各年代あわせて 3.5 人、女性の相手は各年代あわせて 5.3 人であった。相手の年代別では男性では年上が、女性では年上と同年代が多くを占めた (図 2.2.1)。

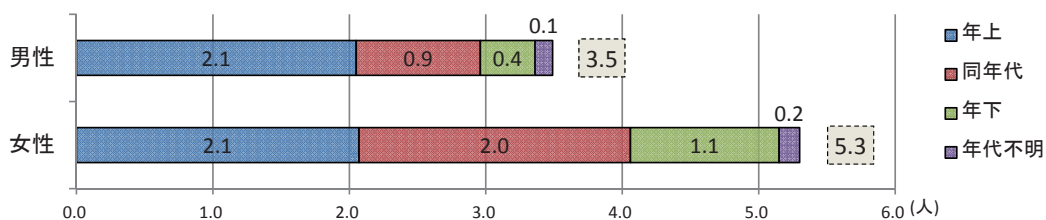


図 2.2.1 実際に会った相手の属性別人数 (単純平均)

※それぞれの数値は実際に会った経験のある人全体 (N=1068) による平均値。

※棒グラフ右端の枠線で囲った数値は各年代の合計。

「0人」を除いた行為者平均では、男性の相手は各年代あわせて5.3人、女性の相手は各年代あわせて7.4人となった。行為者の数には違いが見られるが、平均人数では相手の年代による差がさほど顕著ではなかった(図2.2.2)。すなわち、会うか会わないかは相手の年代によって多少異なるが、会った人に限ればどの年代が相手でも人数にさほどの違いはないということである。続いて実際に会った男性の人数を年層別、学生・職業別で比較したが、いずれの組み合わせでも有意差は認められなかった(図表は省略)。

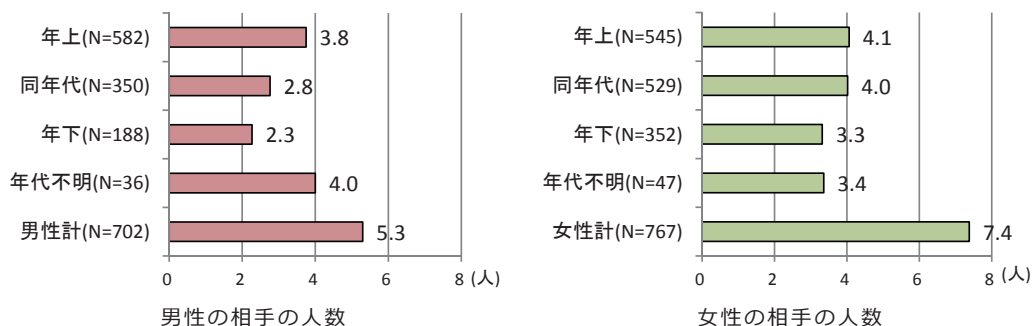


図 2.2.2 実際に会った相手の属性別人数 (行為者平均)

※それぞれ「0人」回答を除いた行為者の平均値 (N数は各別に表示)。

※「男性計」「女性計」が年代別平均の合計と一致しないのは、「男性計」「女性計」がいずれかの年代に1人以上いるサンプルの平均であるのに対し、年代別はそれぞれにおいて1人以上いるサンプルの平均であり、平均値をとったサンプルが一致しないからである。

2.3 実際に会って良かった点 (問 20)

実際に会った男性の人数が1人以上の回答者702人を対象に、実際に会って良かった点を複数回答で尋ねた(問20)。全体では「趣味の合う人と深い話ができた」(48.3%)が最多で、「リアルの世界では知り合えない人と会うことで世界が広がった」(29.3%)、「一緒に出掛ける遊び友だちを見つけられた」(23.1%)、「彼氏候補を見つけられた」(20.5%)が続いた(次頁の図2.3.1)。

年層別の比較ではいずれも有意な偏りは見られなかったが、15~19歳において「欲しいものを買ってくれたり、ごはんをおごってくれたりする人を見つけられた」や「リアルの間人関係の中より、チャホヤしてもらえた」などの欲求充足的な面を挙げた人の割合が高かった(次頁の図2.3.2)。この点はいわゆる「援助交際」のような危険な出会いへの誘因を考える上で示唆的な結果と考えられる。

学生・職業別の比較では「彼氏候補を見つけられた」と「寂しさを埋められた」で該当者の割合に偏りが見られ、いずれも短大・高専・専門学校生と無職における割合が顕著に高かった(次頁の図2.3.3)。他と比べてこれらの層では、交際相手探しや寂しさの解消がネットを介した異性との出会いの大きな誘因の一つになっている可能性がある。

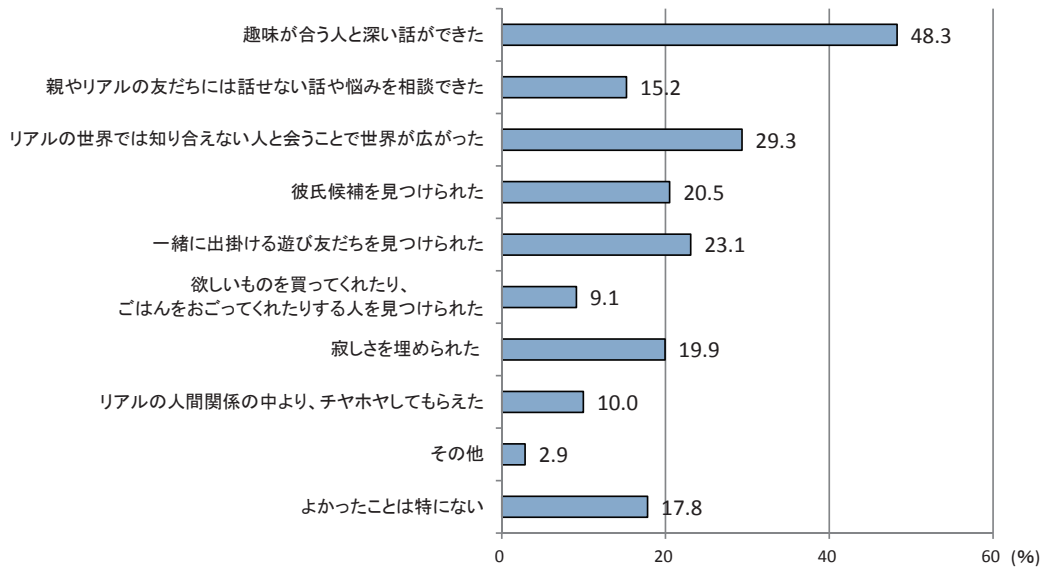


図 2.3.1 実際に会って良かった点（複数回答）

※分析母数は実際に会った男性の人数が1人以上の人（N=702）。

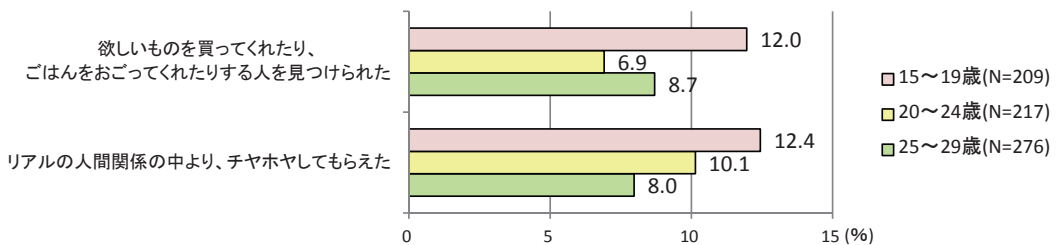


図 2.3.2 実際に会って良かった点の年層別比較（一部項目のみ）

※分析母数は実際に会った男性の人数が1人以上の人（全体でN=702）。

※ χ^2 乗検定の結果、いずれも有意な偏りなし。

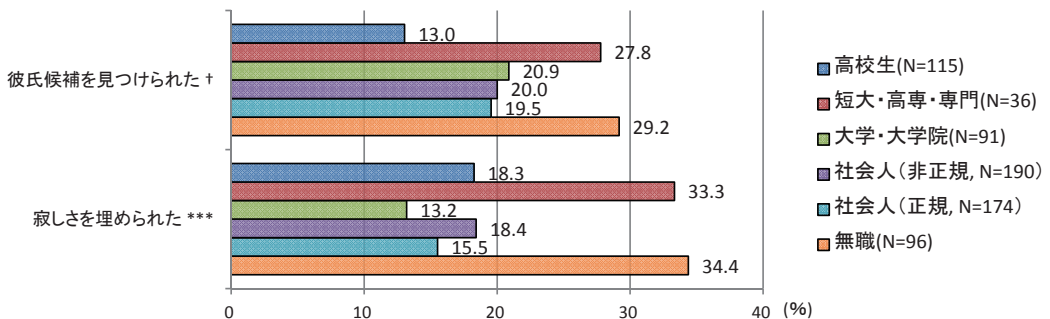


図 2.3.3 実際に会って良かった点の学生・職業別比較（一部項目のみ）

※分析母数は実際に会った男性の人数が1人以上の人（全体でN=702）。

※記号： χ^2 乗検定結果（*** $p < .001$, † $p < .10$ ）。

2.4 実際に会って良くなかった点（問 21）

2.3 と同様、実際に会った男性の人数が 1 人以上の回答者 702 人を対象に、実際に会って良くなかった点を複数回答で尋ねた（問 21）。結果「事前のやりとりでイメージしていた人と違う感じだった」（28.9%）や「相手との会話がはずまなかった」（21.8%）など、事前イメージとの相違や相手とのミスマッチに関わる内容が比較的多く挙げられたが、「手を握られたり、体を触られたりした」（15.5%）、「そういうつもりがなかったのに、性的関係になった」（11.7%）など身体的被害も挙げられ、身体的被害のいずれかに該当した人は全体の 20.8%であった（図 2.4.1）。

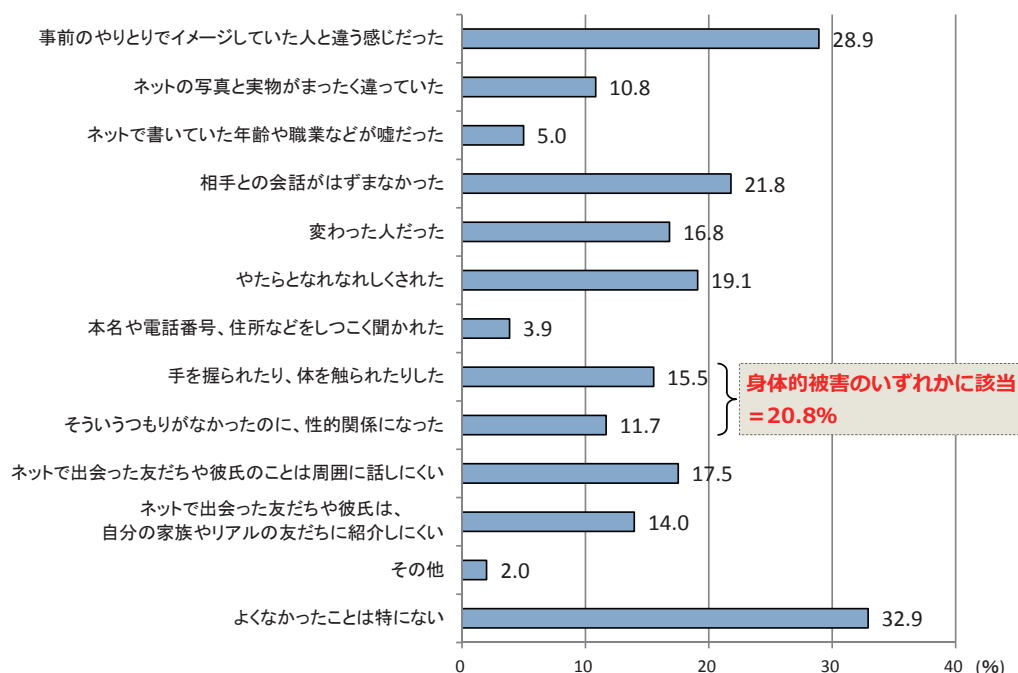


図 2.4.1 実際に会って良くなかった点（複数回答）

※分析母数は実際に会った男性の人数が 1 人以上の人（N=702）。

身体的被害に注目して年層別に比較したところ、低年齢層ほど「手を握られたり、体を触られたりした」の該当割合が上がる傾向が見られた（次ページの図 2.4.2）。「性的関係になった」と「身体的被害のいずれかに該当」は 20～24 歳の該当割合が最も高かったが、偏りは有意ではなかった。

同様に学生・職業別で比較すると、「手を握られたり、体を触られたりした」と「身体的被害のいずれかに該当」において有意な偏りが見られ、短大・高専・専門学校生の該当割合が顕著に高かった（次ページの図 2.4.3）。特に前者については年層別の比較結果との整合性

が高い。「性的関係になった」では顕著に高い層は見られなかったが、高校生(12.2%)が大学生・大学院生(6.6%)や社会人(正規11.5%、非正規10.5%)よりも高い割合を示した。数値自体は顕著でないとしても、未成年が成年(正確に言えば成年が多く含まれる層²⁾)に劣らず性的被害に遭っていることを示唆するこの結果は、青少年保護の観点からは注目すべきものと考えられる。

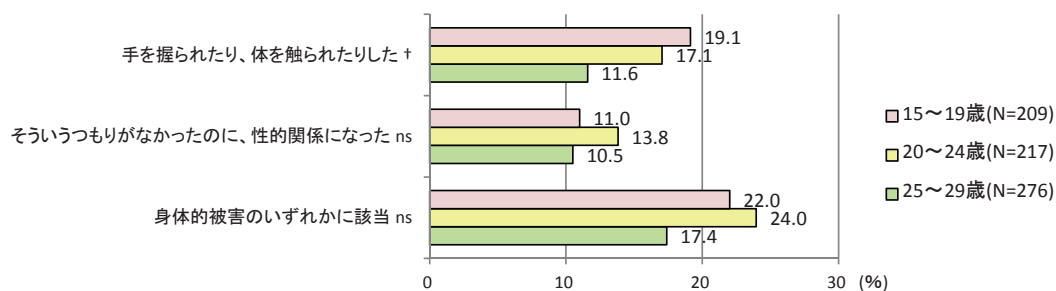


図 2.4.2 実際に会って良くなかった点(身体的被害)の年層別比較

※分析母数は実際に会った男性の人数が1人以上の人(全体でN=702)。
 ※記号: χ^2 乗検定結果 († $p < .10$, ns 有意な偏りなし)。

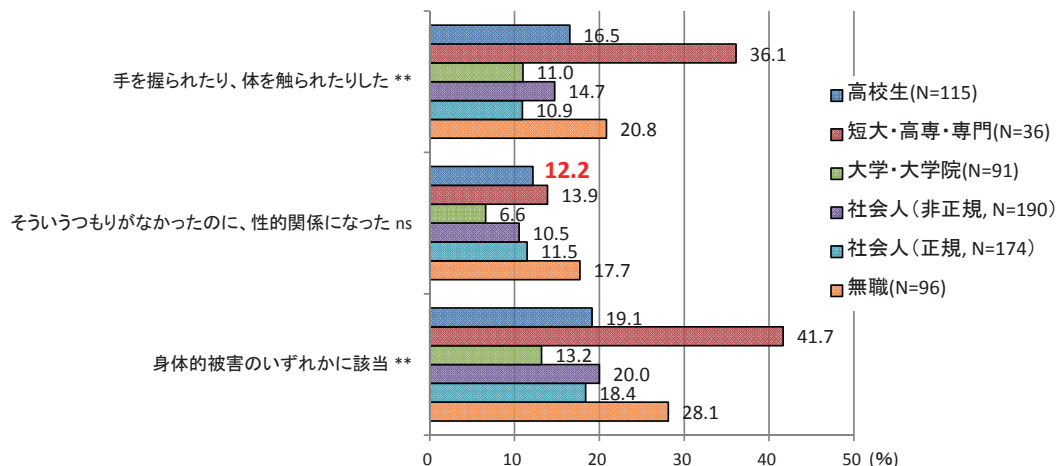


図 2.4.3 実際に会って良くなかった点(身体的被害)の年層別比較

※分析母数は実際に会った男性の人数が1人以上の人(全体でN=702)。
 ※記号: χ^2 乗検定結果 (** $p < .01$, ns 有意な偏りなし)。

2.5 実際に会った異性について誰かに話したか(問22)

実際に会った男性の人数が1人以上の回答者702人を対象に、(1)ネット上でのやりとりと(2)実際に会うことのそれぞれについて話した相手を複数回答で尋ねた(問22)。結果を

²⁾ 参考として本調査における学生・職業別の平均年齢(表2.1.1)を参照ありたい。

見ると、どちらの場合も「リアルの友だち」「誰にも話していない」の順に該当割合が高く、母親も他の相手に比べれば多めとなった。母親と父親のいずれかに話した割合を見ると(1)では17.7%、(2)では18.5%で全体の約2割が実際に会った男性について両親のどちらかに話をしていた。他方で、(1)(2)両方とも「誰にも話していない」と回答した人も30.1%に上った(図2.5.1)。

(1)と(2)の差はいずれの相手でもほとんど見られず、(1)(2)のいずれかに該当した割合を見てもそれぞれの数値と大きくは変わらなかった。(1)(2)への該当には重複の多いことがうかがわれる³⁾。それぞれ異なる男性に関して回答していることも考えられるため断定はできないが、ネット上のやりとりを話した場合は実際に会うこともあわせて話すケースが多いのではないかと考えられる。

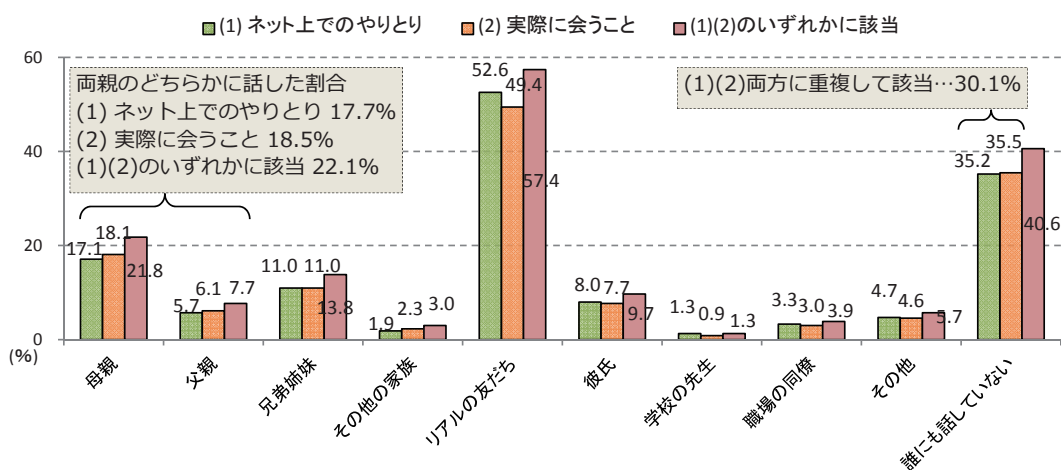


図 2.5.1 実際に会った男性について話した相手（複数回答）

※分析母数は実際に会った男性の人数が1人以上の人(N=702)。

比較的該当割合の高い「母親」「リアルの友だち」「誰にも話していない」に絞り、(1)(2)のいずれかに該当した割合(「誰にも話していない」は(1)(2)両方に該当した割合)を年齢別に比較した。結果「母親」では25~29歳だけ該当割合が低めに、「リアルの友だち」では年齢層が上がるにしたがって該当割合が下がる傾向が見られ、「誰にも話していない」では逆に年齢層が上がるほど該当割合が上がる傾向が見られた(次頁の図2.5.2)。

この結果を説明する1つの仮説としては「加齢につれてネット上の交友関係を話題にしなくなっていく」が考えられるが、もう1つの仮説として「現在の10代はネット上の交友

³⁾ 図表や本文の煩雑化を避けるため紹介しなかったが、(1)(2)両方に該当した割合をとった場合でも(1)(2)それぞれとの誤差は多くの項目で1~3%程度であり、最大でも8%(「リアルの友だち」における)であった。

関係をオープンに話すか、それより上の世代はそうではない」も考える。この年齢効果と世代効果を識別することは本調査データでは不可能である。

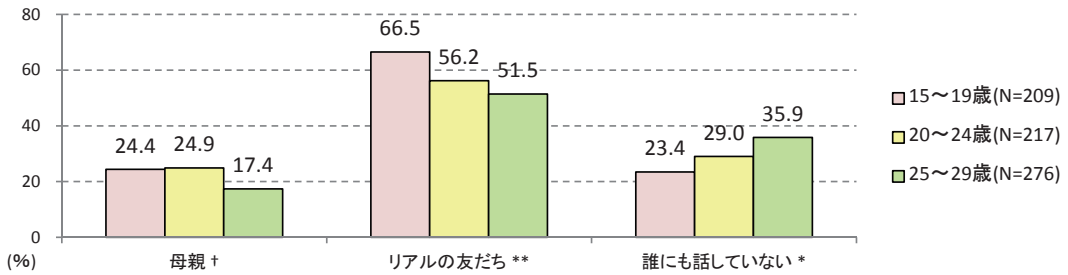


図 2.5.2 実際に会った男性について話した相手の年層別比較（一部項目のみ）

※分析母数は実際に会った男性の人数が1人以上の人（全体でN=702）。
 ※数値は「(1)ネット上でのやり取り」「(2)実際に会うこと」いずれかについてそれぞれの相手に話した人の割合を指す。ただし「誰にも話していない」だけは(1)(2)の両方に重複して該当した人の割合をとっている。
 ※記号： χ^2 二乗検定結果 (** p<.01, * p<.05, † p<.10)。

続いて、同じ3項目に絞って学生・職業別の比較を行った（図 2.5.3）。「母親」では社会人（正規、非正規とも）の該当割合がやや低かったが有意な偏りは認められなかった。他方「リアルの友だち」では高校生と短大・高専・専門学校生の該当割合が高く、「誰にも話していない」では逆にそれらの該当割合が低いといった偏りも見られた。高校生と短大・高専・専門学校生が低年齢層主体であることを踏まえれば、これらは年層別の傾向と整合的な結果と言える。

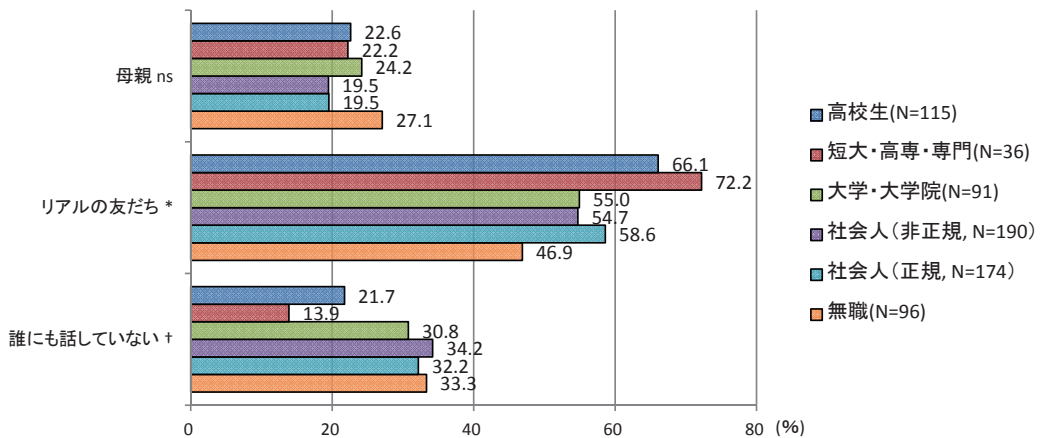


図 2.5.3 実際に会った男性について話した相手の学生・職業別比較（一部項目のみ）

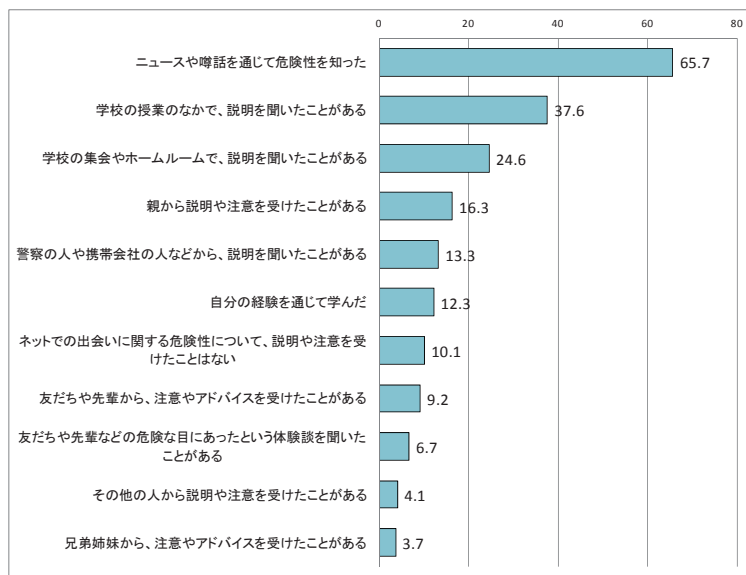
※分析母数は実際に会った男性の人数が1人以上の人（全体でN=702）。
 ※数値の内容は図 2.5.2 と同じ。
 ※記号： χ^2 二乗検定結果 (** p<.01, * p<.05, † p<.10)。

3 危険性はどの程度認知されているか

3.1 ネットでのやりとりや会うことの危険性の認知媒体(問 23)

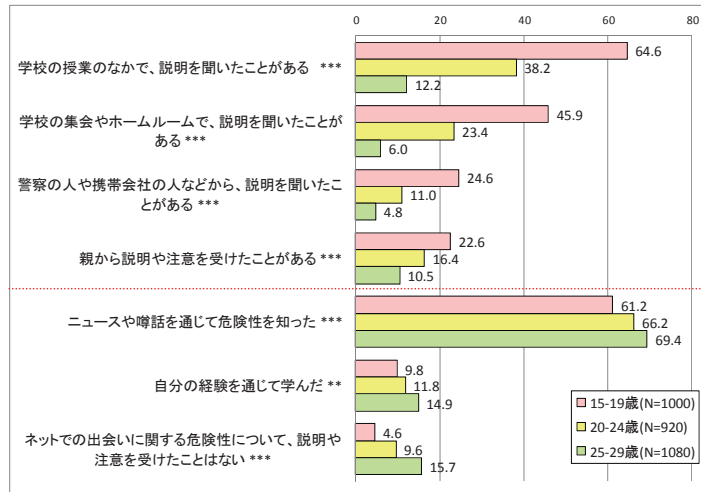
ネット上での知らない人とのやりとりや、その相手に実際に会うことの危険性について、どのような人を通じて知ったかを調査対象者全員 (N=3000) に複数回答で尋ねた。その結果、「ニュースや噂話を通じて危険性を知った」(65.7%) が最も回答比率が高く、次いで「学校の授業のなか」(37.6%)、「学校の集会やホームルーム」(24.6%) といった学校関連の回答比率が高かった(図 3.1.1)。また、「ネットでの出会いに関する危険性について、説明や注意を受けたことはない」人も約 1 割 (10.1%) 存在した。

図 3.1.1 で 1 割以上の回答があった 7 つの選択肢項目について、年層別に比較をしたのが図 3.1.2、学生・職業別に比較をしたのが表 3.1.1 である。年層別でみると、年齢層が低いほど「学校(授業・授業以外共に)」、「警察や携帯会社の人」、「親」から説明・注意を受けた比率が高く、年齢層が高いほど学校等の組織や親以外(「ニュースや噂話」、「自分の経験」)による危険性の認知や「説明や注意を受けたことがない」の比率が高いことがわかる。学生・職業別でみると、学生の中でも特に高校生において学校や組織からネットの危険性の説明・注意を受けた比率が高く、ネットでの出会いに関連した被害が多い傾向にある若年層(高校生)に対して、学校等の組織や親による注意喚起が比較的行われている様子が見えてくる。



※分析母数：調査対象者全員 (N=3000)

図 3.1.1 ネットでのやりとりや会うことの危険性の認知媒体 (降順, 単位: %)



※分析母数：調査対象者全員(N=3000)
 ※ χ^2 二乗検定結果：*** p<0.001, ** p<0.01

図 3.1.2 ネットでのやりとりや会うことの危険性の認知媒体(年層別, 単位: %)

表 3.1.1 ネットでのやりとりや会うことの危険性の認知媒体(学生・職業別, 単位: %)

	高校生 (N=554)	短大・高専・ 専門学校 (N=141)	大学・ 大学院生 (N=644)	社会人 (非正社員) (N=675)	社会人 (正社員) (N=660)	無職 (N=326)	
学校の授業のなかで、説明を聞いたことがある	64.4	58.6	56.2	19.9	19.5	19.3	***
学校の集会やホームルームで、説明を聞いたことがある	48.9	40.4	36.0	11.0	10.5	11.0	***
警察の人や携帯会社の人などから、説明を聞いたことがある	27.8	22.7	13.7	7.4	8.3	6.1	***
親から説明や注意を受けたことがある	24.7	16.3	20.2	11.7	11.7	13.5	***
ニュースや噂話を通じて危険性を知った	58.3	67.4	63.2	71.4	66.4	69.0	***
自分の経験を通じて学んだ	9.0	13.5	8.4	15.3	11.8	19.6	***
ネットでの出会いに関する危険性について、説明や注意を受けたことはない	4.0	7.1	7.9	11.9	14.4	14.1	***

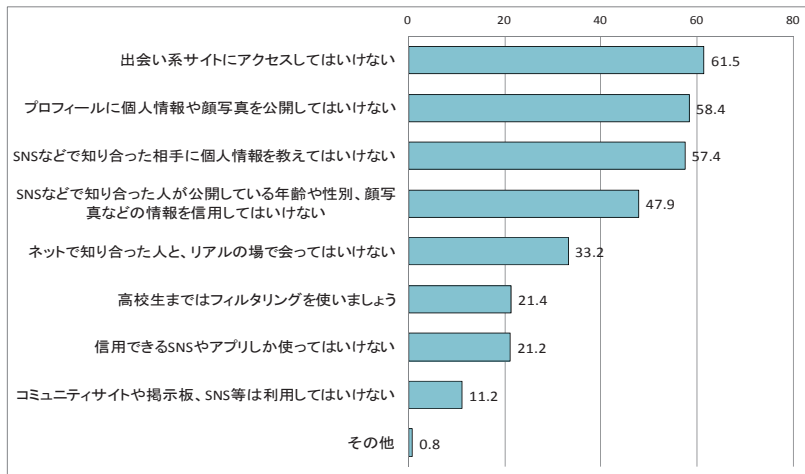
※分析母数：調査対象者全員(N=3000)
 ※ χ^2 二乗検定結果：*** p<0.001
 ※赤字：特徴的なセル(以降、本章では同様の意味)

3.2 話を聞いた危険性の内容(問 24)

ネットでの知らない人とのやりとり等の危険性について他者・組織を通して認知した人(N=2580)に対し、受けたことのある説明や注意の内容を複数回答で尋ねた。図 3.2.1 に示した通り、「出会い系サイトにアクセスしてはいけない」(61.5%)の回答比率が最も高く、他に「プロフィールに個人情報や顔写真を公開してはいけない」(58.4%)、「SNSなどで知り合った相手に個人情報を教えてはいけない」(57.4%)といった個人情報公開に関する内容が上位を占めた。

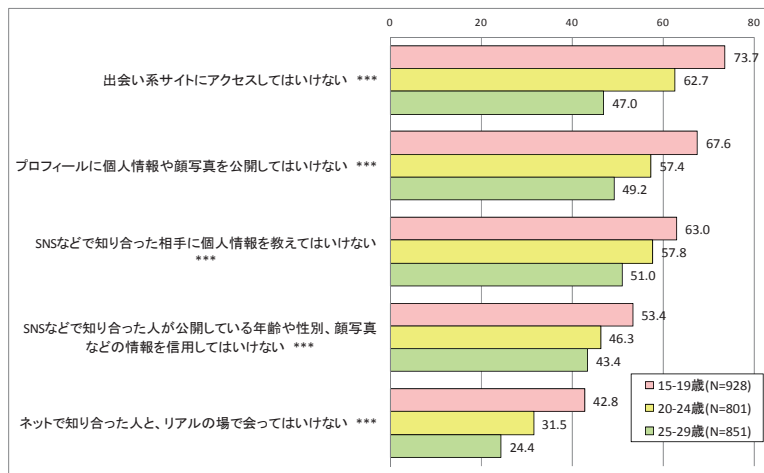
図 3.2.1 で 3 割以上の回答があった 5 つの選択肢項目について、年層別に比較をしたの

が図 3.2.2、学生・職業別に比較をしたのが表 3.2.1 である。年層別では、全ての選択肢項目に関して年齢が低い層ほど有意に該当する比率が高かった (χ^2 二乗検定の結果、0.1% 水準で有意)。学生・職業別でみると、学生全般の回答比率が高い中で、「出会い系サイトにアクセスしてはいけない」、「ネットで知り合った人と、リアルの中で会ってはいけない」といった犯罪に比較的結びつきやすい内容に関しては、高校生の回答比率が高かった。



※分析母数：ネットの危険性について他者・組織を通して認知した人 (N=2580)

図 3.2.1 話を聞いた危険性の内容 (降順, %)



※分析母数：ネットの危険性について他者・組織を通して認知した人 (N=2580)

※ χ^2 二乗検定結果：*** $p < 0.001$

図 3.2.2 話を聞いた危険性の内容 (年層別, %)

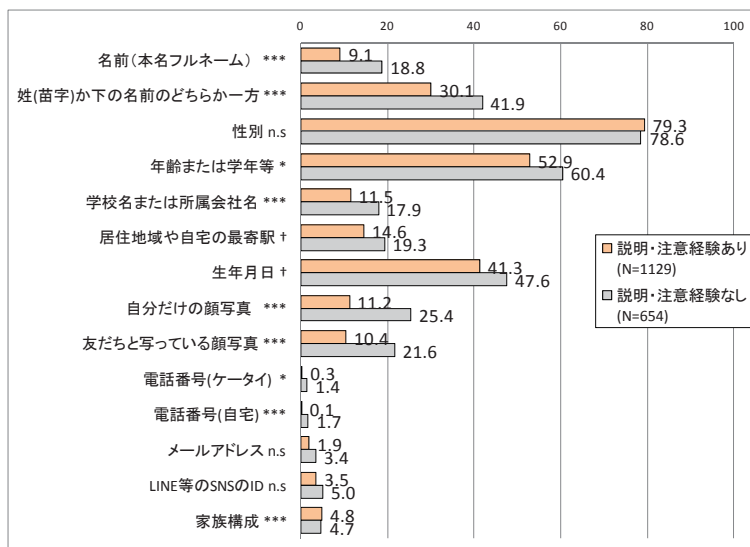
表 3.2.1 話を聞いた危険性の内容（学生・職業別，単位：％）

	高校生 (N=519)	短大・高专・ 専門学校 (N=125)	大学・大学院 生 (N=576)	社会人 (非正社員) (N=556)	社会人 (正社員) (N=538)	無職 (N=266)	
出会い系サイトにアクセスしては いけない	76.3	63.2	69.6	55.9	48.9	51.1	***
プロフィールに個人情報や顔写真を 公開してはいけない	65.5	67.2	66.5	50.5	47.2	61.7	***
SNSなどで知り合った相手に個人情 報を教えてはいけない	60.1	58.4	67.0	51.3	51.1	56.8	***
SNSなどで知り合った人が公開して いる年齢や性別、顔写真などの情 報を信用してはいけない	50.1	52.0	56.4	43.7	42.8	42.5	***
ネットで知り合った人と、リアルな場 で会ってはいけない	45.5	31.2	37.7	26.3	24.5	32.7	***

※分析母数：ネットの危険性について他者・組織を通して認知した人 (N=2580)

※ χ^2 乗検定結果：*** p<0.001

次に、ネット上での知らない人とのやり取り等の危険性に関する啓発活動が有効かについて検討を行った。まず、図 3.2.3 は、「プロフィールに個人情報や顔写真を公開してはいけない」という説明・注意を受けた経験の有無と、最も交流している（していた）ソーシャルメディア上での個人情報の公開の関係をみたものである。図中の数値はプロフィール等で情報を公開している比率を示しており、説明・注意を受けた経験がある人の方が情報を公開していない傾向にあることがわかる。特に、顔写真（自分だけ・友だちと一緒に）と本名の公開に関しては、説明・注意を受けた経験の有無によって回答に際立った偏りが見られた。



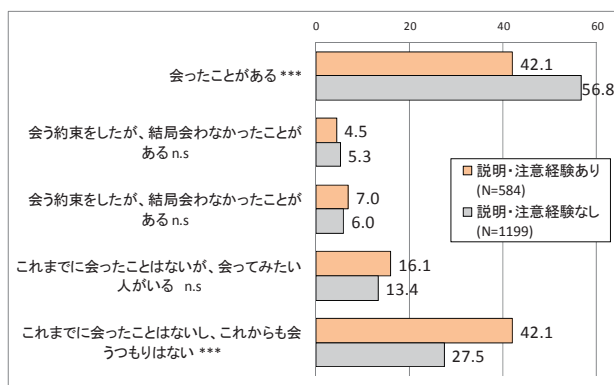
※分析母数：ネットの危険性について他者・組織を通して認知し、ソーシャルメディア上で知らなかった人とのやりとり経験もある人 (N=1783)

※ χ^2 乗検定結果：*** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05, † <0.10, n.s 有意差なし

図 3.2.3 説明・注意の有効性（プロフィール公開情報）（単位：％）

図 3.2.4 は、「ネットで知り合った人と、リアル場で会ってはいけない」という説明・注意を受けた経験の有無と、ネットで知り合った人と実際に会った経験の関係をみたものである。χ²乗検定の結果、「会ったことがある」と「これまでに会ったことはないし、これからも会うつもりはない」の2項目に関して、説明・注意を受けた経験の有無で有意な偏りがみられた。説明・注意を受けた経験がない人の方が実際に会った経験があり、説明・注意を受けた経験がある人の方が過去に実際に会った経験もこれから会う意思もない。

このような図 3.2.3、図 3.2.4 の結果は、啓発活動が全く無効ではないということを示唆するものである。したがって、説明・注意の内容の十分な検討と、説明・注意を記憶にとどめておけるような工夫が啓発活動には必要だと考えられる。



※分析母数：ネットの危険性について他者・組織を通して認知し、ソーシャルメディア上で知らなかった人とのやりとり経験もある人 (N=1783)

※χ²乗検定結果：*** p<0.001, n.s 有意差なし

図 3.2.4 説明・注意の有効性（ネットで知り合った人と「会う」こと）（単位：％）

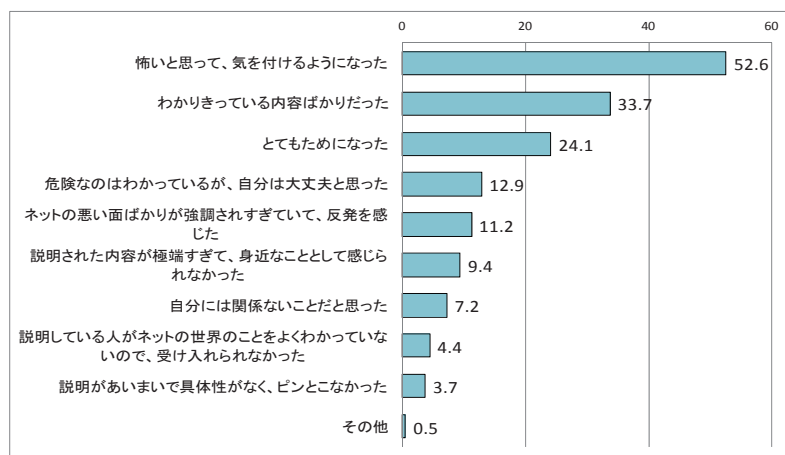
3.3 話を聞いたときの感想（問 25）

ネットでの知らない人とのやりとり等の危険性について他者・組織を通して認知した人 (N=2580) に対し、説明や注意を受けた時の感想を複数回答で尋ねた。その結果、「怖いと思って気を付けるようになった」(52.6%) の回答比率が最も高く、「わかりきっている内容ばかりだった」(33.7%)、「とてもためになった」(24.1%) が続いた (図 3.3.1)。

図 3.3.1 で 1 割以上の回答があった 5 つの選択肢項目について、年層別に比較をしたのが図 3.3.2 である。全体で回答比率の高かった「怖いと思って気を付けるようになった」と「わかりきっている内容ばかりだった」に関しては、χ²乗検定の結果、年層間での有意差はみられなかった。「とてもためになった」については、年齢の低い層において有意に該当の比率が高かった。

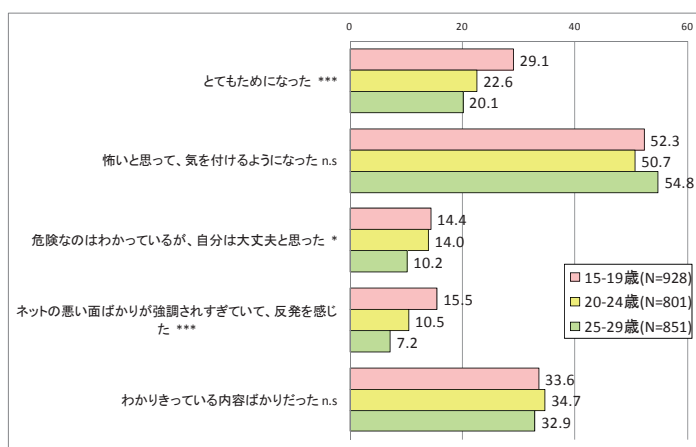
同様の 5 つの選択肢項目について、学生・職業別に比較をしたのが表 3.3.1、その中の高校生と調査対象者全体の回答比率を比較したのが図 3.3.3 である。高校生においては、

「とてもためになった」(30.4%) というポジティブな感想が全体平均よりも高い一方で、「ネットの悪い場面ばかりが強調されすぎていて、反発を感じた」(17.7%)、「説明された内容が極端すぎて、身近なこととして感じられなかった」(11.9%)等のネガティブな感想についても全体平均より高い回答比率となった(図 3.3.3)。こうしたネガティブな感想は、MROC 調査での女子高生のエピソードにも多くみられた。MROC 調査の参加女子高生は、「ネットで知り合った人と実際に会った経験がある」ことが参加条件であり、ネットにまつわる出会いの悪い面だけではなく、良い面についても実体験として理解している人が少なくない。文末に MROC 調査で得られたエピソードを記載するが、そこには女子高生自身の体験に基づいた感想や、今後の啓発活動に向けての提案も記されている。



※分析母数：ネットの危険性について他者・組織を通して認知した人 (N=2580)

図 3.3.1 話を聞いたときの感想 (降順, 単位: %)



※分析母数：ネットの危険性について他者・組織を通して認知した人 (N=2580)

※ χ^2 乗検定結果：*** $p < 0.001$, * $p < 0.05$, n.s 有意差なし

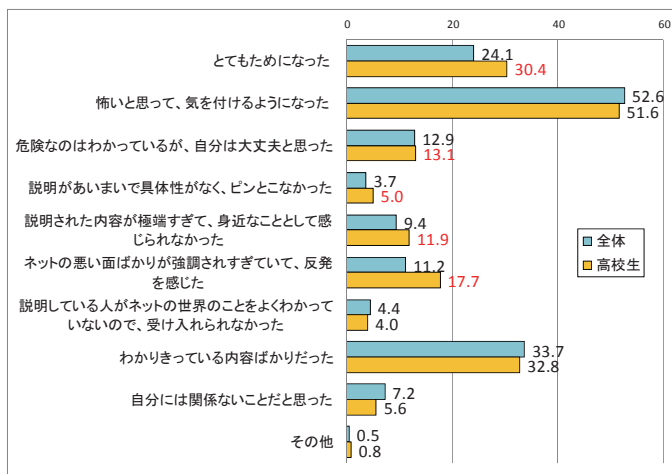
図 3.3.2 話を聞いたときの感想 (年層別, 単位: %)

表 3.3.1 話を聞いたときの感想（学生・職業別，単位：％）

	高校生 (N=519)	短大・高専・ 専門学校 (N=125)	大学・大学院 生 (N=576)	社会人 (非正社員) (N=556)	社会人 (正社員) (N=538)	無職 (N=266)	
とてもためになった	30.4	24.0	23.8	20.0	23.0	23.3	**
怖いと思って、気を付けるようになった	51.6	54.4	55.2	56.5	52.2	40.6	**
危険なのはわかっているが、自分は大丈夫と思った	13.1	19.2	12.8	11.0	11.5	16.5	†
ネットの悪い面ばかりが強調されすぎていて、反感を感じた	17.7	17.6	11.3	8.6	7.4	8.3	***
わかりきっている内容ばかりだった	32.8	26.4	36.5	32.7	29.6	43.6	**

※分析母数：ネットの危険性について他者・組織を通して認知した人（N=2580）

※ χ^2 二乗検定結果：*** $p < 0.001$, ** $p < 0.01$, † $p < 0.10$



※分析母数：ネットの危険性について他者・組織を通して認知した人（N=2580）

図 3.3.3 話を聞いたときの感想（全体と高校生の比較，単位：％）

【MROC 定性調査で得られた女子高校生のエピソード（発言は原文のまま）】

・「中学・高校時代に LHR の時間をつかってであったり全校集会として、警察の方にお話をしてもらったりした。”出会い系サイトやそのような目的で SNS にはアクセスしないように”というような内容だったと思います。危険性を伝えるのだから当たり前なのでしょうが、教えられる情報は酷い結果を招いてしまった事例ばかりで極端な話だなあ、 と 思 っ て い ま し た。ネットで知り合った人が全て悪い人なわけじゃないし、出会い目的で利用しているのではない人が多いのだからしっかりと見極めたり、自分なりに対策をしていけば悪いことではないと思っています。」（KS さん，高 3，18 歳，三重県在住）

・「教育は大切だと思います。ネットは危ない場でもあることを教えないと何も知らずに会ってしまうかもしれません。ですが、世の中は情報社会だ！ネットは大切だ！とか言って情報の授業とかを取り入れている割に SNS に対しての評価が厳しいな と 思 い ま す。私が受

けたのは SNS で自分のいる場所や何をしたかを具体的に書きすぎると、ネットのストーカーにあって、実際につぶやいた先で知らない人に「〇〇ちゃんでしょ？いつも見てるよ」などと言われるような動画を見せられました。確かに具体的に書きすぎるとストーカーにあう可能性もあるんですが、そんな極端な話をして SNS を批判しなくても良いのになと思いました。(ST さん, 高 2, 17 歳, 大阪府在住)

・学校からの注意はやっぱり「出会い系サイトを利用しない」や「SNS に自分のことを詳しく書き込まない!」とかですかね。でも具体性がないところがあるとも思います。その通りだとは思いますが自分でもしアドバイスをするとしたら「自分の意思ははっきり伝えること」ってことです。帰りたいなら帰りたい、やめてほしかったらやめてほしいとひるまず言うことが大事だと思います。(TF さん, 高 1, 16 歳, 新潟県在住)

・薬物乱用教室みたいな感じで、ネットの使い方みたいなのが中学の特別授業でありました。前略プロフで学校名や出席番号を公開していたらコメントを残してくれた人が学校の前で待ち伏せていて車で連れ去られそうになるみたいなドラマ形式のビデオで…学校どころか住んでいる市、県だって書かないです。特定されるようなことを書けばそうなるのは当たり前だと思います。そういうのを「ネットで知り合った人とむやみに会わない」みたいな風に言って、仲良くなった人と会うのではあまりにも差がありすぎると思います。

(SS さん, 高 3, 18 歳, 埼玉県在住)

・私はネットについての周囲の教育は、とくに学校とかはちょっと大げさ過ぎやしないかな、と思います。再現 DVD などを流してくれるのですが、余りにも悪い部分が誇張されてしまっていて。そして、ネットで仲良くなることについて一方的に批判をしているだけになってしまっているので、良い面も少しは言って欲しいなど。。(RN さん, 高 2, 17 歳, 埼玉県在住)

・「私は小学校 5 年生の頃から掲示板等の SNS を利用していたので歴とかそういう面では周りの友達より長いと思っているのですが、やっぱり大人や学校から SNS は危ないとか言われてもピンとこないと思うし実際悪いことばかりでなく良いこともたくさんあるので実際使ってみて経験してみるっていうのが一番だと思います。正直学校教育で SNS の悪い面ばかり話されてもやるときはやるし、防止という面ではあまり効果がないと思います…。」

(SK さん, 高 3, 18 歳, 大阪府在住)

4. 現代女性のキタ・セクスアリス

4.1 性的規範意識（問 28）

問 28 では、性的規範意識に関していくつか質問項目を設けた。肯定的回答比率（「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計値）の調査対象者全体と 5 歳刻み年層別の結果を示したのが表 4.1.1、「学籍職業別」の結果を示したのが表 4.1.2 である。

表 4.1.1 性的規範意識（全体および年層別） 肯定的回答の比率 単位：%

	母数の N	全体	年層別			有意差*
		調査対象者全体中(%)	15-19	20-24	25-29	
1. 一度きりの相手と性的関係を持っても構わないと思う	2794	22.8	20.8	20.1	26.8	***
2. 同時並行的に複数の人と性的関係を持っても構わないと思う	2816	12.8	11.6	11.8	14.7	ns
3. あまり好きでない人とも性的関係を持っても構わないと思う	2821	14.5	13.9	13.8	15.6	ns
4. 性的なことに関心が強い	2744	36.1	39.0	33.5	35.7	ns
5. 恋人以外の相手と性的関係を持っても構わないと思う	2816	16.6	15.0	14.0	20.3	***
6. お互いの同意があれば、金銭のために性的関係を持っても構わないと思う	2796	24.6	21.8	23.9	27.8	***
7. 18 歳未満でも性的関係を持っても構わないと思う	2771	38.5	45.7	36.3	33.6	***

※この質問は「答えたくない」という選択肢を設けた。分析の母数はそのサンプルを除外したもの。

※有意差*：「肯定的回答／否定的回答」と年層 3 カテゴリーのカイ自乗検定。*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$, ns 有意差なし。表 4.1.2 についても有意性水準はカイ自乗検定で同じ意味。

※黄色く色づけしたセルはとくに特徴的なセル(以下、本章では同じ意味)。

表 4.1.2 性的規範意識（学籍職業別） 単位：%

	高校生	短大専門学校	大学生・大学院生	社会人(非正規)	社会人(正規)	無職	有意差*
1. 一度きりの相手と性的関係を持っても構わないと思う	21.0	23.7	17.0	24.0	28.8	21.9	***
2. 同時並行的に複数の人と性的関係を持っても構わないと思う	10.6	11.3	10.4	13.0	16.1	14.8	*
3. あまり好きでない人とも性的関係を持っても構わないと思う	13.3	15.4	13.2	14.7	17.1	12.8	ns
4. 性的なことに関心が強い	37.7	42.4	33.6	35.6	33.8	41.8	ns
5. 恋人以外の相手と性的関係を持っても構わないと思う	13.8	12.9	14.5	15.0	23.5	16.7	***
6. お互いの同意があれば、金銭のために性的関係を持っても構わないと思う	20.7	20.8	20.1	28.8	26.5	29.5	***
7. 18 歳未満でも性的関係を持っても構わないと思う	47.9	48.1	35.4	36.7	33.4	38.7	***

図 4.1.1 はその中で、調査対象者全体と高校生の回答比率を示した。

調査対象者全体の 36.1%、高校生の 37.7%が「性的なことに関心が強い」と答え、「一度

きりの相手と性的関係を持っても構わないと思う」と答えた人がそれぞれ 22.8%、21.0%であった。高校生の 47.9%が「18 歳未満でも性的関係を持っても構わないと思う」と答えている。「お互いの同意があれば、金銭のために性的関係を持っても構わないと思う」と答えた人も全体の 24.6%、高校生の 20.7%存在する。

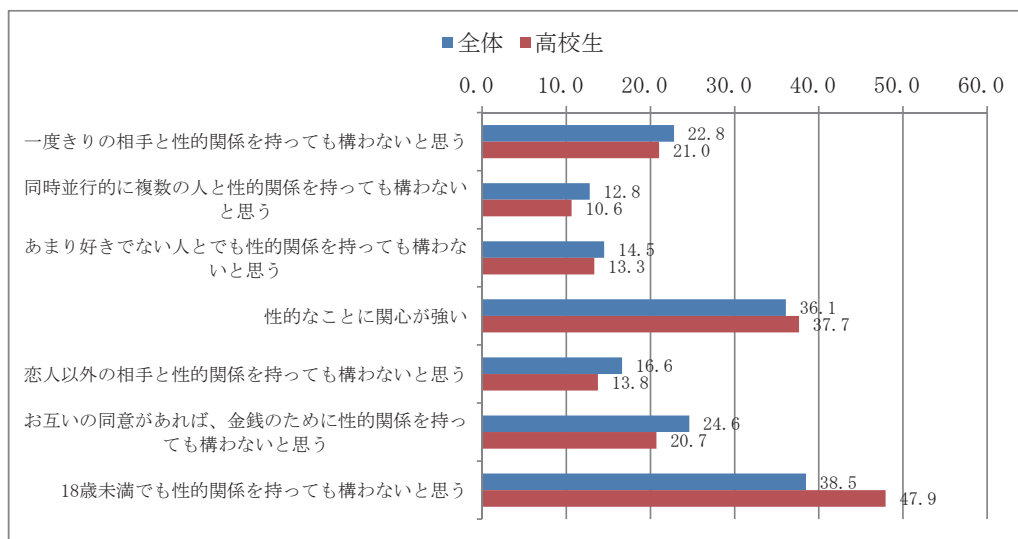


図 4.1.1 性規範意識（調査対象者全体と高校生の回答比率） 単位：%

各項目は元々の質問では「1. あてはまる」から「4. あてはまらない」の 4 択である。それらに 4 点から 1 点の値を与え、7つの質問項目を合算し 7 で除したものを「性的寛容度」とした場合（点が高いほど性的に寛容）の全体平均、年層別、学籍職業別の平均値を示したのが表 4.1.3 である。

年層別では 25 歳から 29 歳の層が最も性的寛容度が高い。学籍職業別ではカテゴリー間に有意な差はないが、短大専門学校と社会人(正規)の寛容度が比較的高い。

表 4.1.3 性的寛容度（全体、年層別、学籍職業別） 一元分散分析

全体 (N=2579)	年層別		学籍職業別	
	年齢	平均値	職業	平均値
1.75	15-19	1.76	高校生	1.74
	20-24	1.69	短大専門学校	1.81
	25-29	1.80	大学生・大学院生	1.67
	F 検定	**	社会人(非正規)	1.76
			社会人(正規)	1.81
			無職	1.77
			F 検定	*

※a, b, c は Tukey の多重範囲検定で同符号間には 5%未満の危険率で有意差がないことを示す（以降の表でも同様）。

4.2 異性ととの交際人数（問 27）

問 27 では 4 つのカテゴリーに分けて、異性とそれぞれ何人交際したかをきいている。表 4.2.1 は全体の平均人数を、表 4.2.2 は年層別、表 4.2.3 は学籍職業別の平均人数を示したものである。

表 4.2.1 交際のタイプとその人数（全体） 一元分散分析

	分析母数	平均人数
1. 恋人として交際した人	2513	2.2
2. 恋人のうち、性的関係を持った人	2433	1.3
3. 恋人以外でデートした人	2431	2.4
4. 恋人以外で性的関係を持った人	2413	0.9
性的関係を持った人(2+4)		2.3

表 4.2.2 交際のタイプとその人数（年層別） 一元分散分析

	年層別					
	15-19		20-24		25-29	F
1. 恋人として交際した人	1.6	a	2.1	b	3.0	c ***
2. 恋人のうち、性的関係を持った人	0.5	a	1.2	b	2.2	c ***
3. 恋人以外でデートした人	1.2	a	2.0	b	3.9	c ***
4. 恋人以外で性的関係を持った人	0.4	a	0.8	a	1.6	b ***
性的関係を持った人(2+4)	0.9		2.0		3.8	

※表 4.2.2 と表 4.2.3 の場合、行(横のならば)のカテゴリー間での比較。

表 4.2.3 交際のタイプとその人数（学籍職業別） 一元分散分析

	学籍職業別												
	高校生		短大専門学校		大学生・大学院生		社会人(非正規)		社会人(正規)		無職		F
1. 恋人として交際した人	1.4	d	2.3	bc	0.2	cd	2.6	b	3.3	a	1.9	cd	***
2. 恋人のうち、性的関係を持った人	0.4	e	1.0	cd	0.7	de	1.8	b	2.4	a	1.4	bc	***
3. 恋人以外でデートした人	0.8	d	2.1	bc	1.3	cd	3.2	ab	4.3	a	2.1	bc	***
4. 恋人以外で性的関係を持った人	0.2	b	0.6	bc	0.3	b	1.5	ab	1.5	a	1.6	a	***
性的関係を持った人(2+4)	0.5		1.6		1.0		3.3		3.9		3.0		

また、図 4.2.1 では、学籍職業別カテゴリーからその抜粋を図示したものである。全体平均で「性的関係を持った人」が 2.2 人でそのうち半分近くが「恋人以外」である。社会人になれば、恋人として交際した人（当然、性的関係を持たなかった人もいる）より、性的関係を持った人の平均人数が多くなっている。

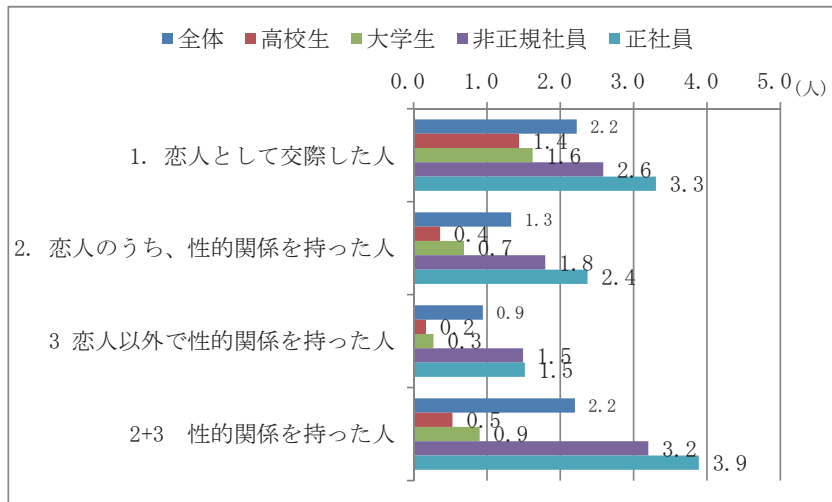


図 4.2.1 交際のタイプとその人数（学籍職業別カテゴリーから抜粋）

4.3 異性との交際タイプとその相手との関係性（問 27 補問 1）

上記の交際タイプごとに、相手との関係を尋ねた結果が表 4.3.1(全体)である。その中で「恋人以外で性的関係を持った人」について、年層別、学籍職業別に質問した結果が、表 4.3.2（年層別）、表 4.3.3（学籍職業別）である。それぞれ、表頭（横の並び）のカテゴリーが選択肢としてあり、複数回答可である。

全体でみて「恋人以外で性的関係を持った人」の 27.2%が「インターネット上で知り合った人」であり、15～19 歳では 42.7%、高校生の 48.6%が「インターネット上で知り合った人」である。

表 4.3.1 「恋人以外で性的関係を持った人」の内訳（全体） 選択肢は表頭（横）のカテゴリーで複数回答 単位：%

	学校やサークル、職場などリアルな生活で知り合った人	外出先でたまたま出会った人・ナンパで出会った人	インターネット上で知り合った人	答えたくない	N
恋人として交際した人	84.9	10.3	17.0	4.2	1653
恋人のうち、性的関係を持った人	82.5	10.8	17.1	4.3	1174
恋人以外でデートした人	76.7	15.2	24.0	5.3	1129
恋人以外で性的関係を持った人	66.6	22.1	27.2	6.6	533

表 4.3.2 「恋人以外で性的関係を持った人」の内訳（年層別） 選択肢は表頭（横）のカテゴリ
ーで複数回答 各年層カテゴリーの分析母数は「恋人以外で性的関係を持った人」 単位：%

	学校やサークル、職場などリアルの生活で知り合った人	外出先でたまたま出会った人・ナンパで出会った人	インターネット上で知り合った人	答えたくない
15-19(N=82)	58.5	14.6	42.7	3.7
20-24(161)	59.6	19.9	28.0	9.3
25-29(290)	72.8	25.5	22.4	5.9

表 4.3.3 「恋人以外で性的関係を持った人」の内訳（学籍職業別） 複数回答 単位：%

	学校やサークル、職場などリアルの生活で知り合った人	外出先でたまたま出会った人・ナンパで出会った人	インターネット上で知り合った人	答えたくない
高校生(N=35)	57.1	5.7	48.6	2.9
短大専門学校(24)	41.7	8.3	58.3	4.2
大学生・大学院生(57)	73.7	10.5	22.8	5.3
社会人(非正規)(160)	67.5	30.0	24.4	5.6
社会人(正規)(197)	73.6	22.8	20.8	6.6
無職(60)	50.0	25.0	35.0	13.3

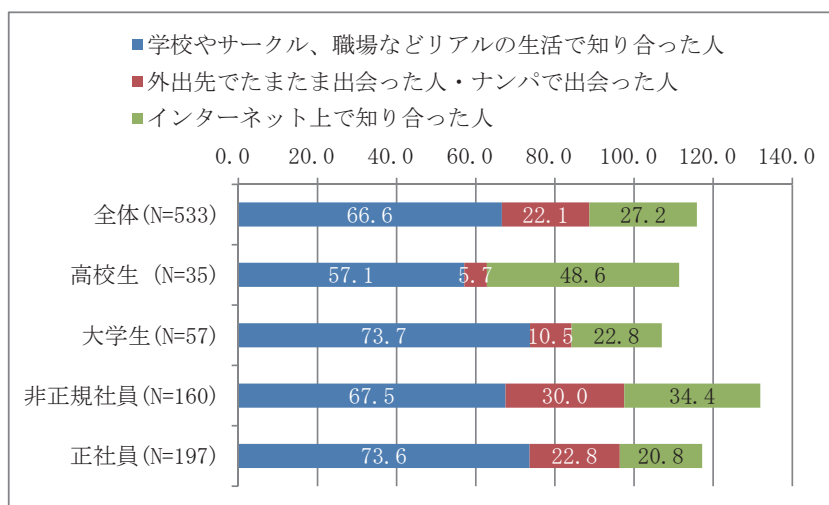


図 4.3.1 「恋人以外で性的関係を持った人」の相手との関係（複数回答可の比率の積み上げグラフで合計は100%を超える。全体および学籍職業別カテゴリーから抜粋） 単位：%

図 4.3.1 は交際タイプと相手との関係に関する分析から一部のカテゴリー項目の結果を抜粋したものである。総じて、「恋人以外で性的関係を持った人」の相手は、「学校やサークル、職場などリアルな生活で知り合った人」が多いが、「ネット上で知り合った人」も比率が高い。とくに高校生においてその傾向が顕著である。

4.4 恋人以外の人と性的関係を持った理由（問 27 補問 2）

表 4.4.1 恋人以外の人と性的関係を持った理由（全体、年層別） 単位：%

	全体	15-19	20-24	25-29	有意差*
1. 相手を好きになったため	38.1	42.7	36.7	37.6	ns
2. 相手のことをもっとよく知りたいから	9.6	4.9	7.5	12.1	ns
3. 安らぎを得るため	17.3	23.2	16.2	16.2	ns
4. 性的な快楽のため	25.5	34.2	21.7	25.2	ns
5. ストレスを解消するため	18.6	25.6	21.1	15.2	ns
6. 恋人が拒否するから	1.7	1.2	1.9	1.7	ns
7. なんとなく	34.1	28.1	35.4	35.2	ns
8. 相手に求められたため	48.0	63.4	48.5	43.5	**
9. 相手や第三者から強制されたため	3.0	7.3	3.7	1.4	*
10. 金銭を得るため	4.5	8.5	5.6	2.8	ns
11. その他	4.7	4.9	5.0	4.5	ns
12. 答えたくない	3.9	1.2	4.4	4.5	ns

※「全体」の分析母数は「恋人以外と性的関係を持った」と答えた 533 人(表 4.4.2 も同じ)。

※有意差*：「選択／非選択」と年層 3 カテゴリーのカイ自乗検定。*** p<.001, ** p<.01, * p<.05, ns 有意差なし。表 4.4.2 についても有意性水準はカイ自乗検定で同じ意味。

表 4.4.2 恋人以外の人と性的関係を持った理由（学籍職業別） 単位：%

	高校生	短大専門学校	大学生・大学院生	社会人(非正規)	社会人(正規)	無職	有意差*
1. 相手を好きになったため	40.0	41.7	40.4	34.4	42.1	30.0	ns
2. 相手のことをもっとよく知りたいから	5.7	16.7	3.5	10.6	10.2	10.0	ns
3. 安らぎを得るため	34.3	25.0	12.3	14.4	14.2	26.7	*
4. 性的な快楽のため	34.3	20.8	15.8	22.5	26.4	36.7	ns
5. ストレスを解消するため	25.7	29.2	10.5	16.3	18.3	25.0	ns
6. 恋人が拒否するから	2.9	4.2	0.0	1.3	2.5	0.0	ns
7. なんとなく	37.1	20.8	33.3	33.8	35.5	35.0	ns
8. 相手に求められたため	65.7	75.0	50.9	41.3	46.2	48.3	*
9. 相手や第三者から強制されたため	5.7	4.2	7.0	2.5	0.0	8.3	**
10. 金銭を得るため	5.7	4.2	5.3	4.4	2.0	11.7	ns
11. その他	0.0	16.7	3.5	5.0	4.1	5.0	ns
12. 答えたくない	0.0	4.2	3.5	4.4	3.6	6.7	ns

「恋人以外で性的関係を持った人（N=533）」について、その理由を尋ねた結果を示したものが表 4.4.1（全体、および年層別）と表 4.4.2（学籍職業別）である（数値は各項目ごとに「あてはまる」として選択された比率）。

全体で最も高い比率を示したのが「相手に求められたため」で 48.0%を占めた。年層別、学籍職業別にみてもこの理由の選択比率が最も高い。次いで「相手を好きになったため（38.1%）」「なんとなく（34.1%）」「性的な快樂のため（25.5%）」と続く。高校生では「相手を好きになったため（40.0%）」とならんで「なんとなく（37.1%）」「安らぎを得るため（34.3%）」「性的な快樂のため（34.3%）」等の理由の選択比率が高い。

4.5 恋人以外の異性に許容できること（問 29）

表 4.5.1 相手の属性別、「恋人以外の男性に許容できること」 単位：%

	(1) 学校や職場などで親しくしている友人・知人	(2) まだ会ったことはないが、ソーシャルメディア上で親しくやりとりしている人	(3) ソーシャルメディア上で知り合い、実際に会っている人	(4) 外出先（街中やお店、イベント会場など）でたまたま出会った人・ナンパで出会った人
1. 相手以外の人を含めた 3 人以上のグループで遊びに行く	71.3	35.0	35.2	24.5
2. 相手以外の人を含めた 3 人以上のグループで一泊以上の旅行に行く	41.0	11.7	13.0	6.5
3. 二人きりで遊びに行く	38.2	13.6	16.4	10.5
4. 二人きりで一泊以上の旅行に行く	5.8	1.7	2.9	1.3
5. 二人きりで相手のクルマに乗る	33.4	7.5	9.0	5.0
6. 相手の家に行く	21.9	4.1	5.1	2.4
7. 相手を自分の家に招く	14.4	2.3	2.6	1.1
8. 手を握る/握られる	13.9	4.0	4.8	3.4
9. 体を触る/触られる	10.1	2.4	3.1	2.6
10. 抱きしめる/抱きしめられる	8.6	2.2	2.7	2.6
11. キスをする/される	4.3	1.5	1.9	1.9
12. 性行為（セックス）をする	3.0	1.2	1.5	1.8
13. 相手に自分の裸を見せる	1.7	0.7	1.1	1.1
14. 相手に自分の裸の写真や動画を撮られる	0.5	0.1	0.2	0.2
15. いずれもしたくない/されたくない	4.7	25.1	14.8	30.9
16. 該当する男性はいない	12.1	28.1	38.1	33.7

※数値は、表頭カテゴリー（横の行）のカテゴリーごとに、1～16の各項目が許容できるかを質問し、「許容できる（あてはまる）」と答えた比率。

調査では、(1) 学校や職場などで親しくしている友人・知人、(2) まだ会ったことはないが、ソーシャルメディア上で親しくやりとりしている人、(3) ソーシャルメディア上で知り合い、実際に会っている人、(4) 外出先（街中やお店、イベント会場など）でたまたま出会った人・ナンパで出会った人、の4つのタイプ毎に、14項目についてそれぞれ許容できるかどうか質問した。許容できると答えた人の比率を示したのが表4.5.1である。

「性行為をする」「相手に自分の裸を見せる」「相手に自分の裸の写真や動画を撮られる」を許容するという回答者はごく少数であるが、「あったことはないが、ソーシャルメディア上で親しくなった人」「ソーシャルメディア上での知り合い、実際に会っている人」に対して、1%前後であれ、許容するという回答者がいた。

このうち、項目「11.キスをする/される」から「14.相手に自分の裸の写真や動画を撮られる」までについて、カテゴリー(2)と(3)の人に対する回答比率を学籍職業別に見たのが表4.5.2、表4.5.3である。

ふたつの表に示される通り、ごく少数であるが、高校生の中には、ネットで知り合った相手に対して、かなり大胆なことも許容すると回答した人が存在する。

表 4.5.2 「(2) まだ会ったことはないが、ソーシャルメディア上で親しくやりとりしている人」に対して許容できること（学籍職業別、項目は一部抜粋） 単位：%

	高校生	短大専門学校	大学生・大学院生	社会人(非正規)	社会人(正規)	無職	有意差*
11. キスをする/される	1.4	3.6	0.9	1.8	0.8	2.8	*
12. 性行為(セックス)をする	1.3	1.4	0.3	1.6	0.9	2.2	ns
13. 相手に自分の裸を見せる	1.1	0.7	0.0	1.0	0.3	1.8	*
14. 相手に自分の裸の写真や動画を撮られる	0.4	0.0	0.2	0.0	0.2	0.0	ns

表 4.5.3 「(3) ソーシャルメディア上で知り合い、実際に会っている人」に対して許容できること（学籍職業別、項目は一部抜粋） 単位：%

	高校生	短大専門学校	大学生・大学院生	社会人(非正規)	社会人(正規)	無職	有意差*
11. キスをする/される	1.8	1.4	1.1	2.1	2.6	2.2	ns
12. 性行為(セックス)をする	1.8	0.7	0.9	1.6	1.7	1.8	ns
13. 相手に自分の裸を見せる	0.7	1.4	0.5	1.5	1.2	1.8	ns
14. 相手に自分の裸の写真や動画を撮られる	0.4	0.0	0.2	0.2	0.3	0.3	ns

5. 情報行動、対人関係など

5.1 ネット利用時間と生活時間

(1) ネット利用時間（問1）

接続機器ごとにネット全般の利用時間と「ソーシャルメディア⁴⁾で友だちとやりとり⁵⁾する時間」を平日1日あたりの分数の形で尋ねた（問1）。ネット全般についてはスマートフォンとパソコンが拮抗しているが、ソーシャルメディアについてはスマートフォン中心であることが分かる（図5.1.1）。年層別の比較ではほとんどの項目で低年齢層ほど利用時間が長い傾向が見られたが、パソコンでのネット全般の利用時間だけは高年齢層ほど利用時間が長くなる傾向を見せた（表5.1.1）。

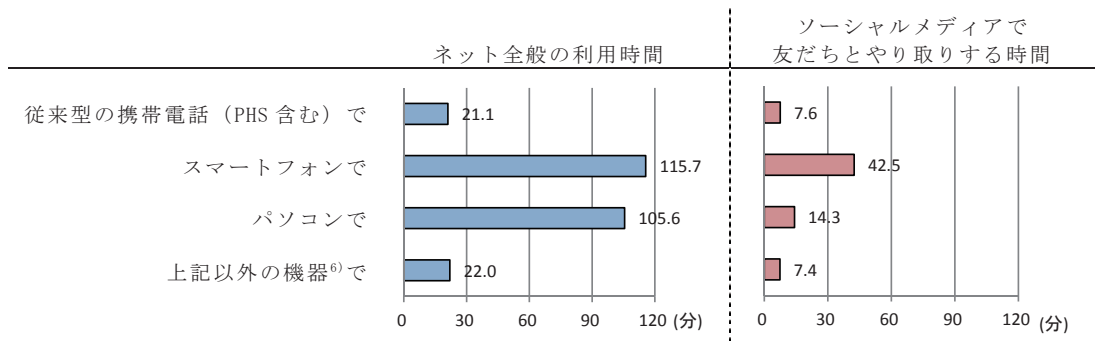


図 5.1.1 機器別のネット利用時間

※数値は回答者全体 (N=3000) による単純平均。

表 5.1.1 機器別ネット時間の年層別比較

	ネット全般の利用時間				ソーシャルメディアで友だちとやり取りする時間			
	15~19 歳 (N=1000)	20~24 歳 (N=920)	25~29 歳 (N=1080)		15~19 歳 (N=1000)	20~24 歳 (N=920)	25~29 歳 (N=1080)	
従来型の携帯電話 (PHS 含む) で	27.5 分 A	21.2 分 AB	14.9 分 B	***	12.4 分 A	6.9 分 B	3.8 分 B	***
スマートフォンで	150.6 分 A	113.2 分 B	85.4 分 C	***	63.8 分 A	38.2 分 B	26.3 分 C	***
パソコンで	82.0 分 C	107.1 分 B	126.1 分 A	***	15.6 分 A	14.5 分 A	12.9 分 A	ns
上記以外の機器で	28.2 分 A	20.6 分 AB	17.5 分 B	**	12.1 分 A	5.6 分 B	4.7 分 B	***

※分析母数は回答者全体（合わせて N=3000）。

※記号は分散分析 (GLM) の有意水準 (***) $p < .001$, ** $p < .01$, ns 有意差なし)。アルファベットは Tukey の多重範囲検定結果（異記号間には危険率 5% 未満で有意差あり）。

4) 本調査では事前スクリーニング段階で LINE、KakaoTalk、Twitter、Facebook、mixi など 19 項目にわたるサービス・アプリを回答者に例示し、それらをソーシャルメディアと呼ぶことを教示した。

5) 「友だち」「やりとり」とも幅広い意味内容を持ちうるが、厳密な定義をすると却って回答者が混乱してしまう恐れもあるため敢えてこのような文言で尋ねた。

6) 質問では「携帯電話・スマートフォン・パソコン以外の機器 (iPad, iPod, PSP など) で」と表示。

続いてネット利用時間を学生・職業別に比較した（表 5.1.2）。ネット全般の利用時間はスマートフォンでの利用が高校生や短大・高専・専門学校生ほど長く、パソコンでの利用が社会人や無職ほど長い傾向が明瞭に見られた。また「ソーシャルメディアで友だちとやりとりする時間」では従来型携帯電話とスマートフォンだけ有意差が見られ、いずれも高校生や短大・高専・専門学校生ほど長い傾向が見られた。これらの順序は各カテゴリーの平均年齢の順序（表 2.1.1 を参照）とほとんど一致しており、少なくとも本調査に関して言えば、ネット時間の説明要因として年層と社会的属性を区別するのは困難である。

表 5.1.2 機器別ネット時間の学生・職業別比較

ネット全般の利用時間							
	高校生 (N=554)	短大・高 専・専門 (N=141)	大学・ 大学院生 (N=644)	社会人 (非正規) (N=675)	社会人 (正規) (N=660)	無職 (N=326)	
従来型の携帯電話（PHS 含む）で	27.5 分 AB	21.3 分 AB	17.0 分 B	19.5 分 B	14.1 分 B	35.1 分 A	***
スマートフォンで	149.3 分 A	134.3 分 AB	118.5 分 BC	110.3 分 BC	91.9 分 C	104.1 分 C	***
パソコンで	72.2 分 C	85.7 分 BC	96.6 分 BC	111.3 分 B	106.1 分 B	175.6 分 A	***
上記以外の機器で	27.5 分 A	29.7 分 A	22.2 分 A	19.6 分 A	16.6 分 A	25.0 分 A	ns

ソーシャルメディアで友だちとやり取りする時間							
	高校生 (N=554)	短大・高 専・専門 (N=141)	大学・ 大学院生 (N=644)	社会人 (非正規) (N=675)	社会人 (正規) (N=660)	無職 (N=326)	
従来型の携帯電話（PHS 含む）で	12.3 分 A	11.8 分 A	5.9 分 A	6.3 分 A	5.6 分 A	7.7 分 A	**
スマートフォンで	66.5 分 A	54.3 分 AB	45.2 分 BC	33.6 分 CD	34.1 分 CD	26.5 分 D	***
パソコンで	13.6 分 A	17.3 分 A	15.5 分 A	14.6 分 A	12.3 分 A	14.9 分 A	ns
上記以外の機器で	10.8 分 A	13.4 分 A	7.3 分 A	7.8 分 A	4.4 分 A	4.9 分 A	ns

※分析母数は回答者全体（合わせて N=3000）。

※記号は分散分析（GLM）の有意水準（*** p<.001, ** p<.01, ns 有意差なし）。アルファベットは Tukey の多重範囲検定結果（異記号間には危険率 5%未満で有意差あり）。

(2) 生活時間（問 3）

平日 1 日あたりの生活時間を尋ねた（問 3）。年層別の比較では在宅起床自由時間、仕事や学校の時間、通勤・通学時間、友人・家族との直接の会話時間に有意差が見られ、仕事や学校の時間を除いていずれも低年齢層ほど長くなる傾向が見られた（次頁の表 5.1.3）。通勤・通学時間が低年齢層ほど長いのは一見奇異だが、高年齢層には低年齢層より無職の人が多く含まれているためと考えられる。

表 5.1.3 生活時間（回答者全体と年層別比較）

	回答者全体 (N=3000)	15～19 歳 (N=1000)	20～24 歳 (N=920)	25～29 歳 (N=1080)	
睡眠・食事などを除いて家で自由に過ごせる時間（在宅起床自由時間）	328.0 分	343.5 分 A	339.4 分 A	304.0 分 B	***
仕事や学校の時間	403.1 分	402.6 分 AB	389.8 分 B	414.8 分 A	*
通勤・通学の時間（往復）	62.1 分	72.4 分 A	61.4 分 B	53.1 分 C	***
テレビを見る時間	120.2 分	117.2 分 A	118.0 分 A	124.8 分 A	ns
睡眠時間	392.9 分	388.9 分 A	395.3 分 A	394.6 分 A	ns
友だちと顔を合わせて話す時間	83.7 分	157.5 分 A	68.9 分 B	27.9 分 C	***
家族と顔を合わせて話す時間	130.4 分	152.9 分 A	129.4 分 B	110.6 分 C	***

※分析母数は回答者全体（合わせて N=3000）。

※記号は分散分析（GLM）の有意水準（*** p<.001, * p<.05, ns 有意差なし）。アルファベットは Tukey の多重範囲検定結果（異記号間には危険率 5 % 未満で有意差あり）。

学生・職業別の比較では多くの項目で社会人（正規）と無職の間に大きな落差が見られ、「在宅起床自由時間」、「テレビを見る時間」、「家族と顔を合わせて話す時間」では無職が最長、社会人（正規）が最短なのに対し、「仕事や学校の時間」では社会人（正規）が最長、無職が最短と、生活スタイルによる対照が明瞭であった（表 5.1.4）。これらと異なる傾向を見せたのは「友だちと顔を合わせて話す時間」で、こちらは高校生や短大・高専・専門学校生ほど長い、ネット時間などと同様の傾向が見られた。

表 5.1.4 生活時間（学生・職業別比較）

	短大・高 高校生 (N=554)	専・専門 専・専門 (N=141)	大学・ 大学院生 (N=644)	社会人 (非正規) (N=675)	社会人 (正規) (N=660)	無職 (N=326)	
睡眠・食事などを除いて家で自由に過ごせる時間（在宅起床自由時間）	334.7 分 B	335.1 分 B	310.0 分 B	318.0 分 B	234.9 分 C	572.1 分 A	***
仕事や学校の時間	420.4 分 B	415.9 分 B	416.4 分 B	427.1 分 B	530.6 分 A	35.2 分 C	***
通勤・通学の時間（往復）	66.5 分 BC	75.9 分 B	91.4 分 A	53.0 分 D	64.3 分 CD	4.8 分 E	***
テレビを見る時間	119.8 分 BC	125.1 分 B	94.8 分 D	126.3 分 B	99.4 分 CD	198.1 分 A	***
睡眠時間	385.9 分 B	379.1 分 B	381.7 分 B	395.7 分 B	382.3 分 B	448.8 分 A	***
友だちと顔を合わせて話す時間	179.0 分 A	141.4 分 B	129.6 分 B	34.7 分 C	28.3 分 C	19.6 分 C	***
家族と顔を合わせて話す時間	163.6 分 B	152.1 分 BC	107.4 分 DE	120.9 分 CD	82.3 分 E	229.0 分 A	***

※分析母数は回答者全体（合わせて N=3000）。

※記号は分散分析（GLM）の有意水準（*** p<.001）。アルファベットは Tukey の多重範囲検定結果（異記号間には危険率 5 % 未満で有意差あり）。

5.2 フィルタリングサービス等の利用（問2）

現在使っているスマートフォンもしくは従来型携帯電話（PHS も含む）で、フィルタリングサービス等を使っているかどうかについて聞いた結果、図 5.2.1 のように使っている割合はいずれも約 2 割であり、自分がそのサービスを使っているかどうか分からないという割合も 2 割強存在した。

用語が理解できない人もいるかもしれないと考え、質問紙上には、各サービスの説明として下記のような注釈を入れた。

- ・フィルタリングサービス：ネット上の有害な情報へのアクセスを制限するサービス
- ・アプリの起動や Wi-Fi 接続を制限するサービス：「あんしんモード」「安心アプリ制限」「安心設定アプリ」「安心アクセス」などアプリの起動や無線 LAN（Wi-Fi）の接続を制限したり、一部のサイトへの接続を制限するサービス
- ・セキュリティのソフトやサービスの例：「ノートン」「マカフィー」「ウイルスバスター」「i-フィルター」「Yahoo!あんしんネット」など

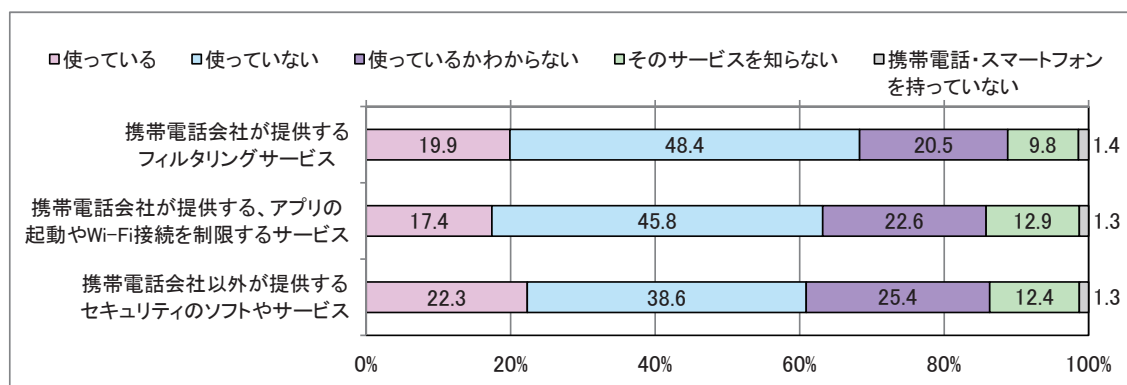


図 5.2.1 フィルタリングやセキュリティサービスの利用状況 (%)

フィルタリングサービスやセキュリティサービス等の利用状況について年代別でみたところ、表 5.2.1 のようにフィルタリングやアプリや Wi-Fi の制限サービスについては 10 代の利用率が高く、認知率も高かった。反対にいずれのサービスも、年代が上がるほど認知率が低くなっていた。フィルタリングサービスやセキュリティサービス等の利用状況について学生・職業別でみたところ、表 5.2.2 のようにフィルタリングやアプリや Wi-Fi の制限サービスについては高校生の利用率が高く、認知率も高かった。これらは、近年、中学や高校などで情報モラル教育や啓発が行われていることや、18 歳未満を対象としたフィルタリング加入促進のキャンペーン等が実施されていること等によるものと考えられる。

表 5.2.1 フィルタリングやセキュリティサービスの利用状況（年代別，％）

		10代後半 (n=1000)	20代前半 (n=920)	20代後半 (n=1080)
フィルタリングサービス ***	使っている	27.4	14.1	17.8
	使っていない	46.7	54.7	44.7
	使っているかどうかわからない	19.3	20.9	21.4
	そのサービスを知らない	4.9	9.5	14.4
	携帯を持っていない	1.7	0.8	1.7
アプリ起動やWi-Fi接続を制限するサービス ***	使っている	22.2	17.7	12.6
	使っていない	41.5	47.7	48.2
	使っているかどうかわからない	25.8	21.1	20.9
	そのサービスを知らない	8.9	12.7	16.7
	携帯を持っていない	1.6	0.8	1.6
セキュリティのソフト・サービス ***	使っている	22.5	23.5	21.0
	使っていない	34.5	39.1	41.9
	使っているかどうかわからない	31.5	24.1	20.8
	そのサービスを知らない	9.9	12.5	14.6
	携帯を持っていない	1.6	0.8	1.6

χ^2 検定， *** p<0.001

着色セルは残差分析の結果， 濃黄色 p<0.01， 薄黄色 p<0.05

表 5.2.2 フィルタリングやセキュリティサービスの利用状況（学生・職業別，％）

		高校生 (n=554)	短大生・高専生・専門学校生 (n=141)	大学生・大学院生 (n=644)	社会人（非正社員） (n=675)	社会人（正社員） (n=660)	無職 (n=326)
フィルタリングサービス ***	使っている	31.2	19.2	17.7	16.1	20.9	10.7
	使っていない	41.7	56.0	56.4	47.4	45.9	48.2
	使っているかどうかわからない	19.8	19.1	19.2	23.0	18.8	23.3
	そのサービスを知らない	5.1	5.7	6.2	12.9	14.1	11.4
	携帯を持っていない	2.2	0.0	0.5	0.6	0.3	6.4
アプリ起動やWi-Fi接続を制限するサービス ***	使っている	24.9	17.7	18.8	14.2	15.8	11.3
	使っていない	39.4	47.5	48.0	19.5	47.1	41.7
	使っているかどうかわからない	25.3	25.5	22.5	20.9	20.5	24.8
	そのサービスを知らない	8.3	9.2	10.4	15.0	16.4	15.6
	携帯を持っていない	2.2	0.0	0.3	0.4	0.3	6.4
セキュリティのソフト・サービス ***	使っている	22.4	27.0	22.8	22.5	23.0	16.9
	使っていない	35.2	34.0	40.1	40.0	40.2	37.4
	使っているかどうかわからない	31.4	30.5	25.9	23.6	20.6	25.5
	そのサービスを知らない	8.8	8.5	10.9	13.3	15.9	14.1
	携帯を持っていない	2.2	0.0	0.3	0.6	0.3	6.1

χ^2 検定， *** p<0.001

着色セルは残差分析の結果， 濃黄色 p<0.01， 薄黄色 p<0.05

5.3 ソーシャルメディアの利用目的（問8）

表 5.3.1 ソーシャルメディアの利用目的（全体、年層別）N=3000 単位：%

	全体	年層別			有意差*
		15-19	20-24	25-29	
1. 自分の日記がわり	37.4	34.7	39.1	38.3	ns
2. 友だちの近況を知る	63.1	63.8	66.0	60.0	*
3. リアルの友だちとやりとりをする	52.8	60.8	52.2	45.9	***
4. リアルでは知らない人と交流する・友達を探す	27.3	38.2	25.3	18.9	***
5. 職場や学校などでの事務的な連絡をする	16.6	24.1	17.1	9.4	***
6. 愚痴をこぼす	29.4	36.0	30.7	22.3	***
7. 悩みを相談する	15.1	19.9	12.3	13.0	***
8. オフラインとは違う自分になって楽しむ	12.7	16.2	11.1	10.7	***
9. 社会的なつながりを感じる	12.0	10.5	11.2	14.0	*
10. ひまつぶし	59.5	65.6	60.1	53.3	***
11. 有名人や趣味に関する情報を提供する	16.0	18.9	14.5	14.7	*
12. 有名人や趣味に関する情報を集める	36.0	42.6	35.1	30.7	***
13. みんなが利用しているから	19.0	21.7	20.2	15.6	***
14. 友達に誘われたから	12.0	10.4	12.8	12.8	ns
15. その他	1.1	1.1	0.5	1.6	ns

※有意差*：「選択／非選択」と年層3カテゴリのカイ自乗検定。*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$, ns 有意差なし。表 5.3.3 についても有意性水準はカイ自乗検定で同じ意味。

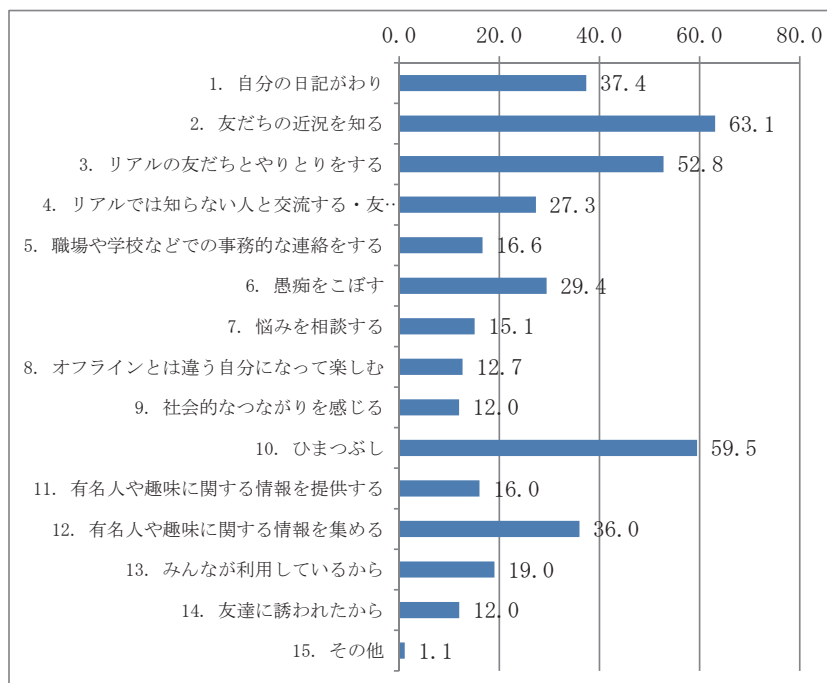


図 5.3.1 ソーシャルメディアの利用目的 単位：%

問8では調査対象者がどのような目的(理由)からソーシャルメディアを利用しているのかを尋ねた。その回答比率を示したのが表5.3.1と図5.3.1である。なお、表では年層別にみた結果もあわせて示した。

利用目的として最も回答比率の高かったのは「友だちの近況を知る」の63.1%であり、以下「ひまつぶし(59.5%)」、「リアルでの友だちとやりとりをする(52.8%)」と続く。

年層別に分析した場合、多くの項目で有意差が示された(それぞれの項目ごとに該当/非該当と年層3カテゴリとのカイ自乗検定)。

15歳から19歳の10代に関しては「10. ひまつぶし」「3. リアルでの友だちとやりとりをする」「4. リアルでは知らない人と交流する・友達を探す」「5. 職場や学校などでの事務的な連絡をする」「6. 愚痴をこぼす」「12. 有名人や趣味に関する情報を集める」等の項目において、他の年層より選択比率が高くなっている。

表5.3.2 利用目的の因子分析結果(主成分分解、バリマックス回転)

	Factor1	Factor2	Factor3	Factor4	Factor5
6. 愚痴をこぼす	0.745	0.076	0.230	-0.036	0.048
7. 悩みを相談する	0.701	-0.046	0.311	0.029	0.227
8. オフラインとは違う自分になって楽しむ	0.590	0.165	-0.315	0.175	-0.125
1. 自分の日記がわり	0.429	0.140	-0.048	-0.106	-0.341
10. ひまつぶし	0.316	0.143	0.120	0.139	-0.210
12. 有名人や趣味に関する情報を集める	0.060	0.814	0.147	0.029	-0.051
11. 有名人や趣味に関する情報を提供する	0.099	0.808	0.043	-0.007	0.022
4. リアルでは知らない人と交流する・友達を探す	0.450	0.491	-0.067	-0.023	-0.058
3. リアルでの友だちとやりとりをする	0.064	0.053	0.717	0.125	-0.196
2. 友だちの近況を知る	0.142	0.056	0.615	0.049	-0.354
5. 職場や学校などでの事務的な連絡をする	0.054	0.091	0.592	0.163	0.244
13. みんなが利用しているから	-0.005	0.008	0.238	0.742	0.002
14. 友達に誘われたから	-0.029	-0.062	0.091	0.720	0.127
9. 社会的なつながりを感じる	0.259	0.137	-0.094	0.469	-0.323
15. その他	0.046	0.029	-0.136	0.035	0.716
寄与率	0.186	0.113	0.079	0.075	0.067
				累積寄与率	0.519

※「最尤法、プロマックス回転」では黄色のセルとそれ以外の2因子が抽出された。

ちなみに15項目について因子分析(主成分分解、バリマックス回転)した結果を示したのが表5.3.2である。最尤法、プロマックス回転では(3)(2)(5)(13)(14)とそれ以外の2因子が抽出された。

ソーシャルメディアの利用目的を学籍職業別にみたのが表5.3.3である。多くの項目で年層別に有意差が示されたが、高校生については「3. リアルでの友だちとやりとりをする」「4. リアルでは知らない人と交流する・友達を探す」「6. 愚痴をこぼす」「7. 悩みを相談する」などが他のカテゴリより回答比率が高かった。

表 5.3.3 ソーシャルメディアの利用目的（学籍職業別） 単位：%

	高校生	短大専門 学校	大学生・ 大学院生	社会人 (非正規)	社会人 (正規)	無職	有意 差*
1. 自分の日記がわり	32.7	37.6	35.1	41.2	34.7	47.2	***
2. 友だちの近況を知る	62.3	73.8	68.0	60.7	65.8	49.7	***
3. リアルの友だちとやりとりをする	61.9	59.6	59.8	46.2	52.4	35.0	***
4. リアルでは知らない人と交流する・ 友達を探す	41.5	34.0	24.7	23.9	17.6	32.2	***
5. 職場や学校などでの事務的な連絡 をする	23.3	26.2	26.6	12.6	10.6	2.2	***
6. 愚痴をこぼす	37.4	31.2	29.5	29.0	20.6	33.7	***
7. 悩みを相談する	22.2	17.7	12.6	14.1	12.4	14.1	***
8. オフラインとは違う自分になって楽 しむ	16.8	15.6	10.3	12.7	8.5	17.5	***
9. 社会的なつながりを感じる	11.0	12.1	12.0	9.8	12.9	16.3	ns
10. ひまつぶし	64.6	63.8	60.3	60.0	51.2	63.2	***
11. 有名人や趣味に関する情報を提 供する	20.4	22.0	14.0	16.7	10.8	19.3	***
12. 有名人や趣味に関する情報を集 める	44.0	44.7	36.7	34.4	25.8	41.4	***
13. みんなが利用しているから	21.5	23.4	21.3	15.7	19.7	14.1	**
14. 友達に誘われたから	10.3	9.9	12.4	12.3	13.6	11.0	ns
15. その他	1.4	0.7	0.5	1.3	0.8	2.2	ns

5.4 対人関係

(1) 自己認識による友人の多寡（問4）

ネット上だけの友人を除く「リアルな友人」が多い方だと思うか、回答者の主観的判断を四件式で尋ねた（問4）。全体としては「やや少ない」と「少ない」を合わせて66.4%と、リアルな友だちは少ないと感じる人が多い（図5.4.1）。年層別では低年齢層ほど「多い」と感じる人の割合が高くなる傾向が見られ、 χ^2 二乗検定で危険率0.1%未満の有意な偏りが認められた。学校・職業別では高校生において「多い」「やや多い」の割合が最も高く、

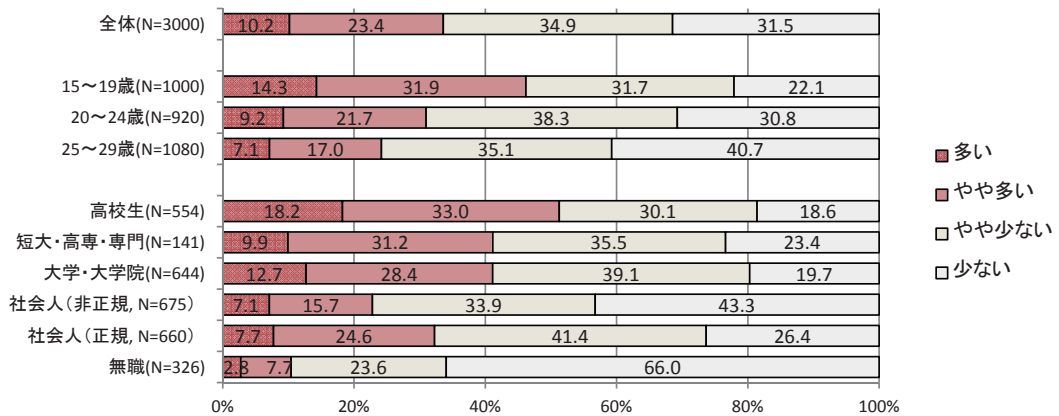


図 5.4.1 リアルの友人の多さに関する自己認識（全体、年層別、学生・職業別）

※分析母数は回答者全体（合わせて N=3000）。

社会人、無職と進むにつれてこの割合が下がる傾向が見られた。こちらも χ 二乗検定で危険率0.1%未満の有意な偏りが認められた。

(2) 家族・友人との関係への満足度（問5）

家族・友人との関係への満足度を四件式で尋ねた（問5）。全体としてはいずれの相手に対しても「満足」「やや満足」が大きな割合を占めたが、「ネット上の友だちとの関係」に関しては「該当する人はいない」が4割を超えた（図5.4.2）。

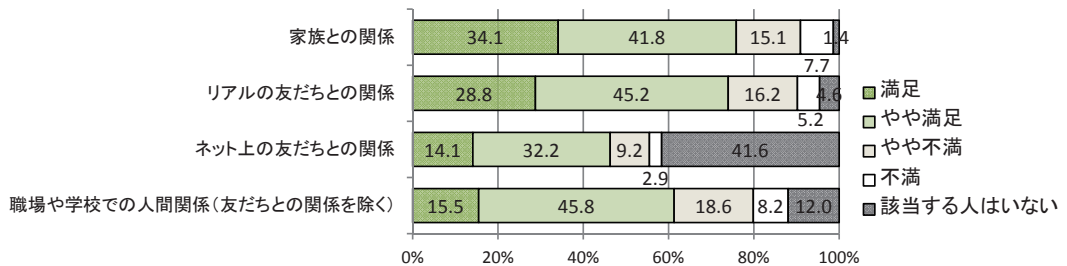


図 5.4.2 家族・友人との関係への満足度

※分析母数は回答者全体（N=3000）

「該当する人はいない」の回答を除き、「満足」「やや満足」の合計割合を年層別で比較したところ、「リアルの友だちとの関係」と「ネット上の友だちとの関係」は低年齢層ほど満足の割合が高い傾向が見られた（図5.4.3）。「家族との関係」「職場や学校での人間関係」では20～24歳の割合が最も高かった。

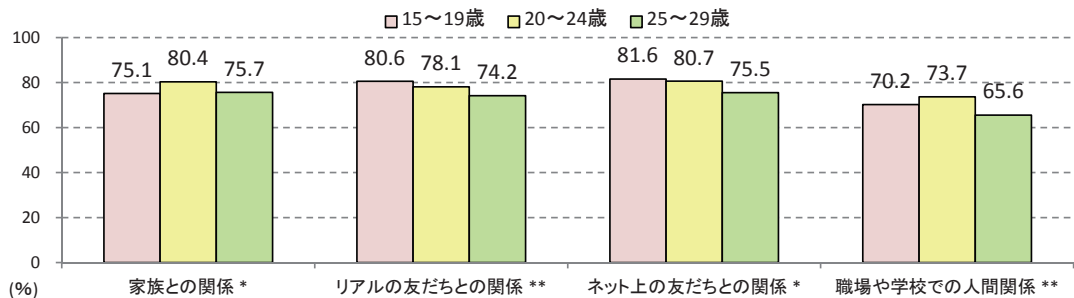


図 5.4.3 家族・友人との関係への満足度の年層別比較

※分析母数は回答者全体。ただし「該当する人はいない」回答を除いたため、N数は各別に異なる（煩雑に過ぎるため各々のN数は省略）。

※数値は「満足」「やや満足」の合計パーセンテージ。

※記号： χ 二乗検定結果（** $p < .01$, * $p < .05$ ）。

同様に学生・職業別で比較したところ、いずれも χ 二乗検定で危険率0.1%未満の有意な偏りが見られた（次頁の図5.4.4）。「家族との関係」について有意な傾向は見出し

がたいが、残る3つについては無職の満足割合の顕著な低さが注目される。社会的地位の不安定さに伴って周囲との関係もうまくいっていない可能性がうかがわれる。

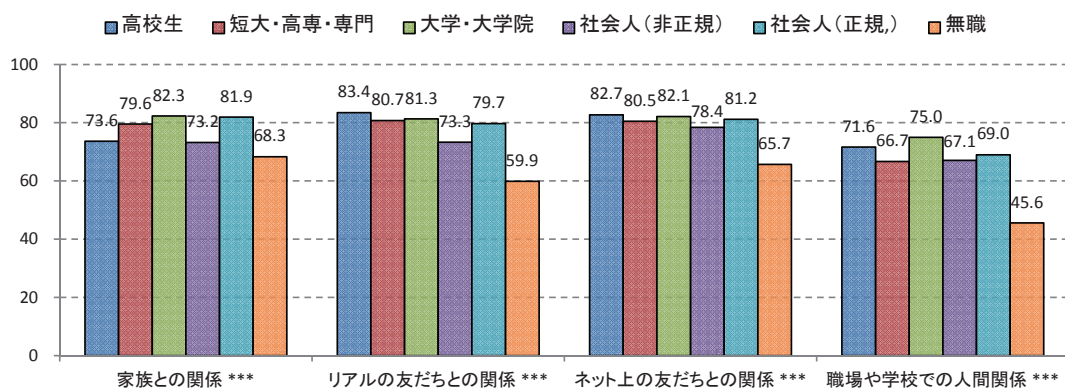


図 5.4.4 家族・友人との関係への満足度の学生・職業別比較

※分析母数は回答者全体（ただし「該当する人はいない」回答を除く、N数は省略）。

※数値は図 5.4.3 と同様。記号： χ 二乗検定結果 (***) $p < .001$ 。

ソーシャルメディア上の交流に関する調査 調査票（単純集計付き）

※断りない限り N=3000、単位は%。

※小数点以下第 2 位を四捨五入したため、SA 質問の合計が 100% 丁度にならない箇所が部分的に含まれる。

問 1 あなたが平日 1 日に下記の機器でインターネット(メールも含む)を利用する時間を教えてください。またそれぞれについて、ソーシャルメディアで友だちとやりとりする時間も入力してください。機器を持っていない場合や、利用していない場合はそれぞれ「0」と入力してください。

	平日 1 日の時間
従来型の携帯電話（PHS も含む）で	
(1) 平日 1 日にインターネットを利用する時間（全体）	（ 21.0 ）分 N=3000
(2) ソーシャルメディアで友だちとやりとりする時間	（ 7.6 ）分 N=3000
スマートフォンで	
(3) 平日 1 日にインターネットを利用する時間（全体）	（ 115.7 ）分 N=3000
(4) ソーシャルメディアで友だちとやりとりする時間	（ 42.5 ）分 N=3000
パソコンで	
(5) 平日 1 日にインターネットを利用する時間（全体）	（ 105.6 ）分 N=3000
(6) ソーシャルメディアで友だちとやりとりする時間	（ 14.3 ）分 N=3000
携帯電話・スマートフォン・パソコン以外の機器（iPad, iPod, PSP など）で	
(7) 平日 1 日にインターネットを利用する時間（全体）	（ 22.0 ）分 N=3000
(8) ソーシャルメディアで友だちとやりとりする時間	（ 7.4 ）分 N=3000

問 2 あなたが現在使っているスマートフォンもしくは従来型携帯電話（PHS も含む）では、次のようなサービス・アプリを使っていますか。下記のそれぞれについて、あてはまるものをひとつずつお選びください。

	使 っ て い る	使 っ て い な い	か 使 っ て い ら な い か ど う	と そ の サ ー ビ ス の こ	つ 来 ス マ ー ト フ ォ ン ・ 携 帯 電 話 を 持 つ て い な い	
(1) 携帯電話会社が提供するフィルタリングサービス（※1）	19.9	48.4	20.5	9.8	1.4	NA 0.0
(2) 携帯電話会社が提供する、アプリの起動や Wi-Fi 接続を制限するサービス（※2）	17.4	45.8	22.6	12.9	1.3	0.0
(3) 携帯電話会社以外が提供するセキュリティのソフトやサービス（※3）	22.3	38.6	25.4	12.4	1.3	0.0

※1 ネット上の有害な情報へのアクセスを制限するサービス

※2 「あんしんモード」「安心アプリ制限」「安心設定アプリ」「安心アクセス」などアプリの起動や無線 LAN (Wi-Fi) の接続を制限したり、一部のサイトへの接続を制限するサービス

※3 セキュリティのソフトやサービスの例・・・「ノートン」「マカフィー」「ウイルスバスター」「i-フィルター」「Yahoo!あんしんネット」など

問3 あなたが平日1日に過ごす中で、以下の時間はどのくらいありますか。

	平日1日の時間
(1) 睡眠・食事などを除いて家で自由に過ごせる時間	() 時間 (328.0) 分 N=2970
(2) 仕事や学校の時間	() 時間 (403.1) 分 N=2976
(3) 通勤・通学の時間 (往復)	() 時間 (62.1) 分 N=2982
(4) テレビを見る時間	() 時間 (120.2) 分 N=3000
(5) 睡眠時間	() 時間 (392.9) 分 N=3000
(6) 友だちと顔を合わせて話す時間	() 時間 (83.7) 分 N=3000
(7) 家族と顔を合わせて話す時間	() 時間 (130.4) 分 N=2991

※「X時間Y分」形式で尋ねたものを分単位に換算した。

問4 あなたは、リアルな友人（ネットの友人以外）が多い方だと思いますか？

1. 多い	10.2	2. やや多い	23.4	3. やや少ない	34.9	4. 少ない	31.5
-------	------	---------	------	----------	------	--------	------

0.0

問5 あなたは現在、下記についてどの程度満足していますか。それぞれについて、あてはまるものを1つずつお選びください。

	満足	やや満足	やや不満	不満	いかなる人にも当てはまらない	NA
(1) 家族との関係	34.1	41.8	15.1	7.7	1.4	0.0
(2) リアルな友人との関係	28.8	45.2	16.2	5.2	4.6	0.0
(3) ネット上の友人との関係	14.1	32.2	9.2	2.9	41.6	0.0
(4) 職場や学校での人間関係（友人との関係を除く）	15.5	45.8	18.6	8.2	12.0	0.0

問6 あなたの生活や心の支えになってくれる人は、リアルの人間関係とインターネット上の人間関係のどちらにより多いですか。下記について、それぞれあてはまるものを1つずつお選びください。

※この場合の「リアルの人間関係」とは家族や職場・学校の友だちなど、リアルの活動をきっかけに知り合った人を指します。「ネット上で初めて知り合いその後リアルでも付き合うようになった人」は「インターネット上の人間関係」としてお考えください。

	リアルの人間関係の方が多くいる	ネット上の人間関係の方が多くいる	両方同じくらいいる	どちらにもいない	NA
(1) 普段からあなたの気持ちをよく理解してくれる	72.3	7.1	8.2	12.4	0.0
(2) 日頃からあなたの実力を評価し、認めてくれる	69.8	6.1	8.8	15.2	0.0
(3) あなたが落ちこんでいると、元気づけてくれる	68.1	9.7	10.9	11.3	0.0
(4) あなたに嬉しいことがあると、自分の事のように喜んでくれる	68.7	7.2	10.9	13.3	0.0
(5) ストレスがたまっている時、そのイライラを受け止めてくれる	60.5	8.9	8.2	22.4	0.0
(6) 深刻な悩みを打ち明けることができる	65.8	6.1	6.6	21.5	0.0
(7) 楽しい時間を心置きなく共有できる	69.1	8.2	13.0	9.7	0.0
(8) 趣味に関する話ができる	55.2	22.9	12.6	9.2	0.0
(9) 恋愛に関する話ができる	63.1	5.8	8.6	22.5	0.0
(10) 性に関する話ができる	49.9	8.8	7.9	33.4	0.0

問7 あなた自身にあてはまるものを選択肢の中からそれぞれ1つだけ選んでください。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない	NA
(1) 私のことを親身に相談相手になってくれる人はいないと思う	11.0	21.6	35.9	31.4	0.0
(2) 仲間から浮いているように見られたくない	24.4	42.6	19.7	13.3	0.0
(3) だいたいにおいて、自分に満足している	10.3	31.4	32.7	25.7	0.0
(4) 他人に気兼ねして自分のやりたいことができない	13.8	37.6	33.9	14.7	0.0
(5) 人といっしょにいるのが好きだ	16.5	41.0	30.7	11.8	0.0
(6) 食欲がなかったり、食べたくない時がある	20.9	33.0	26.3	19.9	0.0
(7) どんなときでも相手の機嫌を損ねたくない	22.1	44.9	25.0	7.9	0.0
(8) 私は私の生き方を誰かが理解してくれると信じている	19.8	44.3	23.8	12.0	0.0

問 8 あなたがネット上のソーシャルメディアを使っている理由について、あてはまるものをすべて選択してください。

1. 自分の日記がわり	37.4
2. 友だちの近況を知る	63.1
3. リアルの友だちとやりとりをする	52.8
4. リアルでは知らない人と交流する・友だちを探す	27.3
5. 職場や学校などでの事務的な連絡をする	16.6
6. 愚痴をこぼす	29.4
7. 悩みを相談する	15.1
8. オフラインとは違う自分になって楽しむ	12.7
9. 社会的なつながりを感じる	12.0
10. ひまつぶし	59.5
11. 有名人や趣味に関する情報を提供する	16.0
12. 有名人や趣味に関する情報を集める	36.0
13. みんなが利用しているから	19.0
14. 友だちに誘われたから	12.0
15. その他	1.1
NA	0.0

問 9 あなたは、ソーシャルメディアで、もともと知らなかった人（リアルの知り合いではない人）とやりとりをしていますか？

1. やりとりしている	39.6
2. やりとりした経験はあるが、今はしていない	28.5
3. やりとりしたことはないが、今後やりとりしてみたい	4.3
4. やりとりしたことはなく、今後もやりとりするつもりはない	27.6
NA	0.0

補問 1（問 9 で 1 または 2 に当てはまった人が対象 N=2043）

ソーシャルメディアで、知らない人とやりとりをした理由として、あてはまるものをすべて選択してください。

1. 共通の趣味や嗜好を持っていることがわかったから	71.6
2. 共通の友だちがいることがわかったから	17.7
3. 居住地や出身地、出身校（在学）が同じもしくは近いことがわかったから	12.8
4. 顔が見えない相手の方が、気兼ねなく話せるから	21.0
5. リアルな世界では出会えないような職業や学校の人と交流したかったから	13.7
6. リアルな世界では出会えないような遠くに住んでいる人と交流したかったから	13.1
7. リアルな世界では出会えないような年代の人(かなり年上の人など)と交流したかったから	9.2
8. ネットで彼氏候補を探していたから	3.1

9. ネットで友だち募集をしていたから	7.7
10. 相手からアクセスがあって承認したから	17.1
11. 好奇心でなんとなく	16.4
12. その他	1.4
NA	0.0

補問 2（問 9 で 2 に当てはまった人が対象 N=855）

ソーシャルメディアで今は知らない人とやりとりをしていない理由として、あてはまるものをすべて選択してください。

1. 過去に嫌な経験をしたから	11.1
2. 知らない人とやりとりする目的（悩み相談、彼氏作り等）を果たしたから	13.5
3. 知らない人とやりとりすることに飽きたから	32.9
4. 知らない人とやりとりすることに疲れたから	29.8
5. 親や友だち等から、知らない人とやりとりすると言われてたから	3.0
6. 学校で、知らない人とやりとりすると言われてたから	1.3
7. リアルの人間関係が充実しているから	32.1
8. その他	12.8
NA	0.0

補問 3（問 9 で 3 または 4 に当てはまった人が対象 N=957）

ソーシャルメディアで知らない人とやりとりをしない理由として、あてはまるものをすべて選択してください。

1. そもそもソーシャルメディアでは知り合いとしかやりとりしないと決めているから	43.1
2. 今までネットで気が合う人がいなかったから	5.3
3. 身近な人が、知らない人とのやりとりで嫌な経験をしていたから	2.6
4. 顔の見えない相手と交流するのはなんとなく怖いから	46.3
5. 知らない人と交流するのは面倒だから	39.7
6. 親や友人等から、知らない人とやりとりすると言われていたから	2.6
7. 学校で、知らない人とやりとりすると言われてたから	1.2
8. リアルの人間関係が充実しているから	17.1
9. その他	1.6
NA	0.0

問 10（問 9 で 1 または 2 に当てはまった人が対象 N=2043）

あなたが知らない人ともっとも交流している(していた)ソーシャルメディアで、自分の情報をどの程度公開しているかを教えてください。

	開 プ ロ フ イ ール 等 で 公	つ ネ ッ ト 相 手 上 で 仲 良 く な	た 実 際 に 会 う 約 束 を し	公 開 し な い は	NA
(1) 名前（本名フルネーム）	12.7	14.3	12.7	60.3	0.0
(2) 姓(苗字)か下の名前のどちらか一方（かおり,Mika など）	33.7	18.5	8.4	39.5	0.0
(3) 性別	78.3	11.4	1.8	8.5	0.0
(4) 年齢または学年等（JK2、社会人 2 年目など）	54.2	19.4	2.9	23.5	0.0
(5) 学校名または所属会社名	13.5	8.2	5.2	73.1	0.0
(6) 居住地域や自宅の最寄駅	16.0	15.5	11.5	57.1	0.0
(7) 生年月日	43.1	20.1	3.7	33.1	0.0
(8) 自分だけの顔写真	16.6	12.1	7.6	63.7	0.0
(9) 友だちと写っている顔写真	14.4	11.3	5.0	69.3	0.0
(10) 電話番号(ケータイ)	0.6	6.1	14.0	79.3	0.0
(11) 電話番号(自宅)	0.7	1.8	2.5	95.1	0.0
(12) メールアドレス	2.6	19.2	14.6	63.5	0.0
(13) LINE 等の SNS の ID	3.8	25.7	9.3	61.2	0.0
(14) 家族構成	4.9	18.3	5.8	71.0	0.0
(15) ペットの名前	11.9	11.4	2.7	74.0	0.0
(16) 似ていると言われる有名人やキャラクター等	6.2	8.3	2.4	83.2	0.0
(17) 服装の趣味	18.0	15.9	3.2	62.9	0.0
(18) 身長、背格好	16.3	21.9	5.7	56.1	0.0
(19) その他 ※ある場合のみ回答	5.6	4.2	1.1	19.6	69.6

問 11（問 9 で 3 または 4 に当てはまった人が対象 N=957）

あなたがもっともよく使っているソーシャルメディアで、自分の情報をどの程度公開しているかを教えてください。

1. 名前（本名フルネーム）	38.5
2. 姓(苗字)か下の名前のどちらか一方（かおり,Mika など）	28.7
3. 性別	58.8
4. 年齢または学年等（JK2、社会人 2 年目など）	31.6
5. 学校名または所属会社名	17.9
6. 居住地域や自宅の最寄駅	11.2

7. 生年月日	30.5
8. 自分だけの顔写真	12.0
9. 友だちと映っている顔写真	11.6
10. 電話番号(ケータイ)	0.7
11. 電話番号(自宅)	0.3
12. メールアドレス	2.1
13. LINE 等の SNS の ID	4.4
14. 家族構成	2.3
15. ペットの名前	4.3
16. 似ていると言われる有名人やキャラクター等	0.7
17. 服装の趣味	3.0
18. 身長、背格好	2.5
19. その他	0.8
20. 公開しているものはない	17.2
NA	0.0

問 12 (問 9 で 1 または 2 に当てはまった人が対象 N=2043)

ネットでやりとりをして知り合いになった人の人数を性別ごとに、おおよその人数で教えてください。なお、ネット上だけのやりとりで実際に出会ったことがない方は含め、もともと知り合いだった方は除いてください。該当しない場合は「0」と入力してください。

	知り合いになった人数
(1) 年上の男性	(3.7) 人 N=2043
(2) 同年代の男性	(2.6) 人 N=2043
(3) 年下の男性	(1.2) 人 N=2043
(4) 年代不明の男性	(1.8) 人 N=2043
(5) 年上の女性	(4.5) 人 N=2043
(6) 同年代の女性	(6.5) 人 N=2043
(7) 年下の女性	(3.4) 人 N=2042
(8) 年代不明の女性	(2.4) 人 N=2043
(9) 年代も性別も不明の人	(5.9) 人 N=2042

問 13 (問 12 で(1)~(4)のいずれかが 1 人以上いた人が対象 N=1460)

ネットで知り合った男性とは、どのようなソーシャルメディアを使っているときに知り合いましたか？ あてはまるものをすべて選択してください。

1. LINE	15.6
2. KakaoTalk	2.1
3. comm	0.7

4. Skype	5.0
5. アメーバブログ	9.8
6. Twitter	39.7
7. Facebook	14.5
8. mixi	24.6
9. GREE	8.3
10. Mobage	8.7
11. プロフ	2.5
12. チャット（オンラインゲームのチャット含む）	11.1
13. Vine	0.1
14. 動画サイト・生放送	5.6
15. 掲示板	7.7
16. 出会い系アプリ・サイト	6.1
17. その他	6.9
NA	1.9

問 14（問 12 で(1)～(4)のいずれかが 1 人以上いた人が対象 N=1460）

ネットで知り合った男性とは、どのように知り合いましたか。知り合ったきっかけを教えてください。あてはまるものをすべて選択してください。

1. 相手に興味を持ち、自分からアクセス（メッセージ、友だち申請、フォロー等）した	32.3
2. 相手からアクセス（メッセージ、友だち申請、フォロー等）された	71.2
3. 共通の知り合いの紹介	15.3
4. グループチャットや会議通話などで複数人とやりとりするなかで知り合った	15.3
5. その他	3.7
NA	1.9

問 15（問 12 で(1)～(4)のいずれかが 1 人以上いた人が対象 N=1460）

ネットで知り合った男性とネット上でやりとりをするとき、どんなふうになりますか。あてはまるものをすべて選択してください。

1. 実際の年齢よりも年上の人を演じる	3.4
2. 実際の年齢よりも年下の人を演じる	2.9
3. 実際よりも明るい感じになる	19.5
4. 実際よりもかわいらしくなる	11.2
5. 実際よりも慎重になる	24.0
6. ふだんより緊張する	12.4
7. ふだんと変わらない自分で接する	52.3
8. その他	1.3
NA	1.9

問 16 (問 12 で(1)~(4)のいずれかが 1 人以上いた人が対象 N=1460)

ネットで知り合った男性と、やりとりをやめようと思った経験はありますか？

1. ある	63.0	2. ない	35.1	NA	1.9
-------	------	-------	------	----	-----

補問 1 (問 16 で 1 に当てはまった人が対象 N=920)

ネットで知り合った男性とやりとりをやめようと思ったのはなぜですか？ あてはまるものをすべて選択してください。

1. 話題がつまらなかった	42.5
2. 趣味が合わなかった	26.3
3. 写真を見たらカッコ悪かった	19.1
4. 話すタイミングが合わなかった	12.6
5. 相手が嘘をついていた	8.2
6. ネカマだった (男性なのに女性と偽っていた)	2.0
7. 性的な話題、下ネタが多かった	30.5
8. 付き合いもないのに彼氏づらをされた	17.1
9. 写真を送れと言われた	23.5
10. 会うことを強制された	20.3
11. 自分の悪口や中傷するようなことを書かれた	3.6
12. 勧誘された (入会や商品購入など)	2.4
13. 相手からの連絡が頻繁すぎた	28.4
14. 相手から自分のことをしつこく聞かれた	23.5
15. 人からやりとりをやめなさいと言われた	4.1
16. その他	8.9
NA	0.0

問 17 (全員が対象)

あなた自身にあてはまるものを選択肢の中からそれぞれ 1 つだけ選んでください。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない	NA
(1) 私は、人とうまくやったり好かれるために、人が望むようにふるまおうとする傾向がある	20.3	49.1	22.1	8.5	0.0
(2) 自分が他人にどう思われているのか気になる	38.9	43.5	12.4	5.2	0.0
(3) 人とのつきあいは私にとっていつも刺激的だ	15.7	42.7	31.5	10.1	0.0

(4) 気分が沈んで憂うつになることがよくある	36.3	37.6	18.8	7.2	0.0
(5) 人間は、本来、ひとりぼっちなのだと思う	29.4	37.2	23.8	9.6	0.0
(6) 何か言っても無視されることが多いようだ	6.0	19.1	45.0	29.9	0.0
(7) 一般的に人間は信頼できるものだと思う	6.7	38.0	38.2	17.1	0.0
(8) 自分の考えがグループの意見と異なるとき、自分の考えを言いくい	19.6	42.7	28.7	9.0	0.0
(9) 何かにつけて、自分は役に立たない人間だと思う	21.5	37.3	28.7	12.4	0.0

問 18 (問 9 で 1 または 2 に当てはまった人が対象 N=2043)

ネットで知り合いになった人と、実際に会ったことはありますか？ あてはまるものをすべて選択してください。※複数回答

1. 会ったことがある	52.3
2. 会う約束をしたが、実際には会えなかったことがある(相手が来なかった、待合せ場所や時間を間違えたなど)	4.6
3. 会う約束をしたが、結局会わなかったことがある(ドタキャンした、相手を見て会うのをやめたなど)	6.0
4. これまでに会ったことはないが、会ってみたい人がいる	13.4
5. これまでに会ったことはないし、これからも会うつもりはない	33.1
NA	0.0

問 19 (問 18 で「1. 会ったことがある」に当てはまった人が対象 N=1068)

ネットで知り合い、実際に会ったことがある人数をそれぞれ教えてください。おおよその人数でお知らせください。(もともとのお知り合いの方は除いてください) 実際に会っていない場合には「0」と入力してください。

	実際に会ったことがある人数
(1) 年上の男性	(2.0) 人 N=1068
(2) 同年代の男性	(0.9) 人 N=1068
(3) 年下の男性	(0.4) 人 N=1068
(4) 年代不明の男性	(0.1) 人 N=1068
(5) 年上の女性	(2.1) 人 N=1068
(6) 同年代の女性	(2.0) 人 N=1068
(7) 年下の女性	(1.1) 人 N=1068
(8) 年代不明の女性	(0.1) 人 N=1068

問 20 (問 19 で(1)~(4)のいずれかが 1 人以上いた人が対象 N=702)

あなたが、ネットで知り合った男性と実際に会って良かったと思ったことがあれば教えてください。あてはまるものをすべて選択してください。

1. 趣味が合う人と深い話ができる	48.3
2. 親やリアルの友だちには話せない話や悩みを相談できた	15.2
3. リアルの世界では知り合えない人と会うことで世界が広がった	29.3
4. 彼氏候補を見つけられた	20.5
5. 一緒に出掛ける遊び友だちを見つけられた	23.1
6. 欲しいものを買ってくれたり、ごはんをおごってくれたりする人を見つけられた	9.1
7. 寂しさを埋められた	19.9
8. リアルの人間関係の中より、チャホヤしてもらえた	10.0
9. その他	2.9
10. 良かったことは特にない	17.8
NA	0.0

問 21 (問 19 で(1)~(4)のいずれかが 1 人以上いた人が対象 N=702)

あなたが、ネットで知り合った男性と実際に会って良くなかったことがあれば教えてください。あてはまるものをすべて選択してください。

1. 事前のやりとりでイメージしていた人と違う感じだった	28.9
2. ネットの写真と実物がまったく違っていた	10.8
3. ネットで書いていた年齢や職業などが嘘だった	5.0
4. 相手との会話がはずまなかった	21.8
5. 変わった人だった	16.8
6. やたらとなれなれしくされた	19.1
7. 本名や電話番号、住所などをしつこく聞かれた	3.9
8. 手を握られたり、体を触られたりした	15.5
9. そういうつもりがなかったのに、性的関係になった	11.7
10. ネットで出会った友だちや彼氏のことは周囲に話しにくい	17.5
11. ネットで出会った友だちや彼氏は、自分の家族やリアルの友だちに紹介しにくい	14.0
12. その他	2.0
13. 良くなかったことは特にない	32.9
NA	0.0

問 22 (問 19 で(1)~(4)のいずれかが 1 人以上いた人が対象 N=702)

ネットで知り合った男性のことについて、あなたは誰に話していますか？ (1)と(2)のそれぞれについて、あてはまるものをすべて選択してください。

	(1) ネット上のやり取り	(2) 実際に会うこと
1. 母親	17.1	18.1
2. 父親	5.7	6.1
3. 兄弟姉妹	11.0	11.0
4. その他の家族	1.9	2.3
5. リアルの友だち	52.6	49.4
6. 彼氏	8.0	7.7
7. 学校の先生	1.3	0.9
8. 職場の同僚	3.3	3.0
9. その他	4.7	4.6
10. 誰にも話していない	35.2	35.5
NA	0.0	0.0

問 23 (全員が対象)

(1) あなたは、ネット上で知らない人とやりとりをしたり、その相手と実際に会うことの危険性についてどのような人を通じて知りましたか？ すべて選択してください。

(2) (1)で選んだもののなかで最もためになったものを 1 つだけ選択してください。

	(1) 危険性を知ったもの(いくつでも)	(2) 最もためになったもの(ひとつだけ)
1. 学校の授業のなかで、説明を聞いたことがある	37.6	12.9
2. 学校の集会やホームルームで、説明を聞いたことがある	24.6	5.1
3. 警察の人や携帯会社の人などから、説明を聞いたことがある	13.3	3.8
4. 親から説明や注意を受けたことがある	16.3	4.1
5. 兄弟姉妹から、注意やアドバイスを聞いたことがある	3.7	0.9
6. 友だちや先輩から、注意やアドバイスを聞いたことがある	9.2	2.6
7. 友だちや先輩などの危険な目にあったという体験談を聞いたことがある	6.7	3.1
8. ニュースや噂話を通じて危険性を知った	65.7	47.5
9. その他の人から説明や注意を受けたことがある	4.1	0.7
10. 自分の経験を通じて学んだ	12.3	9.0
11. ネットでの出会いに関する危険性について、説明や注意を受けたことはない	10.1	0.0
NA	0.0	10.1

問 24（問 23 で 1～9 のいずれか 1 つ以上に当てはまった人が対象 N=2580）

あなたが、ネットでの出会いについて、説明や注意を受けたことのある内容はどのようなものでしたか？ あてはまるものをすべて選択してください。

1. 出会い系サイトにアクセスしてはいけない	61.5
2. コミュニティサイトや掲示板、SNS 等を利用してはいけない	11.2
3. 信用できる SNS やアプリしか使ってはいけない	21.2
4. 高校生まではフィルタリングを使いましょう	21.4
5. プロフィールに個人情報や顔写真を公開してはいけない	58.4
6. SNS などでも知り合った相手に個人情報を教えてはいけない	57.4
7. SNS などでも知り合った人が公開している年齢や性別、顔写真などの情報を信用してはいけない	47.9
8. ネットでも知り合った人と、リアル場で会ってはいけない	33.2
9. その他	0.8
NA	0.0

問 25（問 23 で 1～9 のいずれか 1 つ以上に当てはまった人が対象 N=2580）

あなたは、ネットでの出会いについての説明や注意を受けたとき、どのように感じましたか？ あてはまるものをすべて選択してください。

1. とてもためになった	24.1
2. 怖いと思って、気を付けるようになった	52.6
3. 危険なのはわかっているが、自分は大丈夫と思った	12.9
4. 説明があいまいで具体性がなく、ピンとこなかった	3.7
5. 説明された内容が極端すぎて、身近なこととして感じられなかった	9.4
6. ネットの悪い面ばかりが強調されすぎていて、反発を感じた	11.2
7. 説明している人がネットの世界のことをよくわかっていないので、受け入れられなかった	4.4
8. わかりきっている内容ばかりだった	33.7
9. 自分には関係ないことだと思った	7.2
10. その他	0.5
NA	0.0

問 26 (全員が対象)

あなた自身にあてはまるものを選択肢の中からそれぞれ1つだけ選んでください。

	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない	NA
(1) どんなに親しい人も、結局、自分とは別個の人間であると思う	46.0	43.6	8.3	2.1	0.0
(2) これまでの経験から、他人もある程度は信頼できると感じる	11.8	50.0	28.9	9.4	0.0
(3) 人づきあいの機会があればよるこんで参加する	12.8	38.1	35.0	14.1	0.0
(4) うちとけて話ができる人は私にはあまりいないように思う	20.6	37.3	29.7	12.4	0.0
(5) 少なくとも人並みには価値のある人間である	12.3	46.2	29.2	12.4	0.0
(6) 状況が許せば、たいてい人間はお互い正直に、かつ誠実にかかわりあいたいと思っているだろう	13.6	54.3	24.7	7.4	0.0
(7) 他人に気兼ねして自分のやりたいことができない	13.2	40.2	33.6	13.0	0.0
(8) 気分がモヤモヤしたり、重苦しく感じることもある	33.8	42.3	17.2	6.7	0.0

問 27 (全員が対象 ※答えたくない人は無回答も可)

あなたがこれまでに交際した男性の人数は何人ですか。下記のそれぞれについて人数をお答えください。該当しない場合は「0」と入力してください。

	交際した男性の人数
(1) 恋人として交際した人	(2.2) 人 N=2513
(2) 恋人のうち、性的関係を持った人	(1.3) 人 N=2433
(3) 恋人以外でデートした人	(2.4) 人 N=2431
(4) 恋人以外で性的関係を持った人	(0.9) 人 N=2413

補問 1 前問でお答えいただいたその相手はどのような人ですか? あてはまるものをすべて選択してください。

(1) 恋人として交際した人 (問 27 で(1)が1人以上いた人が対象 N=1653)

1. 学校やサークル、職場などリアルの生活で知り合った人	84.9
2. 外出先でたまたま出会った人・ナンパで出会った人	10.3
3. インターネット上で知り合った人	17.0
4. 答えたくない	4.2
NA	0.0

(2) 恋人のうち、性的関係を持った人（問 27 で(2)が 1 人以上いた人が対象 N=1174)

1. 学校やサークル、職場などリアルの生活で知り合った人	82.5
2. 外出先でたまたま出会った人・ナンパで出会った人	10.8
3. インターネット上で知り合った人	17.1
4. 答えたくない	4.3
NA	0.0

(3) 恋人以外でデートした人（問 27 で(3)が 1 人以上いた人が対象 N=1129)

1. 学校やサークル、職場などリアルの生活で知り合った人	76.7
2. 外出先でたまたま出会った人・ナンパで出会った人	15.2
3. インターネット上で知り合った人	24.0
4. 答えたくない	5.3
NA	0.0

(4) 恋人以外で性的関係を持った人（問 27 で(4)が 1 人以上いた人が対象 N=533)

1. 学校やサークル、職場などリアルの生活で知り合った人	66.6
2. 外出先でたまたま出会った人・ナンパで出会った人	22.1
3. インターネット上で知り合った人	27.2
4. 答えたくない	6.6
NA	0.0

補問 2（問 27 で(4)が 1 人以上いた人が対象 N=533)

恋人以外の人と性的関係を持ったのはなぜですか。次の中からあてはまるものをいくつかもお選びください。

1. 相手を好きになったため	38.1
2. 相手のことをもっとよく知りたいから	9.6
3. 安らぎを得るため	17.3
4. 性的な快樂のため	25.5
5. ストレスを解消するため	18.6
6. 恋人が拒否するから	1.7
7. なんとなく	34.2
8. 相手に求められたため	48.0
9. 相手や第三者から強制されたため	3.0
10. 金銭を得るため	4.5
11. その他	4.7
12. 答えたくない	3.9
NA	0.0

問 28 (全員が対象)

あなた自身の行動や考えについて、次のようなことはあてはまりますか。それぞれについて、あなたのお考えに最も近いものを1つずつお選びください。

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	答えたくない	NA
(1) 一度きりの相手と性的関係を持っても構わないと思う	6.9	14.4	17.8	54.1	6.9	0.0
(2) 同時並行的に複数の人と性的関係を持っても構わないと思う	4.0	8.0	15.0	66.9	6.1	0.0
(3) あまり好きでない人とでも性的関係を持っても構わないと思う	3.7	9.9	17.1	63.3	6.0	0.0
(4) 性的なことに関心が強い	8.9	24.1	29.0	29.5	8.5	0.0
(5) 恋人以外の相手と性的関係を持っても構わないと思う	4.4	11.2	17.3	61.0	6.1	0.0
(6) お互いの同意があれば、金銭のために性的関係を持っても構わないと思う	7.9	15.1	16.7	53.6	6.8	0.0
(7) 18歳未満でも性的関係を持っても構わないと思う	10.9	24.6	21.4	35.4	7.6	0.0

問 29 (全員が対象)

あなたは恋人以外の男性に対してどの程度のつきあいまで許容できますか。次に挙げる(1)~(4)のそれぞれの相手に対してあなたがしても(されても)よいと思うものを、選択肢の中からいくつでもお選びください。

	(1) 学校や友人・知人で親しくし	(2) まだシャットアウトしてないが、親	(3) ソーシャル、実際に会って上る知	(4) 外出先(街中やお店、イベント)で出会った人
1. 相手以外の人を含めた3人以上のグループで遊びに行く	71.3	35.0	35.2	24.5
2. 相手以外の人を含めた3人以上のグループで一泊以上の旅行に行く	41.0	11.7	13.0	6.5
3. 二人きりで遊びに行く	38.2	13.6	16.4	10.5
4. 二人きりで一泊以上の旅行に行く	5.8	1.7	2.9	1.3
5. 二人きりで相手のクルマに乗る	33.4	7.5	9.0	5.0
6. 相手の家に行く	21.9	4.1	5.1	2.4

7. 相手を自分の家に招く	14.4	2.3	2.6	1.1
8. 手を握る/握られる	13.9	4.0	4.8	3.4
9. 体を触る/触られる	10.1	2.4	3.1	2.6
10. 抱きしめる/抱きしめられる	8.6	2.2	2.7	2.6
11. キスをする/される	4.3	1.5	1.9	1.9
12. 性行為（セックス）をする	3.0	1.2	1.5	1.8
13. 相手に自分の裸を見せる	1.7	0.7	1.1	1.1
14. 相手に自分の裸の写真や動画を撮られる	0.5	0.1	0.2	0.2
15. いずれもしたくない/されたくない	4.7	25.1	14.8	30.9
16. 該当する男性はいない	12.1	28.1	38.1	33.7
17. 答えたくない	5.2	6.7	6.7	6.3
NA	0.0	0.0	0.0	0.0

問 30（以下最後まで全員が対象）

現在、あなたが同居されているかたの人数を教えてください。（あなたご自身も含まず）

自分も含めて同居家族は （ 3.3 ） 人 N=3000

問 31 あなたのご両親の職業について教えてください。（父親と母親それぞれについて 1 つずつ）

	(1) 父親	(2) 母親
1. 情報通信・IT	4.3	0.6
2. マスコミ	0.4	0.0
3. 警察や司法関係	0.7	0.1
4. 教員	2.7	2.5
5. 公務員(警察や司法関係、教員除く)	6.8	2.6
6. 弁護士	0.2	0.1
7. 医師	1.1	0.2
8. 看護師	0.1	3.9
9. 学校や企業の研究職	1.4	0.4
10. 塾・習い事などの講師	0.3	1.2
11. その他	63.0	45.7
12. 主婦・主夫	0.4	34.8
13. 無職	6.1	4.0
14. 不在	12.4	3.9
NA	0.0	0.0

問 32 あなたのお住まいの地域は、以下のどれにあてはまりますか。

1. 大都市（人口 100 万以上の都市）	26.0
2. 中核都市（人口 30 万～100 万未満の都市）	19.8
3. 中都市（人口 10 万～30 万未満の都市）	25.8
4. 小都市（人口 10 万未満の市）	20.2
5. 郡部（市ではない町村部）	8.1
NA	0.0

問 33 仮に、現在の日本社会を 5 つの層に分けるとすれば、あなたの出身家庭はどこに入るとお考えですか。選択肢のうち、あてはまるものを 1 つだけお選びください。

1. 上	1.0
2. 中の上	15.0
3. 中の中	36.7
4. 中の下	24.9
5. 下	8.5
6. 分からない・答えたくない	13.8
NA	0.0

付録

スクリーニング質問（単純集計付き）

※断りない限り N=3000、単位%。

S Q 1 あなたの性別は？

1. 男性 0.0	2. 女性 100.0	NA 0.0
-----------	-------------	--------

S Q 2 あなたの年齢は？

(22.5) 歳 N=3000

年層別割合

15～19歳 33.3	20～24歳 30.7	25～29歳 36.0	NA 0.0
-------------	-------------	-------------	--------

S Q 3 あなたの職業を教えてください。

1. 学生	44.6
2. 社会人（アルバイト・パート）	16.2
3. 社会人（派遣・契約社員）	6.3
4. 社会人（正社員）	22.0
5. 無職	10.9
NA	0.0

S Q 4 あなたの最終学歴を教えてください。現在、学生の方は通学中の学校を選択してください。

1. 中学校	3.2
2. 高校	34.1
3. 短大・高専・専門学校	18.6
4. 大学	41.9
5. 大学院	2.2
NA	0.0

S Q 5 あなたは現在、結婚されていますか？

1. 未婚	99.0
2. 既婚	0.0
3. 離別・死別	1.0
NA	0.0

S Q 6

(1) 以下のソーシャルメディア／通信メディアをお使いですか？

なお、この調査では今後、以下のソーシャルメディア／通信メディアを便宜上「ソーシャルメディア」と呼ぶことにします。

(2) 前問にて「書き込んでいる／投稿している」を選択された方は、いつ頃から使っているかを教えてください。

	(1) 利用状況			(2) 利用月数	NA
	投書 書き 込んで いる	見他 て人 の 投 稿 だ け を	し投 て稿 いも ない 閲 覧 も		
(1) LINE	71.7	9.2	19.1	(16.4) カ月 N=2151	0.0
(2) KakaoTalk	4.8	2.0	93.3	(13.3) カ月 N=143	0.0
(3) comm	1.4	1.2	97.4	(10.8) カ月 N=42	0.0
(4) Skype	19.5	4.3	76.2	(31.8) カ月 N=586	0.0
(5) その他の通信アプリ	6.9	3.8	89.2	(19.5) カ月 N=208	0.0
(6) アメーバブログ	15.7	36.0	48.4	(34.7) カ月 N=470	0.0
(7) その他のブログ	13.1	26.3	60.7	(46.0) カ月 N=392	0.0
(8) Twitter	58.6	18.5	22.9	(27.3) カ月 N=1759	0.0
(9) Facebook	36.2	19.7	44.2	(24.3) カ月 N=1085	0.0
(10) mixi	14.9	15.8	69.3	(61.4) カ月 N=447	0.0
(11) GREE	4.5	8.0	87.5	(39.3) カ月 N=134	0.0
(12) Mobage	4.8	8.7	86.5	(37.0) カ月 N=144	0.0
(13) その他のSNS・コミュニティサイト	7.0	5.2	87.8	(32.3) カ月 N=211	0.0
(14) プロフ	3.2	4.6	92.3	(41.1) カ月 N=95	0.0
(15) チャット（オンラインゲームのチャット含む）	8.4	3.3	88.3	(50.0) カ月 N=251	0.0
(16) Vine	0.7	6.7	92.6	(9.1) カ月 N=20	0.0
(17) 動画サイト・生放送	9.7	54.8	35.5	(47.8) カ月 N=291	0.0
(18) 掲示板	7.5	29.4	63.1	(60.3) カ月 N=225	0.0
(19) 出会い系アプリ・サイト	1.9	1.8	96.3	(22.3) カ月 N=58	0.0

※(2)はアンケート上では「2014年3月頃から」から「1999年以前から」までの各年月分172個の選択肢から選ぶ形式となっているが、分布表では煩雑に過ぎるため調査時点(2014年3月)の利用月数(「2014年3月」を選択した場合を1ヵ月とする)に換算したものを掲載した。